

高知市地域アクションプラン進捗管理シート

地域	高知市	項目	01地域の基幹品目の振興(①キュウリ・②メロン):1/5				
事業概要	農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。			事業主体	JA高知市、JA高知春野		
主な内容	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策	地域AP掲載ページ	10、11	指標	主業農家に占める認定農業者の割合(H20 40%) 基幹10品目の販売額(H19 99億円)	目標値(H23)	45% 99億円

実行支援チーム長		
所属	中央西農業振興センター高知農業改良	
氏名(連絡先)	川上 章一	088 (861-) 0711

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	①②ミナミキイロアザミウマの野外発生活長調査(4~3月) ①②黄化エン病対策協議会	①②防除意識の醸成	①②発生消長調査の実施(10日毎) ①②黄化エン病対策協議会(4/27)	①②防除対策の徹底に向けた意識啓発が図れた			
5月	①②黄化エン病対策処理の効果確認試験打合せ	①②試験実施体制の整備	①②試験実施に向けた打合せ(5/22)	①②役割分担など試験実施に向けた体制が整った			
6月	②現地検討会 ①②黄化エン病対策処理の効果確認試験(6~7月)	②基本管理の徹底	①②黄化エン病対策処理の効果確認試験の実施(6/2~7/8) ②現地検討会の実施(6/2) ①本部役員会(6/30)	②高温期の栽培管理について周知徹底が図れた ①21園芸年度の課題の共有化が図れた			
7月	①②21園芸年度での課題の洗い出し ①②黄化エン病対策協議会	①②生産者・関係機関での課題の共有化 ①②効果的な黄化エン病対策の周知	②本部役員会(7/9) ②市場との意見交換会(7/22) ②新規登録薬剤の説明会(7/1) ②新規登録薬剤の処理試験(7/13~) ②現地検討会(7/21) ①②黄化エン病対策協議会(7/29) ②果実品質査定会(8/12) ①②黄化エン病対策の実施	②21園芸年度の実績を検証し、関係者(生産者・JA・普及所)が課題を共有できた。 ②新規登録薬剤の情報を提供し、処理試験結果をから、新規登録薬剤の効果的な使用方法について生産者と検討できた。 ①②効果的な黄化エン病対策を周知できた。 ②新規登録薬剤の効果的な使用方法が周知できた。 ①②黄化エン病を防除できた	②新規登録薬剤の説明会 ②新規登録薬剤の処理試験(7月) ②現地検討会 ②新規登録薬剤の処理効果報告会	②新規登録薬剤についての情報提供 ②新規登録薬剤の高温期の効果的な使用法の検討 ②新規登録薬剤の高温期の効果的な使用法の周知	
8月							
9月			①本部役員会(9/7) ②本部役員会(9/24) ①②黄化エン病対策の実施(9/28~10/2) ①農業生産体制強化緊急整備事業事業計画作成(キュウリ袋詰機、堆肥散布機)	①22園芸年度の事業計画及び本部役員が決定し、活動計画・目標の共有が図れた ②22園芸年度の活動計画・目標を検討し、関係者(生産者・JA・普及所)で共有できた ①②黄化エン病を防除できた	①②22園芸年度の計画及び目標の策定	①②生産者・関係機関での計画・目標の共有化	

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	①22園芸年度の取り組み目標の設定 ①②現地検討会	①産地目標達成に向けた意識統一 ①②基本管理の徹底	①②発生消長調査の実施(10日毎) ②新規登録薬剤の処理試験(7/13~) ②現地検討会(10/5) ①現地検討会(10/14・17) ①本部役員会(10/22) ②果実品質査定会(10/27) ①農業生産体制強化緊急整備事業事業計画作成、ヒアリング(キュウリ袋詰め機、堆肥散布機) ②現地検討会(11/4) ①市場視察研修(11/5)	②秋口の栽培管理を周知徹底できた ①定植直後の栽培管理を周知徹底できた ①市場視察研修の具体的計画が決まった ②新規登録薬剤の効果的な使用法を周知できた ②加温開始時の栽培管理を周知徹底できた ①市場関係者との意見交換で消費地ニーズを把握できた ①摘芯後の栽培管理を周知徹底できた ①②黄化エソ病の防除ができた	②新規登録薬剤の処理効果報告会 ①市場視察研修 ②新規登録薬剤の処理効果報告会	②新規登録薬剤の秋口の効果的な使用法の周知 ①消費地ニーズの把握 ②新規登録薬剤の加温開始時の効果的な使用法の周知	
11月	①②現地検討会	①②基本管理の徹底	①現地検討会(11/12・13) ①②黄化エソ病対策の実施(11/9~13) ①農業生産体制強化緊急整備事業事業計画作成、ヒアリング				
12月	①現地検討会 ②22園芸年度の取り組み目標の設定	①基本管理の徹底 ②産地目標に達成に向けた意識統一					
1月	①②現地検討会	①②基本管理の徹底					
2月	①②現地検討会	①②基本管理の徹底					
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
01-1 地域の基幹品目の振興(①キュウリ・②メロン) 農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組む、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ・生産技術の高位平準化 ・産地のまとまりづくり ・難防除病害虫対策の確立 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策	農業生産体制強化緊急整備事業申請 キュウリ袋詰め機、堆肥散布機、事業費1,937万円 まとまりのある園芸産地育成事業 現地検討会の開催:(キュウリ)2回、(メロン)3回 ミナミアサミワ野外発生調査の実施:4カ所×24回(4/1~11/30) 黄化エソ病対策協議会の開催:2回 新規登録薬剤(アークランド)散布試験の実施:(メロン)果実品質査定会2回	事業採択に向けて協議中 現地検討会:キュウリ(進捗率40%、参加人数90人) メロン(進捗率60%、参加率62%) 発生状況の確認(進捗率75%) 課題と対策を共有できた(進捗率100%) 果実品質査定会(進捗率66%)	黄化エソ病発生状況(前年同時期の1/3) 新規登録薬剤使用農家率(30%)	主業農家に占める認定農業者の割合(45%) 基幹10品目の販売額(99億円)

地域	高知市	項目	01-地域の基幹品目の振興(①トマト・②イチゴ):2/5		実行支援チーム長				
事業概要	農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。			事業主体	JA高知市、JA高知春野		所属	中央西農業振興センター高知農業改良	
主な内容	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策	地域AP掲載ページ	10, 11	指標	主業農家に占める認定農業者の割合(H20 40%) 基幹10品目の販売額(H19 99億円)	目標値(H23)	45% 99億円	氏名(連絡先)	川上 章一 088 (861-) 0711

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIthの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月							
5月	②取り組み課題の設定および共有 ②栽培講習会の開催 -育苗時の炭そ病対策の徹底	②生産部会員・関係機関との取り組み課題の共有化 ②関係機関との連携による炭そ病防除対策の徹底(5月~9月)	②JA高知市介良支所苺部通常総会の開催(5月26日) 苺部事業計画として、産地間競争、消費者ニーズに対応するため、栽培技術の高位化、部会活動の活性化、有利品種「さがほのか」の検討など、次年度の取り組みについて共有された。 ②栽培講習会については未実施。 JA担当者と連携し、育苗時の炭そ病対策について、育苗圃の巡回指導により実施(5月29日)。	②栽培後半は、うどんこ病の発生が多く、被害果は出荷不可。薬剤の効果もあり期待できない。次作において、炭そ病防除対策に加え、うどんこ病についても発生生態も併せて周知し、予防の徹底が必要。			
6月			②JA担当者と連携し、育苗時の炭そ病対策について、育苗圃の巡回指導により実施(6月3日、11日、15日、29日)。 ②JA高知市五台山支所イチゴ部会研修会の実施(6月5日)	②随時、炭疽病と思われる株については、確認を実施。予防対策により、発生は確認されたが被害の拡大はなかった。			
7月	①黄化葉巻病対策(難防除害虫対策) ②平成21園芸年度の栽培結果の把握	①関係機関との連携による黄化葉巻病防除対策の徹底	①JA高知市一宮支所トマト部会研修会 -黄化葉巻病の発生状況の情報提供 -防除対策の確認 ②JA高知市介良支所苺部会現地検討会 -今後の育苗管理、炭疽病の病徴、防除薬剤等について情報提供 ②JA高知市介良支所苺部会出荷反省会、五台山支所苺部会総会 -21園芸年度の実績把握(収量、販売状況等)	①栽培終了時の蒸し込みや防虫ネットの設置等、予防対策の着実な実践を指導できた結果、21園芸年度は黄化葉巻病の発生が少なかった。 一方、生産者によっては、媒介するコナジラミ類への薬剤の防除効果が低いとの声がある。			
8月	①研修会 ②炭そ病発生状況調査(育苗時)		②JA担当者と連携し、育苗時の炭そ病対策について、育苗圃の巡回指導 7月下旬~8月始めに炭疽病の発生が増加(発生程度はほ場によって差がある)。 ②ヤガ類被害調査開始前からハスモンヨトウ等の発生消長の調査を開始 ①JA高知春野トマト反省会 -21園芸年度の実績把握(販売状況等) -トマト部会取り組みについて情報収集(加工品トマトジュレ生産、販売等)	②JAと連携した育苗圃の巡回により、炭疽病の早期発見・早期防除につなげた。しかし、梅雨明けの遅れ、高温多湿等の気象条件も重なり、炭疽病の拡大が懸念される。 また、「さがほのか」定植までの肥培管理状況を把握し、適正管理を指導できた。 ①加工品は県外の加工業者に委託。PRは生産者、部会等で実施。知事の試食やPRを希望する声あり。			
9月	②現地検討会の開催 ②実証・展示圃の設置(ヤガ類被害軽減対策)ヤガ類被害調査(9月~12月)	②産地の導入品種(さがほのか等)に係る栽培管理技術の検討 ②関係機関との連携による定植株および親株の炭そ病防除対策の徹底(9月~3月)	②ヤガ類被害軽減対策に係るハスモンヨトウ等の発生消長の調査の実施。		②現地検討会 定植以降の時期の開催に変更。		

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月			②実証・展示圃の設置 ヤガ類(ハスモンヨトウ等)の発生消長の調査および被害調査実施。	②有望品種「さがほのか」の栽培面積の増加(前年1ha→2ha)			
11月	炭そ病発生状況調査(本ぽ)		②炭疽病発生状況(本ぽ)聞き取り(実施中)。 ②JA高知市介良支所母部 ○現地検討会および栽培講習会 -「さがほのか」を主とした今後の管理、天敵利用と天敵に影響する薬剤等について情報提供 ○視察研修による県内産地との交流(栽培管理等について情報交換) (予定) ②ヤガ類(ハスモンヨトウ等)の発生消長および被害調査実施(12月まで)。 ②下級品の加工取引協議	②前年と比較し、発生が多い。 植え替え10%以上0戸→1戸 炭疽病以外の萎黄病他と思われる病害による植え替えも見受けられる。 ②下級品の取引によりパック詰め時間の短縮と農家所得の向上が期待できる。			
12月	①現地検討会 ②導入品種(さがほのか等)の果実品質状況把握	①県内産地の状況について情報収集及び関係機関との情報共有					
1月	②実証・展示圃の成績取りまとめ						
2月	②天敵利用技術習得への支援	②生産者・関係機関との環境保全型農業技術の定着に向けた技術情報の共有(特に天敵利用技術)					
3月	②平成21年園芸度の栽培状況の把握(中間) ②栽培講習会の開催	②生産者、関係機関との導入品種(さがほのか等)に係る栽培管理技術課題の洗い出し(中間) ②基本技術の徹底					

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞	アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
01-2地域の基幹品目の振興(①トマト・②イチゴ) 農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組む、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ①トマト・②イチゴ ・難防除病害虫対策 ②イチゴ ・有望品種の導入と転換 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 ②新たな販路開拓	まとまりのある園芸産地育成事業 ②現地検討会の開催2回 ・病害虫発生情報提供 ・有望品種を主体とした栽培管理情報 ・天敵導入時の情報提供 イチゴ(加工用)の新たな販路について業者との協議の場の設定および情報提供	②現地検討会(進捗率50%、参加率 87%) ②「さがほのか」等管理技術の周知(参加者14名) ②新たな取引候補:3社選定(進捗率33%:協議済1社)	②有望品種「さがほのか」導入面積1ha→2ha ②下級品(C品)の販路開拓を合意(加工用)	◆主業農家に占める認定農業者の割合(45%) ◆基幹10品目の販売額(99億円)

地域	高知市	項目	01-地域の基幹品目の振興(新高ナシ):3/5				実行支援チーム長			
事業概要	農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。			事業主体	JA高知市、JA高知春野			所属	中央西農業振興センター高知農業改良普及所	
主な内容	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策		地域AP掲載ページ	10、11	指標	主業農家に占める認定農業者の割合(H20 40%) 基幹10品目の販売額(H19 99億円)	目標値(H23)	45% 99億円	氏名(連絡先)	川上 章一 (088 861-0711)

月	内容	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIthの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等			
4月	・年間活動計画の検討(各ナシ関連部会) ・高品質果実生産モデル事業導入検討	・課題の共有	・高品質果実生産モデル事業説明(4/8、針木梨組合役員、4/10三里果樹部役員、4/24 春野果樹部) ・年間活動計画検討(4/24、春野果樹部、針木梨組合) ・ブランド力強化のための販売協議、事業導入への取り組み検討(4/16 参加者:JA高知市、針木梨組合役員、普及所)	・年間活動計画は各部会とも作成できた(三里は全年度末作成済み)。 ・主要3部会に事業説明を実施し、新規事業の周知が図れた。					
5月	・高品質果実生産モデル事業計画の作成支援 ・果樹産地計画作成支援	・課題の共有	・高品質果実生産モデル事業説明(5/13、針木梨組合) ・遮光ネット設置ほ視察研修(5/13) ・汚れ果軽減に関する試験内容検討(5/25)	・針木梨組合が高品質果実生産モデル事業を導入することとなった。 ・高品質果実生産のための果実現地試験を生産団体、JA、普及の3者で協力して実施することとなった。					
6月	・果樹産地計画作成支援 ・高品質果実生産のための果実袋試験ほ設置		・高品質果実生産のための果実袋試験ほ設置(6/13) ・ナシ産地計画原案作成開始	・果実袋試験については生産者の期待が大きい。 ・ナシ産地計画は、果樹構造改善計画に準ずるものを作成するかどうかを、役員に働きかけている。					
7月	・自動点滴灌水試験ほ設置 ・果樹産地計画作成支援 ・県外流通販売計画の検討	・流通関係者の協力、支援	・ナシ流通販売計画検討会(7/7、9) ・自動点滴灌水試験ほ設置(7/10) 高品質果実生産モデル事業申請、採択 ・糖度計導入 ・ナシ遮光ネット設置技術研修会(7/17)	・高知県商品計画機構の解散に伴い、共選共販(県外販売)の「まるはり」は、H21年度はJA高知市を窓口にして取り組む。他の商材や次年度以降の販売体制は、引き続き生産組合、JA、園芸連と検討していくこととなった。 ・みつ症対策の遮光ネットは、組合員が相互に協力し合って設置できた。					
8月	・遮光ネットの導入設置支援 ・果樹産地計画作成支援 ・栽培技術等研修		・設置作業支援班による遮光ネット設置作業(順次) ・針木ナシ産地振興協議会の結成、第1回ナシ産地計画検討会(8/13) ・生産者に対する産地計画作成の説明、産地計画策定に向けたアンケート調査開始(8/18~) ・ナシ加工品への取り組み検討(8/13)	・高知市、JA高知市、高知普及所、梨組合代表により協議会を結成し、構造改善計画に準じたレベルのナシ産地計画の策定を検討することとなった。 ・生産者との合意を得て、産地計画の基礎データの収集を開始した。 ・農家所得の向上策として、梨の下級品を加工するべく検討を開始し、2企業との連携を協議した。	<計画追加事項> ・他産業との連携によるナシの加工品開発と加工原料供給体制の構築 <その他> ・産地計画の作成目標(H21.3)	・加工品開発における技術支援 ・産業間連携に対するコーディネート ・加工原料供給に伴うハード支援(予冷庫、冷凍庫、一次加工にともなう施設、装置など)			
9月	・果実熟度調査と適期収穫への基礎調査 ・果実審査会、出荷時期検討会	・産地品質堅持意識の向上	・新品種検討会(9/18) ・出荷時期検討会、目慣らし会(9/24) ・リキュール用加工に要する労働力試算 ・産地計画策定に向けたアンケート調査回収	・生産者による食味評価をもとに導入品種を検討し、1品種を導入を検討している。 ・流通関係者とともに出荷時期、規格の確認を実施、技術の向上と共有化が進んだ。 ・アンケート調査回収率100%					

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	・目慣らし会 ・県外流通・販売活動の支援		・規格表遵守の徹底、選果選別技術の向上 ・流通関係者の協力	・まるはり事前審査会(10/5) ・まるはり出荷作業開始(10/7) ・技術課題解決実証ほ調査(10/7) ・リキュール用果汁作業確認(10/16) ・アンケート調査集計	・大都市圏の百貨店、高級スーパー27店舗で販売(10/10～) ・T酒造において試作(3回) 作業員はJA無料職業紹介事業を活用して確保		
11月	・栽培技術等研修会			・栽培技術ならびにアンケート調査結果の報告(11/25)	アンケート内容 ・平均年齢:64.2歳 ・ナシ園面積:21.7ha ・経営面積:65.8a/戸 ・10年後の産地の栽培面積意向:プラス15a ・後継者(予定含む)ある農家割合36% ・後継者の決まっていないナシ園面積:11.9ha		
12月	・整枝・剪定研修会						
1月	・休眠打破に関する情報提供		・休眠打破技術の確立				
2月						・遮光ネットの導入設置支援	
3月	・晩霜対策に関する情報提供		・資材・方法の検討				

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞	アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
01-3地域の基幹品目の振興(新高ナシ): 農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ・みつ症対策 ・産地の将来ビジョン作成 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 ・まるはりブランドの確立 ・流通チャンネルの維持拡大 ・下級品の加工仕向け (生産量650tの約2割130t)	・高知県高品質果実生産モデル事業(非破壊糖度計、遮光ネット)の採択 事業費255万円 ・生産技術課題試験ほの設置 ・産地協議会結成ならびに産地計画作成支援 ・流通販売チャンネルの確保 ・系統流通の協議 ・加工・販売に関するコーディネート ・高知県加工食品パッケージデザイン支援事業の採択 事業費500千円(補助金400千円)	非破壊糖度計1台(進捗率100%) 遮光ネット導入1.15ha(進捗率50%) 優良果実袋の選定 果樹生産構造改革計画作成 「まるはり」による高付加価値販売(県外百貨店等28店舗) 系統販売開始(園芸連特販課) リキュール、シャーベットの試作と商品化(2加工業者との連携) リキュールラベルの作成	信頼性の確保(利用3t) 選定果実袋次年度利用予定割合 % 計画認定 「まるはり」実販売実績:2792kg(昨年比94%) 園芸連への系統販売実績:225kg(昨年0kg) 生産販売実績あるいは果実加工実績 t リキュール 本、シャーベット 個	主業農家に占める認定農業者の割合(45%) 基幹10品目の販売額(99億円)

地域	高知市	項目	01-地域の基幹品目の振興(①ユリ・②グロリオサ):4/5			実行支援チーム長		
事業概要	農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。				事業主体	JA高知市、JA高知春野		
主な内容	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策		地域AP掲載ページ	10、11	指標	主業農家に占める認定農業者の割合(H20 40%) 基幹10品目の販売額(H19 99億円)	目標値(H23)	45% 99億円
所属	中央西農業振興センター高知農業改良普及所							
氏名(連絡先)	川上 章一			(088 861-0711)				

月	内容	計画(P)		実行(D)		評価(G)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等			
4月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会 ②【JA高知市 グロリオサ】まとまりのある園芸産地育成事業 病害虫防除研修会	①基本技術の徹底 ②防除基本技術の徹底。	①関西市場視察に変更。(4月23日~4月24日)市場到着時の開花状態により切り前の適期を確認。生産に反映させた。調査者は学びの場設置者始め生産者3名、JA2名。帰後は報告書を全員に配布。 ②目慣らし会後アザミウマ類防除等研修会(4月10日)目慣らし会でアザミウマ類による被害を受けたサンプルを用いて規格を全員で確認。防除については資料により説明。参加者は生産者31名、園芸連1名、JA5名、普及所2名。	①全員が新ショウガとの複合経営であるため、ユリの出荷者が少なく時間的な余裕もない中、効果的に情報収集し効率的に情報共有でき、高品質ユリ生産に対するモチベーションを保っている。 ②アザミウマ類の被害と秀品率との関係と、秀品率向上に向けた防除の徹底が周知されたが、参加の無かった生産者への周知が必要である。	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会	①基本技術の徹底	①出荷者が少ないため、現地検討会に変更。(5月21日)取引先の種苗会社とともに現地巡回し、切り前や出荷までの日数確認などを出荷のある4戸で実施。	①品質に影響する適切な切り前と単価に影響する出荷目安を、出荷者全員で現物視認により共有でき、高品質百合生産に対するモチベーションを保っている。	
5月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会	①基本技術の徹底	①出荷者が少ないため、現地検討会に変更。(5月21日)取引先の種苗会社とともに現地巡回し、切り前や出荷までの日数確認などを出荷のある4戸で実施。	①品質に影響する適切な切り前と単価に影響する出荷目安を、出荷者全員で現物視認により共有でき、高品質百合生産に対するモチベーションを保っている。					
6月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会 ②【JA高知市 グロリオサ】まとまりのある園芸産地育成事業 高温期施肥管理研修会	①基本技術の徹底 ②養分吸収特性に基づいた施肥管理の徹底。	①出荷が終盤になったため、球根会社での研修と小売店の調査に変更。ユリ品種、販売検討会(6月19~20日横浜)、小売店調査(千葉、川崎;参加者6人) ②日程があわず、未実施。	①高知県の産地や県外の産地が集まる会議で、技術的な情報交換ができた。春野のユリを買っている店舗と買っていない店舗で情報収集し、今後の取引を有利に進めるための取り組みのもとになる情報を得た。 ②実施無し。高温期の施肥管理については個別指導を実施。					
7月			①②出荷反省会 21園芸年度の実績把握(出荷量・販売状況など)	②部会との日程が合わず、夏季の研修会は未実施。 ①②21園芸年度の出荷量など、産地の実態・問題点・課題を関係者で共有できた。	②9月、病害虫対策についての研修会に変更。	②突発的に重要な全体会議(部会)が入ることが多く、日程が合わないことが多い。JAとの打ち合わせを十分行い、計画的に実施する。			
8月			②【JA高知市 グロリオサ】土佐の花きモニタリング事業 アンケート実施プランの検討 ②【JA高知市 グロリオサ】土佐の花きモニタリング事業 アンケート内容検討	②アンケートの狙いが明確になり、質問内容が提案された。役割分担ができた。 ②産地が作った案をもとに詳細に質問内容を調整して仕上げた。	②【JA高知市 グロリオサ】土佐の花きモニタリング事業 アンケート実施プランの検討 ②【JA高知市 グロリオサ】土佐の花きモニタリング事業 アンケート内容検討				
9月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 品目と土づくりについての研修会 ①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 課題や今後の方針検討	①基本技術の徹底 ①生産者、関係機関との課題共有	①栽培技術研修(全ほ場巡回) 品種毎の作付計画の検討と土壌診断結果を個別指導。 ②グロリオサ病害虫防除対策研修会は延期。 ②【JA高知市 グロリオサ】土佐の花きモニタリング事業 (株)大田花き、(株)東日本板橋花きにおいて購買動機に関するアンケート調査実施	①22園芸年度の品種の構成と土づくりのポイントについて農家、JA、普及が共通認識をもてた。 ②アザミウマ類の防除は、販売会議等で注意喚起できているが、防除対策の周知は不十分である。 ②回答213部。県で分析後、産地を交えて課題を抽出する。	②【JA高知市 グロリオサ】土佐の花きモニタリング事業 (株)大田花き、(株)東日本板橋花きにおいて購買動機に関するアンケート調査実施				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会 ②【JA高知市 グロリオサ】まとまりのある園芸産地育成事業 施肥管理研修会 ③【JA高知市 グロリオサ】まとまりのある園芸産地育成事業 本年度の活動計画の確認	①基本技術の徹底 ②養分吸収特性に基づいた施肥管理の徹底。 ③生産者、関係機関との課題共有	①目慣らし会を全戸巡回の現地検討会に変更。 灌水、温度管理など基本技術の徹底。参加9名。 ①【JA高知市 オリエンタルユリ】土佐の花きモニタリング事業の事業説明 ②施肥管理技術をアザミウマ類防除技術の研修会に変更して実施。参加28名。	①目指す品質の花を生産するための生育状況と今後の栽培管理を確認できた。 ①事業の説明を始めたころは産地は消極的だったが、最終的に積極的な姿勢にかわってきた。 ②品質向上にはアザミウマ類の防除が肝要であることを農家、JA、普及で共通認識をもてた。	①【JA高知市 オリエンタルユリ】土佐の花きモニタリング事業 事業説明		
11月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会	①基本技術の徹底	①【JA高知市 オリエンタルユリ】土佐の花きモニタリング事業 アンケート内容検討 ①【JA高知市 オリエンタルユリ】土佐の花きモニタリング事業 梅田生花市場において 産地の認知度と購買動機に関するアンケート調査実施	①アンケート調査に向けて内容など前向きな検討ができた。	①【JA高知市 オリエンタルユリ】土佐の花きモニタリング事業 アンケート内容検討 ①【JA高知市 オリエンタルユリ】土佐の花きモニタリング事業 梅田生花市場において 産地の認知度と購買動機に関するアンケート調査実施		
12月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会 ②【JA高知市 グロリオサ】まとまりのある園芸産地育成事業 厳寒期栽培管理研修会 ③【JA高知市 グロリオサ】まとまりのある園芸産地育成事業	①基本技術の徹底 ②温度管理等基本管理の徹底。					
1月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会 ①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 活動状況の把握	①基本技術の徹底					
2月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会 ②【JA高知市 グロリオサ】まとまりのある園芸産地育成事業 病害虫防除研修会	①基本技術の徹底 ②温湿度管理、防除管理の徹底。			①【JA高知市 オリエンタルユリ】土佐の花きモニタリング事業 調査市場未定 購買動機に関するアンケート調査実施 ②【JA高知市 グロリオサ】土佐の花きモニタリング事業 調査市場未定 購買動機に関するアンケート調査実施		
3月	①【JA高知春野 オリエンタルユリ】まとまりのある園芸産地育成事業 目慣らし会	①基本技術の徹底					

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
01-4 地域の基幹品目の振興(①ユリ・②グロリオサ) 農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ・基本的な栽培技術の徹底 ・病害虫防除の徹底 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策	◆まとまりのある園芸産地育成事業(三里、春野)研修等の開催:7回 ①ユリ(春野) 50千円:7回 ②グロリオサ(三里) 50千円:4回 ◆高知の花きモニタリング事業(三里、長浜)の導入 産地による市場アンケート調査 ①ユリ(長浜):11月末予定(関西1社) ②グロリオサ(三里):1回(関東2社)	◆まとまりのある園芸産地育成事業 研修会の開催 ①ユリ(春野):(進捗率 70%、参加率 100%) ②グロリオサ(三里):(進捗率 80%、参加率 73%) ◆土佐の花きモニタリング事業 ①ユリ(長浜):モニタリング調査(進捗率 20%) ②グロリオサ(三里):モニタリング調査(進捗率 50%)	②グロリオサ 秀品率 41%(H21.3月~8月) ①②モニタリング調査を通じてマーケットインの視点が 増えた。	主業農家に占める認定農業者の割合 (45%) 基幹10品目の販売額 (99億円)

地域	高知市	項目	01-地域の基幹品目の振興(水稲):5/5			実行支援チーム長				
事業概要	農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組み、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。				事業主体	JA高知市、JA高知春野		所属	中央西農業振興センター高知農業改良普及所	
主な内容	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策		地域AP掲載ページ	10、11	指標	主業農家に占める認定農業者の割合(H20 40%) 基幹10品目の販売額(H19 99億円)	目標値(H23)	45% 99億円	氏名(連絡先)	川上 章一 (088 861-0711)

月	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月		・水稲生育調査及び実証ほ調査 1水稲奨励品種決定試験ほ設置「供試品種7品種」 2「南国そだち」の植付時期・植栽密度及び肥料試験ほ設置 3「コシヒカリ」「南国そだち」5割減栽培試験ほ設置	・課題の共有、関係機関との連携 ・基本技術の徹底	・平成21年度水稲試験ほの設置 (関係機関:JA・稲作部・普及所) 1 水稲奨励品種決定試験(4/9「供試品種」高育70号、ナツヒカリ、南国そだち、高育71号、みねはるか、コシヒカリ、あきたこまち) 2 新品種「南国そだち」の植付時期(3/23・4/9)植栽密度(4/3:70株、50株)及び肥料試験ほ 3「コシヒカリ」「南国そだち」5割減栽培試験 ・稲作部会において生育状況報告及び栽培講習会開催(5/1・5/26)	・県内に適すると思われる品種について、その特性、生産力及び品種が適応する概略を明らかにし、奨励品種の可否を検討することができる。 ・極早生品種「南国そだち」を核とした高品質・安定生産に向けた取り組みに繋げる。 ・農地、水、環境保全向上対策(営農活動支援部分)において地域全体の農家による環境負荷低減に資する取り組みを行う。 ・基本技術の徹底を図ることで、高品質生産に向けて普及所、JA等から指導・助言を行うことができた。			
5月		・水稲生育状況調査:4月~10月	・基本技術の徹底(病害虫対策)	・生育は概ね順調である。早植ほ場では植え傷みの激しいところも見られ、生育がやや遅れているが、当初予想していたよりは回復している。スクミリンゴイの発生も一部で被害が見られる程度で、その他の病害虫も発生は少ない。	・本年の水稲生育進捗は、概ね平均並である。 ・本年度出穂予測は、「南国そだち」6月22日、「コシヒカリ」7月3日頃と思われる。			
6月		・水稲栽培講習会及び現地検討会	・基本技術の徹底(高温対策技術の検討) ・出穂後の水管理(早期落水防止)指導	・水稲展示ほ生育調査の実施 ・稲作部会において生育状況報告及び栽培講習会の開催(6/1・6/24)	・全般に生育が遅いと予測していたが、出穂は逆に速くなっている。「南国そだち」の早いもので6月14日から始まり、「コシヒカリ」も出穂のピークは6月下旬から7月初旬と判断した。穂揃いは出穂7日前後で一律に揃うと思われる。病害虫の発生は少なく、6月上旬から「先枯症」が目立ったが、特に問題もなく推移している。 ・本年度の水稲生育状況は概ね順調である。			
7月		・「南国そだち」現地検討会 ・早期稲収穫期(7月~8月) ・早場米のリレー出荷(南国そだち、コシヒカリ)の実践		・「南国そだち」現地検討会(7/2・7/8) 1 現地試験(高知市高須:肥料試験)について 2 農業技術センター試験(移植、施肥、ケイ酸資材等)について ○高知県農業生産体制強化緊急整備事業 計画作成、ヒアリング 大津RCの機能強化(乾燥機、糶摺り機)	・「南国そだち」は平均より8日早く17日から収穫が始まり、一期は収量品質ともに良く、1等米であった。その後は天候不順の影響で、登熟や収穫作業の遅れが見られた。特に「コシヒカリ」は登熟がまばらで一部倒伏も見られ、収穫が遅くなるほど品質が低下傾向である。			
8月				・早期稲「南国そだち」「ナツヒカリ」「コシヒカリ」収穫終了 ・平成21年度水稲展示試験ほの刈刈りの実施(現在:自然乾燥) ・県産米の県外販路拡大対策の実施(東京)稲作青年部2名参加(8/28・29) ・普通期 生育ステージは、出穂期~乳熟期である。(8月中旬) ○高知県農業生産体制強化緊急整備事業 計画作成、ヒアリング (もみすり機とり下げ、乾燥機のみ申請)	・全国一早い県産品種「南国そだち」の認知度を高めリレー出荷による安定供給によって県産米ブランドを消費者にPR出来た。			
9月		・水稲展示ほ収量、品質調査		・水稲展示ほ収量・品質調査の実施 ・普通期 生育は概ね順調である。 ○高知県農業生産体制強化緊急整備事業での大津RC乾燥機について、経済担当委員会(9/16)、認証理事会(9/25)で承認	・早期稲については一律水分値が低く、過乾燥であった。 ・普通期稲は一部でいもち病、コブノメイガの被害が目立つが、全体としては順調。			

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWI1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	・普通期収穫期(9月～10月)		○導入後の運用について ○費用対効果:事業効果の目標値の決定	○大津支所運営委員会 ○高知県農業生産体制強化緊急整備事業ヒアリング(乾燥機) ○大津ライスセンター乾燥機ヒアリング、補助金申請	・台風および天候不順により普通期稲の収穫は9月下旬から10月中旬にかけてピークとなり、平年より遅くなった。		
11月	・「南国そだち」成績検討会(今年度の反省と次年度計画等) ・水稲5割減栽培結果報告(エコファーマーの拡大と定着) ・水稲奨励品種成績検討(普通作物担当者会)	・「南国そだち研究会」と一体となった研究		・水稲5割減栽培達成者は高知市介良で21名、春野東諸木で64名となった。 ○高知県農業生産体制強化緊急整備事業採択 大津ライスセンター(乾燥機)	・介良地区は計画申請者全員が5割減栽培を達成したが、東諸木地区は農薬カウントオーバー4名、自己断念者5名の、計9名が達成できなかった。 カウントオーバーの4名は来年の取組みで達成する見込みはあるが、断念者のうち3名は、来年以降の取組みは不明。	○補助金内示(交付)決定 ○補助金交付申請 ・水稲栽培反省会	
12月	・平成22年度水稲栽培層の検討	・基本技術の徹底				○経済担当委員会 ○理事会報告 ・JA高知市稲作部総会、栽培反省会	
1月		・基本技術の徹底および、肥料・農業の再確認				○事業入札 ○解体工事、乾燥機据付工事 ・水稲5割減栽培計画(エコファーマーの拡大と定着) ・栽培反省会	
2月	・水稲育苗及び栽培講習会	・基本技術の徹底				○乾燥機据付工事 ・早生水稲育苗開始(中旬) ・南国そだち直播実証ほ設置(中旬)	
3月	・早生水稲育苗開始					○事業終了	

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞	アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
01-5 地域の基幹品目の振興(水稲) 農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、生産の高収量・高品質化やコスト高騰対策、高知ブランドのPRなど、品目ごとの生産・流通・販売上の課題の解決に取り組む、農家所得の向上やまとまりのある産地の維持を図る。	◆生産の高収量・高品質化、コスト高騰対策 ・実証ほの設置・調査 ◆高知ブランドをPRする流通・販売対策 ・「南国そだち」の販売促進	・高知県農業生産体制強化緊急整備事業採択 大津RC乾燥機 事業費4,005万円 ・実証ほの設置 水稲奨励品種決定試験「供試品種7品種」 「南国そだち」の植付時期・植栽密度及び肥料試験 「コシヒカリ」「南国そだち」5割減栽培試験 ・現地検討会、部会の開催14回 ・「南国そだち」の販売促進	・20年産早期稲の一等米比率 南国そだち78%、ナツヒカリ56%、コシヒカリ1.8% ・現地検討会・部会の開催(進捗率70%、参加人数210名)	・「南国そだち」の栽培面積拡大 34ha→56ha	主業農家に占める認定農業者の割合(45%) 基幹10品目の販売額(99億円)

地域	高知市	項目	02 ショウガの安定供給と消費拡大			実行支援チーム長				
事業概要	基幹品目であるショウガ（露地ショウガ、ハウスショウガ）の安定生産と供給、第二次産業との連携による消費拡大とPRのための取組を進め、農家所得の向上を図る。				事業主体	JA高知市、JA高知春野、高知市高知農業改良普及所 機械メーカー、加工業者		所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所	
主な内容	◆安定生産と供給 ◆第二次産業との連携による消費拡大とPR		地域AP 掲載ページ	10、11	指標	ショウガの販売額（H19 21.4億円） うち露地（11.8億円） うちハウス（9.6億円）	目標値 （H23）	23.3億円 11.8億円 11.5億円	氏名 （連絡先）	青木 敏純 （861 -0711）

月	内容	計画 (P)		実行 (D)		評価 (C)		改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
	記載時期: 年度当初、記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する □露地ショウガ ○ハウスショウガ	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等			
4月	<ul style="list-style-type: none"> □臭化メチル代替土壌消毒技術の実証ほ設置 □土壌消毒作業機械の現地検討・調査 □エコシステム認証取得に向けた部会の検討 ○ショウガ洗浄機の導入（こうち農業）補助申請、交付決定、入札 ○現地検討会 ○市場との意見交換会 ○販売促進活動（東京） 	<ul style="list-style-type: none"> □生産部会上部役員への動機づけ ○基本技術の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ■臭化メチル代替土壌消毒技術の実証ほ設置（4/1、カビ・クレープ・ダズネット・ソリッド・パー・デイトラック） ■土壌消毒作業機械の現地検討（4/1） ■エコシステム認証取得に向けた役員会（4/30） ●ショウガ洗浄機の交付検定・入札 ●現地検討会の開催 ●市場担当者との意見交換、東京での販売促進活動 	<ul style="list-style-type: none"> □普及所が主体にJA、各メーカーの協力で実証ほを設置できた。 □慣行の2条歩行型より新開発の5条歩行型が省力化されることを確認。 □エコシステム認証取得に向けて基本合意が図られた。 ○部会員が互いの栽培管理のポイントを助言するよう誘導できた ○本格出荷を控え、高品質生産意識を高めることでできた 					
5月	<ul style="list-style-type: none"> □臭化メチル代替技術実証ほ調査（5～11月） □安定生産技術研修会開催 □エコシステム認証取得合意形成への誘導 □ショウガ貯蔵庫増設のアンケート実施 ○女性農業者による販売促進活動（東京） 	<ul style="list-style-type: none"> □生産部会役員が一体となった合意の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ■臭化メチル代替技術実証ほ調査（4～5月、雑草防除効果・ガス濃度・地温等調査） ■安定生産技術研修会開催（5/12） ■アンケート調査方法、内容の検討 ●女性農業者が東京で販売促進活動を実施 	<ul style="list-style-type: none"> □普及所が主体となって調査し、何れの代替剤も定植初期の雑草防除効果が実用レベルであることを確認。 □普及所、JA、篤農家等が今後の管理を互いに学びあった（52名参加）。 □農家主体のアンケート調査を誘導 ○新需要開拓や加工品開発等への取組気運が高まってきた 					
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ショウガ洗浄機竣工、稼働開始 □ショウガ貯蔵庫増設のアンケート実施 □加工品開発に向けた関係機関との協議 ○現地検討会 ○高温期の品質低下要因調査（6月～9月） 	<ul style="list-style-type: none"> □第二次産業とのマッチング及び販売戦略の樹立 	<ul style="list-style-type: none"> ●ショウガ洗浄機の竣工6/16、稼働開始 ■アンケート調査の実施中 ●女性組織の結成を承認 ●現地検討会の開催 ●品質低下要因の調査方法等打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> ○女性農業者による販売促進やレシピ開発への弾みとなる ○高温期の品質低下対策への助言を行った。 					
7月	<ul style="list-style-type: none"> □ショウガ貯蔵庫増設アンケートまとめ規模決定、事業費見積り 		<ul style="list-style-type: none"> ■ショウガ貯蔵庫増設アンケート実施・まとめ ■エコシステム認証取得合意形成へ誘導（7/24） ■「いもち病」の物理的防除実証ほ設置者の協議（7/24） ■臭化メチル代替技術実証ほ調査（7～9月、雑草防除効果・ショウガ生育等調査） ●高温期の品質低下要因調査開始 ●加工品開発に向けた関係者との協議 	<ul style="list-style-type: none"> □5年後の作付計画、貯蔵施設利用計画等の意向を把握し、貯蔵庫増設の必要性が明確になった（今年度の増設は見送り）。 □普及所が主体となって臭化メチル代替技術の実証ほを調査し、実用上問題ないことを確認できた。 また、「教えと学びの場」を開催し、県内生産者に実証計画と中間結果を周知し、ショウガの安定生産技術について、学びあうことができた。 					
8月	<ul style="list-style-type: none"> □安定生産技術現地検討会開催 □貯蔵庫導入に向けた理事会協議 		<ul style="list-style-type: none"> ■品目別研究会（戦略品目等技術実証事業）の開催（8/6） ■安定生産技術現地検討会開催（8/19） ■ショウガ貯蔵庫増設計画書策定、ヒアリング実施 ●ショウガ加工品の検討と試作 	<ul style="list-style-type: none"> □「いもち病」の物理的防除実証ほをJAの協力のもと普及所が主体となって設置できた。また、ステップアップづくり事業導入の合意が得られた。 					
9月	<ul style="list-style-type: none"> □品目別研究会の開催 □エコシステム認証申請 □ショウガ貯蔵庫増設ヒアリング ○出荷反省会 □「いもち病」の物理的防除実証ほの設置 	<ul style="list-style-type: none"> □県域での取り組みへの拡大 ○品質低下原因の絞り込み、対策検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■「いもち病」の物理的防除実証ほの設置、JA広報での情報提供 ■生産者交流大会（まとまりのある園芸産地育成事業）での産地事例発表 ■エコシステム認証は、次四半期申請予定 ●高温期の品質低下要因調査結果のまとめ ●女性組織を正式に設立 ●高知県パッケージデザイン支援事業申請 	<ul style="list-style-type: none"> □普及所が主体に牛ふんたい肥を利用したいもち病対策を誘導し、5名の農業者が実践した。また、JA広報で、効果と導入方法を周知できた。 □「まとまりの生産者交流会」での篤農家の事例発表を普及所が指導し、地域内及び県下の産地のまとまりを農業者に意識啓発ができた。 □普及所が主体にエコシステム認証取得への生産組合役員の合意を誘導できた。 ○生産者、JAと連携して品質低下要因をピックアップできた。 ○加工品開発への関係者の意向を把握し、試作品開発とテスト販売を実施できた。 					

月	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期：年度当初、記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する □露地ショウガ ○ハウスショウガ	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		<input type="checkbox"/> 安定生産技術研修会開催 <input type="checkbox"/> 'いもち病'の物理的防除実証は調査(10~11月)		<input checked="" type="checkbox"/> 臭化メチル代替技術実証は調査実施 <input checked="" type="checkbox"/> 安定生産技術研修会の開催(10/6) <input checked="" type="checkbox"/> 食品産業研究会での素材の提案(10/15) ●高知県パッケージデザイン支援事業採択	<input type="checkbox"/> JA、メーカー等と協力し、普及所が主体となって、臭化メチル代替技術の評価のためのデータを収集できた。 <input type="checkbox"/> 研修会で普及所が主体となって、農業者に、①「いもち病防除対策」、②「エコシステム栽培認証での具体的な導入技術等の要件」、③「産業振興計画策定の背景とねらい、推進方針、計画の構成等の概要」を周知できた。 <input type="checkbox"/> 食品産業研究会(県内加工業者等)に、露地ショウガの特徴等を普及所がプレゼンした。	<input type="checkbox"/> 臭化メチル代替技術実証は調査(5~11月) <input type="checkbox"/> 安定生産技術研修会開催 <input type="checkbox"/> エコシステム認証申請 <input type="checkbox"/> 'いもち病'の物理的防除実証は調査(10~11月)	
11月		<input type="checkbox"/> ショウガ貯蔵庫建設に係る実施計画書の作成開始		<input checked="" type="checkbox"/> 'いもち病'の物理的防除実証はの調査実施		<input type="checkbox"/> ショウガ貯蔵庫建設に係る実施計画書の作成開始	
12月		<input type="checkbox"/> 実証は成績取りまとめ <input type="checkbox"/> 安定生産技術研修会開催 <input type="checkbox"/> 「こうち環境・安全・安心チェックシート」の実施 <input type="checkbox"/> ショウガ貯蔵庫増設の実施計画書案策定 <input type="checkbox"/> 次年度の取組内容検討	<input type="checkbox"/> 臭化メチル代替技術への移行拡大と安定生産 <input type="checkbox"/> 品質向上対策の周知			<input type="checkbox"/> 実証は成績取りまとめ <input type="checkbox"/> 安定生産技術研修会開催 <input type="checkbox"/> 「こうち環境・安全・安心チェックシート」の実施 <input type="checkbox"/> ショウガ貯蔵庫増設の実施計画書案策定 <input type="checkbox"/> 次年度の取組内容検討	
1月		<input type="checkbox"/> 品目別研究会の開催 <input type="checkbox"/> 都市部小学校での出前授業講師選定					
2月		<input type="checkbox"/> ショウガ貯蔵庫建設に係る実施計画書提出(国へ) <input type="checkbox"/> 都市部小学校での出前授業実施					
3月		<input type="checkbox"/> 今年度の進捗状況確認と次年度の計画策定 <input type="checkbox"/> 現地検討会	<input type="checkbox"/> 基本技術の徹底				

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
02 ショウガの安定供給と消費拡大 基幹品目であるショウガ(露地ショウガ、ハウスショウガ)の安定生産と供給、第二次産業との連携による消費拡大とPRのための取組を進め、農家所得の向上を図る。	◆安定生産と供給 <input type="checkbox"/> 臭化メチル代替土壌消毒技術の実証と普及 <input type="checkbox"/> いもち病防除対策の検討 <input type="checkbox"/> 貯蔵庫の増設 <input type="checkbox"/> 洗浄機の増設 <input type="checkbox"/> 生産技術の高位平準化 <input type="checkbox"/> 高温期の品質安定 ◆第二次産業との連携による消費拡大とPR <input type="checkbox"/> エコシステム栽培認証取得 <input type="checkbox"/> 「こうち環境・安全・安心チェックシート」の実施 <input type="checkbox"/> 消費拡大やPRを担う組織体制の整備	臭化メチル代替技術実証は設置・調査(戦略品目等技術実証事業)、品目別研究会開催(1回)	代替技術等の防除効果の実証と導入に係る課題整理と周知160名(進捗率70%)	臭化メチル代替技術の導入(ha)、臭化メチル使用量低減技術(難透過性フィルム)の導入(6ha)	ショウガの販売額(23.3億円) うち露地(11.8億円) うちハウス(11.5億円)
		いもち病の物理的防除対策実証は設置・調査(ステップアップづくり事業)、JA広報での情報提供	防除効果の実証とJA広報(9,500部発行)での情報提供(進捗率60%)	いもち病の物理的防除対策導入生産者(戸)、	
		役員会での指導・啓発・情報提供(2回) 現地検討会、研修会での指導・啓発・情報提供(3回)	役員会、現地検討会・研修会 出席者160名(進捗率80%)	エコシステム栽培認証(名) こうち環境・安全・安心チェックシート実施(名)	
		農商工連携強化支援 露地ショウガの加工素材としての特徴をPR	食品産業研究会(県内加工業者等参加者約50名出席)		
		こうち農業確立総合支援事業の採択 新ショウガ洗浄機(事業費2,033万円)	洗浄機の増強8台→10台(進捗率100%)	1日当たりの出荷可能農家の増加(32人→40人)	
		現地検討会の開催(新ショウガ:2回)	現地検討会の開催(進捗率6.6%、参加率100%)		
		高温期の品質低下要因の調査・検討:調査期間(6月~9月)、要因検討(反省会1回)	品質低下要因のピックアップ(進捗率100%)		
		女性組織の立上げ支援 加工品開発と販促支援 ショウガゼリーのPR(ふるさとまつり等) 高知県パッケージデザイン支援事業採択、400千円	女性組織の立上げ(進捗率100%) ふるさとまつりでの試食販売 538セット販売	○好評につき、本格販売が前倒し12/1~	

地域	高知市	項目	03ユズを核とした中山間農業の活性化			実行支援チーム長					
事業概要	中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大に対応できる施設整備や担い手の振興策等の「ユズ振興総合対策」の実施により、中山間地域の活性化を図る。				事業主体	JA高知市、高知県園芸連 JA高知市土佐山柚子生産組合		所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所		
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆ユズ搾汁施設の整備 ◆優良母樹の確保と優良苗の生産供給体制の整備 ◆出荷予測システムの見直しによる予測精度の向上と販売強化 ◆有機に準じた栽培支援 ◆ユズ振興計画の実現 			地域AP 掲載ページ	12、13	指標	ユズの販売額 (H19 1.6億円)	目標値 (H23)	1.7億円	氏名 (連絡先)	青木 敏純 (861-0711)

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5WHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・優良母樹の育成と苗木生産体制の再整備に向けての協議開始 ・ユズ定植研修会 ・搾汁施設の国費交付申請、産業振興推進総合補助金(上乘せ)申請・審査会 ・ユズ苗の接ぎ木及び接ぎ木研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の共有、関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユズ定職研修会(4/3 生産者30名) ・高知市関係職員連絡会 ・打ち合わせ会(4/30) ・強い農業づくり交付金内示(4/1) ・産業振興総合推進補助金事業審査会(4/22) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者が多く参加し、反応は良かった。後日、個別指導の依頼があり対応した。 ・地域APを関係者で共有できた ・実行計画の方向性と作成方法の合意が図られた ・関係機関の連携体制が整い、また、情報共有が図れた。 ・実践的なチーム体制が確認できた 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ユズチーム会の開催(原則、毎月) ・優良母樹の選定、育苗 ・青果出荷予測システムなど 		<ul style="list-style-type: none"> ・ユズチーム会の開催(5/12) ・優良母樹確保と苗木生産体制、重点支援対象者、研修計画、協力体制、調査研究ほか ・高知市関係職員連絡会 ・産業振興総合推進補助金採択通知(5/8) ・中山間連絡会(6/8) ・ユズチーム会の開催(6/9) ・栽培暦、研修計画、母樹選定など ・搾汁施設入札(6/10、12) ・緊急対策事業の活用を確認 ・新規栽培者重点指導(6/23、6/26) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規栽培者への栽培暦配布50部、初心者への個別巡回指導6月～、部会全体の技術研修7月、10月、視察研修8月、優良母樹選定8月など活動計画を確認。 			
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・優良母樹の育成と苗木生産体制の再整備の協議 ・搾汁施設工事入札 ・中山間連絡会 ・新規栽培者の巡回指導 ・果樹産地高度化緊急対策事業の活用(6～3月) 		<ul style="list-style-type: none"> ・ユズチーム会の開催(7/6、31) ・ユズ推進会の開催(7/10) ・ユズ現地研修会(7/10) ・緊急経済対策事業打ち合わせ(7/10) ・新規栽培者重点巡回指導(7/21、24) ・ユズ県選抜母樹複製苗鉢上げ(7/30) ・ユズ収量予測調査(7/31) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者団体とJA、市役所、普及所など関係機関が連携して役割分担しながら、計画は滞りなく進行している。 ・新規栽培者に対する指導は生産者団体からも評価を得ている。 			
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・母樹候補樹調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係技術職員との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・永野系複製母樹候補の調査(8/19) ・新興産地のユズ取り組み事例調査(8/21) 	<ul style="list-style-type: none"> ・複製母樹候補2系統7樹を選定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・追加事項 ・果樹産地高度化緊急支援対策事業ならびに国産果実加工需給安定化緊急対策事業への取り組みと産地計画の見直し 		
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・暫定母樹決定 ・果汁特性調査は設置 ・高知市土佐山柚子生産組合中央研修会(有機に向けた栽培支援、講演会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知、参加への誘導 	<ul style="list-style-type: none"> ・複製母樹(2系統7樹)の指定 ・中央研修会の開催(9/10)(ウイルス、養分吸収と施肥、防除等) ・鏡地区初級者対象のユズ栽培基本研修(9/28) ・国産果実加工需給安定化緊急支援対策事業申請 ・ユズ産地構造改革計画の変更案作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・複製母樹から2年後の苗木約5000本分の穂木を採取した。 ・生産力向上に必要な内容で、初心者、経験者とも有効であった。 ・手薄だった地区で実施し、受講者から高い評価を得たい。 			

月	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5WHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要な応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		<ul style="list-style-type: none"> 苗木生産体制検討 果汁特性調査 新規ならびに初級者の早期技術習得に向けた研修会 搾汁施設工事竣工、操業開始 	<ul style="list-style-type: none"> 果汁特性調査開始(10/16) ユズ酢玉の分類基準視察(10/22、安芸) 加工調整施設完成、稼働(10/30) 産地構造改革計画達成状況点検 国産果実加工需要安定化緊急支援対策事業の採択 	<ul style="list-style-type: none"> 加工調整施設改築により、衛生管理・省力化・生産性等の向上が見込まれる。 計画の中間点検ができた。 事業採択により、キロ3円(最大850t)の農家支援ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 追加事項 果樹産地高度化緊急支援対策事業ならびに国産果実加工需給安定化緊急対策事業への取り組みと産地計画の見直し 		
11月		<ul style="list-style-type: none"> 果汁特性調査 ユズ加工関係職員収穫体験(パートナーズ協定に基づく交流事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 果汁特性調査(10日毎に調査継続) ユズ酢玉規格表作成 パートナーズ協定に基づく収穫体験交流を実施(11/14、キュービー醸造、旭食品、旭フレッシュ) 搾汁施設の処理能力を超える出荷ピーク時75t(11/15) 	<ul style="list-style-type: none"> 規格表により、製品の向上と信頼の確保が見込まれる。 大豊作で処理能力を超える出荷量となった。出荷量の多い日曜・月曜対策が必要(出荷日の前進化、計画出荷) 			
12月		<ul style="list-style-type: none"> 果汁特性調査 					
1月		<ul style="list-style-type: none"> 剪定講習会 				<ul style="list-style-type: none"> ユズ生産加工検討委員会の開催 ユズ産地構造改革計画の中間評価、計画変更 	
2月							
3月		<ul style="list-style-type: none"> JA高知市土佐山柚子生産組合総会 母樹・苗木生産体制方針決定 幼木等剪定講習会 母樹管理・苗木生産等に関する研修会 果汁特性等調査結果の報告と提言 	平成22年度ユズ振興計画の説明				

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
03ユズを核とした中山間農業の活性化 中山間地域の基幹品目であるユズの生産拡大に対応できる施設整備や担い手の振興策等の「ユズ振興総合対策」の実施により、中山間地域の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ユズ搾汁施設の整備 ◆優良母樹の確保と優良苗の生産供給体制の整備 ◆出荷予測システムの見直しによる予測精度の向上と販売強化 ◆有機に準じた栽培支援 ◆ユズ振興計画の実現 	競争力強化生産総合対策事業(強い農業づくり交付金)と高知県産業振興推進総合支援事業の採択(事業費23,940万円) 果実加工需給安定化緊急対策事業の採択 優良複製母樹探索調査(のべ18人) (ほ場選抜3ほ場250本、1次選抜12本、2次選抜7本) 出荷予測定点ほ場調査(4ほ場) ユズチーム会の開催(7回) 果汁特性調査(5回) 栽培技術等研修会(11回)	加工調整施設の機能強化(進捗率100%) 搾汁能力の向上(1.25t→5t/時間) 産地全体で、3円/1kg、最大255万円を獲得 複製母樹2系統7樹選抜(進捗率100%) 生産予測(前年対比118%) 果汁特性調査(進捗率60%) 研修会参加者数196人	フル操業続く(処理能力30tに対し、40t) 搾汁率(16.4%→%)、経済効果(万円) 約5000本分の穂木を採取	ユズの販売額 1.7億円

地域	高知市	項目	04中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進			実行支援チーム長				
事業概要	集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。				事業主体	こうち型集落営農モデル組織 (七ツ淵、梅ノ木) 集落営農組織		所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所	
主な内容	●こうち型集落営農モデル組織の育成 ■集落営農組織の育成		地域AP 掲載ページ	12、13	指標	こうち型集落営農モデル組織 (H20 新規) 集落営農組織(累計) (H19 1組織)	目標値 (H23)	モデル 2組織 集落営農 10組織	氏名 (連絡先)	青木 敏純 (861-0711)

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	○こうち型集落営農モデル育成事業への申請(梅ノ木) □集落営農候補集落リストアップ(4~6月)	○候補集落の事業計画作成支援 □中山間関係職員連絡会などでの連携、情報共有	●梅ノ木: 集落座談会(4/15、4/19)等で地域の状況を整理し、計画作成を支援した(高知市中山間振興課、普及所)。 ●七ツ淵: 集落座談会(4/22)等で導入予定の事業内容と、集落ビジョンを検討した(普及所)。 ●ユズ新規栽培者向け定植講習会(4/3)	○梅ノ木: 組織設立に向けて規約作成等の取り組みを支援する。また、集落ビジョン・営農計画作成に向けた取り組み(視察研修、SWOT分析等)を進めていく。(中山間振興課、普及所) ○七ツ淵: チッパ・シュレガーを含めた集落ビジョン・営農計画に変更し、事業申請に向けた取り組みを行う。(中山間振興課、普及所) □集落営農候補集落: 中山間農業関係職員連絡会で検討する	○梅ノ木: 組織設立に向けて規約作成等の取り組みを支援する。また、集落ビジョン・営農計画作成に向けた取り組み(視察研修、SWOT分析等)を進めていく。(中山間振興課、普及所) ○七ツ淵: チッパ・シュレガーを含めた集落ビジョン・営農計画に変更し、事業申請に向けた取り組みを行う。(中山間振興課、普及所) □集落営農候補集落: 中山間農業関係職員連絡会で検討する		
5月	○モデル集落営農の方向性の検討(5~6月) ○こうち型集落営農モデル育成事業採択(梅ノ木)	□集落座談会による関係者の合意形成	●梅ノ木: モデル地区に採択5/25。集落座談会5/20で今後の進め方を検討(先に組織を結成。その後に取り組み内容を詰める。結成準備会、結成総会、集落営農等の視察研修の実施)。(中山間振興課、普及所) ●七ツ淵: 地域の主要メンバーと打合せを行い、ボイラー、堆肥場に加えて、チッパ・シュレガーを事業で導入することとなった(中山間振興課、普及所)。	○取組状況と今後のカジュール等を確認 ○梅ノ木: 出資金を募って運営していくことなど積極的な検討がされた ○七ツ淵: 地域の竹林整備にはチッパ・シュレガーが有効な機械であることを地域・関係機関とも確認できた(機械導入を計画)他地域にも集落営農を推進するひとつの手段(機械の共同利用と竹林等の有効活用)として利用する。 ○新規栽培者9戸(750本)に対し、今後の重点管理について指導し、反応があった。			
6月	○視察研修 □集落座談会の開催(6~8月)	□集落の意向把握	●中山間農業関係職員連絡会の開催(6/8) ●梅ノ木: 結成準備会(6/2)・結成総会(6/23)を開催。集落営農組織「梅ノ木ファーム」が結成。集落営農等の視察研修実施。(愛媛県伊予郡砥部町七折地区他6/20) ●七ツ淵: チッパ・シュレガーの実演会の実施。こうち型集落営農モデル育成事業における営農計画の申請。(7/7認定) ●育苗管理層の配布とユズ栽培管理巡回研修(6/23、24)				
7月	○集落営農先進地調査 ○導入可能な園芸品目の検討 ○中山間集落営農モデル事業申請 七ツ淵: ボイラー、堆肥場、チッパ・シュレガー □地域の状況調査(7~8月) 栽培作物、担い手など	○集落の方向性を反映した視察候補地の選定 ○集落意向を反映した候補品目の選定	●ミヤサキ: 視察研修の実施(越知町7/10、大豊町8/21)。鏡地区の農業委員、協力員を中心に、導入可能な品目かどうか検討 ●梅ノ木: 今後の集落営農の進め方の検討。SWOT分析を実施(梅ノ木ファーム役員会7/22、8/3)し、今年度取り組む事業を検討した(8/11、19)。臨時総会(8/25)で今年度の事業計画・予算を決定。構成員と関係機関で地域の実態調査を実施と内容の検討(9/6、9/25)。試験ほ・視察研修の検討(10/26)試験ほの設置(10/28) ●七ツ淵: 四方竹の鮮度保持について、地域・関係機関で検討。中山間集落営農等支援事業の申請と実施(ボイラー及び付帯設備の竣工)。集落座談会の開催(9/20四方竹の鮮度保持と今後の集落営農の進め方について)。	○ミヤサキ: 導入可能かどうか、意見は二分。除草作業が課題。視察研修結果を参考に導入可否を生産者に継続して検討してもらい、導入する場合は地域でまとめ、集落営農につなげていく。 ○梅ノ木: SWOT分析等により、地域の状況分析の意見が74項目出された。項目の73%が内部要因、特に強みが45%の割合であり、地域に対する思いが反映しているのではと思われる。 今後取り組む対応策・戦略のアイデアが40項目出され、出席者全員で重み付けを行い、今後の課題が明確になった。また、上位10項目を中心に絞って取り組むことが共通認識となった。 地域の実態調査(9/6)の結果も合わせて、今年度中に集落営農の具体的な活動、栽培品目等を検討し、ビジョン・営農計画を作成する。 ○七ツ淵: 事業の優先順位を、ボイラー→チッパ・シュレガー→堆肥舎に整理。交流活動や加工場以外の機械の共同利用を含め、これからの集落営農の進め方を検討していく。 □領家・唐岩: 視察を通じて集落営農への意識が高まってきたので、来年度にかけて栽培品目の勉強会を行い、機械等の共同利用等による集落営農の検討に関係機関から提起していく。 ○現地検討会では多くの質問もあり、各戸の疑問点に対応できた。			
8月	ボイラー、堆肥場入札・着工 □個別巡回による将来農業の意向調査(8~9月) ○集落座談会によるSWOT分析(8~9月)	□地域、将来に対する「思い」を引き出す ○意見が出やすい環境の確保					
9月	○ボイラー、堆肥場竣工、操業開始						

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
10月	○集落ビジョンの作成 (10~12月) ○園芸品目の確定 (10~11月) □集落座談会によるSWOT分析 (10~12月)			●梅ノ木：役員会において、今後の進め方(県外視察研修、ビジョン、営農計画の作成)を確認し、試験を行う品目を確定し(10/26)試験圃場の設置を行った(10/28) ●セツ淵：事業で導入したボイラー等も含め、加工場が稼動した。中山間地域集落営農等支援事業の申請を行った。(ツバ・シュレゲ) ■セツ淵：四方竹の鮮度保持について、関係機関が連携し試験調査を行い、園芸品目の生産安定を図った(地域アクションプラン05参照)	●梅ノ木：今後、視察研修、集落ビジョン・営農計画の作成を行っていくことになった。その際は、これまで取り組んできたSWOT分析、地域実態調査の結果が生かされると考える。 ■セツ淵：四方竹の鮮度保持対策調査・試験を取り組むことによって、流通、加工品温度管理等の課題が明らかになってきた。		
11月				●梅ノ木：協業により、ソラマメ(5a)、加工用ワサビ(1a)の植え付けを行った。(11/3、加工用ワサビ11月中) ○中山間農業関係職員連絡会を開催(11/17) ●加工用ワサビの定植の研修会を行った。(鏡地区での生産者13戸37a)	●梅ノ木：協業での栽培作業をスムーズに進めるため、栽培責任者を決めて進める必要がある。 ○中山間農業関係職員連絡会において、地域APのこれまでの実績を確認し、今後の進め方を検討した。 ●加工用ワサビの生産希望者が増えており、地域でまとまり、振興できる品目の一つと考えられる。		
12月							
1月							
2月	○モデル集落営農組織の結成 □集落ビジョンの作成	○集落に応じた組織形態の誘導 □集落の合意形成と意向反映					
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞	アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
04中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進 集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。	・モデル集落の育成 ・集落営農組織の確立とレベルアップ ・担い手確保 ・中山間地域での園芸振興	中山間集落営農等支援事業の採択(事業費544万円) こうち型モデル集落育成支援事業 集落座談会等の開催(21回 参加204人) 県職員55人、市職員26人、JA2人(延べ) ユズ栽培の導入啓発と管理指導(研修会等4回)	梅ノ木で協業組織が設立された。 試験栽培の開始 栽培面積：ソラマメ 5a、加工用ワサビ 1a 目標単収：ソラマメ 1.5t、加工用ワサビ 3t 目標粗収益：ソラマメ 20万円、加工用ワサビ 6万円 こうち型集落営農2集落で、75a分のユズ苗木が導入された。	協業での園芸作物の生産、農産物加工、受委託組織体制が整備できたモデル地区ができた。今後、地域での協業生産の拡大と他地区への波及が期待できる。 技術の習得効果がみられ、 %の苗木が良好な生育となっている。	モデル 2組織 集落営農 10組織

地域	高知市	項目	05四方竹のブランド化による中山間地域の振興			実行支援チーム長		
事業概要	全国的に希少価値の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。				事業主体	(財)夢産地とさやま開発公社 七ツ瀧加工組合		
主な内容	◆生産と地域加工の促進		地域AP 掲載ページ	12、13	指標	四方竹の販売額(七ツ瀧) (H19 1,800万円)	目標値 (H23)	2,000万円
所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所			氏名 (連絡先)	青木 敏純 (861-0711)			

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (I)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月	○七ツ瀧加工組合のボイラー、残渣処理施設整備計画の検討、計画作成支援 ○七ツ瀧加工組合のボイラー、堆肥処理施設の事業申請支援(中山間集落営農モデル事業) □各加工組合の20年実績の検証(5~6月)	○整備計画の内容確認 ○規模決定根拠など事業申請支援 □生産組合、園芸連、JAなどによる現状や課題の把握	○七ツ瀧加工組合の出荷目慣らし会での整備機器の検討 ○ボイラー、堆肥処理施設の規模決定資料の作成支援 □七ツ瀧加工組合の実績調査	○整備場所の確認 ○県内ボイラーメーカーの機器調査 □21年産竹生産量40t(昨年比20t減)			
6月	○七ツ瀧加工組合のボイラー、堆肥処理施設の事業申請支援(中山間集落営農モデル事業) チーム会の開催 四方竹の振興方向の検討	・販売先拡大戦略 ・加工所の新設の必要性有無 ・真空パック販売の方針 ・販促活動の強化 ・生産量の増加に対する対応策	中山間連絡会 四方竹の鮮度保持対策に取り組むことを確認。	工業技術センターへの協力支援依頼に向けた課題整理が必要			
7月	○七ツ瀧加工組合のボイラー、残渣処理施設整備入札、着工 △鮮度保持の現状整理、工業技術センターへの依頼		△工業技術センターとの協議(7/7) ・四方竹の鮮度保持(加工方法・保存方法・1次加工) △産地との協議(七ツ瀧)(7/15) ・工業技術センター協議結果に基づく検討 □現地研修会(土佐山)(7/23) ・四方竹園の肥培管理現地研修	△四方竹の鮮度保持対策を協議し、関係者で鮮度保持の現状と課題、対策・目標を共有化できた。 ・過去の鮮度保持試験結果を取得 ・加工試験及び鮮度保持試験を依頼(真空パック、塩蔵、チルド保存) △四方竹加工後のチルド保存について地区より意見が出されたので、関係法令の確認が必要。			
8月	□21年度の加工計画、出荷体制の検討 △鮮度保持対策の検討(工業技術センター) ・加工品(案)の検討	□前年度実績をふまえた計画の作成 ・生産者と組織の意識 ・加工品の必要性の確認 ・消費者の視点で見た加工品の検討 ・品質保持の取り組み	○中山間地域集落営農等支援事業の導入 8/10ヒアリング、8/19内示	○七ツ瀧加工組合のボイラー、チッパー、堆肥舎整備事業について大筋で承認を得た。堆肥舎は次年度事業とする。 ○省エネボイラーの導入により、効率的な加工が期待できる。			
9月	□加工品の絞り込み ○七ツ瀧加工組合のボイラー、残渣処理施設整備竣工 △品質保持対策の検討	□計画の妥当性 □加工主体との調整(販売体制の検討) △工業技術センターとの連携	□工業技術センターと鮮度保持試験に関する調査内容、役割分担などを確認(9/17) ○ボイラーの入札、着工、竣工。 △集落座談会で試験内容の確認(9/20) △四方竹園(一部南国市を含む)を巡回	□塩蔵・真空パックでの流通を検討し、鮮度保持試験に盛り込むこととなった。 ○ボイラー設置により、加工場の安定操作が図られる。 △生産者・関係機関が課題を共有できた。 △生産技術と意欲の向上を図った。			

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	<input type="checkbox"/> 四方竹目慣らし会 <input type="checkbox"/> セツ測筍加工組合の施設稼働開始 <input checked="" type="checkbox"/> 施設整備の必要性調査 <input checked="" type="checkbox"/> 品質保持対策調査	△工業技術センターとの連携	<input checked="" type="checkbox"/> JA高知市特作部会四方竹目慣らし会(10/2) 四方竹スケール(基準表)の作成配布と収穫上の留意点等を確認。 <input checked="" type="checkbox"/> 園芸連、JAが販促実施(大阪10/9,10) <input checked="" type="checkbox"/> 工業技術センターの協力を得て、加工から市場までの温度変化、新たな保存方法(真空パック、塩蔵)を含めた鮮度保持調査を実施(10/4~)。	<input checked="" type="checkbox"/> 目慣らしで、各地域による技術の高位平準化が図れた。 <input checked="" type="checkbox"/> ボイラー導入で作業効率が向上 <input checked="" type="checkbox"/> 関係機関で調査結果の検討を行い、現状での鮮度保持の留意点が整理された。11月に再度、調査を実施することになった			
11月	<input checked="" type="checkbox"/> 販売体制の確保 <input checked="" type="checkbox"/> 品質保持対策、系統外出荷品の流通状況、生産者数の把握		<input checked="" type="checkbox"/> 品質保持対策として、真空包装、チルド、冷凍等の鮮度保持調査を実施。 <input checked="" type="checkbox"/> セツ測筍加工組合がチッパーシュレッダーの導入を申請、内示(中山間地域集落営農等支援事業)。 <input checked="" type="checkbox"/> 関係職員連絡会で加工場の現状と課題、改善方法等を共有できた。	<input checked="" type="checkbox"/> 現在調査中 <input checked="" type="checkbox"/> 竹林の維持・改善が期待できる。来年度は土佐山の加工場の整備を検討することとなった(製氷機)。 <input checked="" type="checkbox"/> 地区内の加工場の検証と改善につながりつつある。			
12月							
1月	<input checked="" type="checkbox"/> 筍加工の状況、販売状況の確認	△加工状況の把握や販売状況の精査に基づく施設整備の必要性					
2月	<input checked="" type="checkbox"/> 生産拡大に向けた取り組み	□生産組織、生産者の意識の醸成					
3月	21年度実績の検証						

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) ＜講じた手立てが数量的に見える形で示すこと＞	アウトプット(結果) ＜インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと＞	アウトカム(成果) ＜アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと＞	目標(H23)
05四方竹のブランド化による中山間地域の振興 全国的に希少価値の高い四方竹を高知県のブランド品として育て、中山間地域の産業として振興するため、加工施設の整備等により、生産と地域加工の促進を図る。	◆生産と地域加工の促進 ・鮮度保持対策 ・作業効率の高い機械の導入 ・栽培技術の向上	中山間地域集落営農等支援事業の採択(事業費:ボイラー230万円、チッパーシュレッダー314万円) 品質保持調査と中長期保存方法の検討(消費期限、低温殺菌等)のべ24回、120人栽培技術研修会の開催(2回)	高性能ボイラーの導入(進捗率100%) チッパーシュレッダーの導入予定(進捗率50%) 品質保持及び中・長期保存に関する調査データの蓄積中	効率的な加工ができており、収穫量・処理量とも前年よりやや多い見込み。 セツ測 処理実績 55t 販売額 約2000万円 塩蔵、真空包装等、出荷方法の幅が増えつつある。 地区全体の加工場の検証と保存方法の改善につながり始めた。	四方竹の販売額(セツ測) 2,000万円

地域	高知市	項目	06鏡川源流域での有機・無農薬等E・C・O農業と菜草の里づくり(1/4)			実行支援チーム長	
事業概要	「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等E・C・O農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、E・C・O農業のブランド化を図る。			事業主体	高知市 団体 など	所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所
主な内容	◆有機市民農園の開設 「消費者意識の醸成によるE・C・O農産物の消費拡大」 テーマ目標: 消費者意識の醸成による既存販売拠点の入り込み客数の1割増		地域AP 掲載ページ	14、15	指標	有機JAS認定事業者数 (累計) (H19 2事業者)	目標値 (H23) 5事業者
氏名 (連絡先)	青木 敏純						(861-0711)

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月	◇有機農業実践者との打合せ ◇有機市民農園開設候補地の調査・選定 ◇市民農園に関する予算計上(6月補正)		◆有機農業実践者と市民農園の開設、開設後の技術支援について協議し、快諾を得る。 ◆有機農業実践者、市、普及所で耕作放棄地3カ所を調査し、市民農園候補地を選定。 ◆市エコ農業等営農指導員の選定作業・チーム会 ◆有機市民農園に関する予算計上(6月補正) ◆県地域づくり支援事業費補助金ヒアリング	◇有機市民農園の候補地を選定できた ◇補助事業の採択が未確定			
6月	◇市民農園の予算確定 ◇市エコ農業等営農指導員による技術支援 ◇補助事業の予算確定 ◇高知市有機農業推進ビジョンの検討		◆県地域づくり支援事業費補助金ヒアリング 予算確定(6月末)、 施工準備、地域支援体制調整				
7月	◇給排水工事発注及びほ場整備委託契約(運営管理、農園開設)		◆県地域づくり支援事業費補助金交付決定(21.7.15) ◆給排水工事契約準備 ◆ほ場整備業務委託契約準備 ◆国の有機農業総合対策事業(生産～消費対策までのモデルタウン事業)を要望	◆財源となる補助金の決定通知を得て、有機市民農園の整備に着手・着工できた。9月末には農園の整備終了見込み。			
8月	◇有機市民農園給排水工事 ◇有機市民農園ほ場整備業務		◆給排水工事契約～着工 ◆ほ場整備業務委託契約～着手 ◆利用者の公募事務(広報原稿・利用案内作成) ◆有機農業総合対策事業に着手(高知市地域有機農業推進協議会を設立)	◆国の「有機農業総合対策事業」に応募・採択され、有機農業の推進母体として、高知県有機農業研究会を中心に高知市地域有機農業推進協議会が設立された。 ◆有機市民農園の利用者を選定できた。	◇有機市民農園給排水工事 ◇有機市民農園ほ場整備業務 ◇有機農業推進協議会による推進体制		
9月	◇有機市民農園の利用者公募		◆有機市民農園の利用者を公募(9月10日～17日)し、47名選定(87名応募)				

月	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要なに応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		◇市エコ農業等営農指導員による技術支援 ◇有機市民農園の開設、運営	◇有機市民農園の運営管理	◆有機市民農園工事完了(21.10.5) ◆有機市民農園圃場整備業務完了(21.10.8) ◆有機市民農園利用者講習会(21.10.9) ◆有機市民農園管理運営業務委託契約(21.10.16) ◆有機市民農園開園式(21.10.16)	◆順調に有機市民農園の整備・開設ができ、入園した市民約50名と横浜新町小児童540名による利用が始まった ◆開園式の模様が多くメディアに取り上げられ、有機農業に対する市民意識の醸成に大きく寄与した		
11月				◆有機市民農園の管理運営	◆消費者(利用者)が有機農業に親しむ機会を得た ◆消費者(利用者)と農業者(高知県有機農業研究会)が農園を通じて交流を深めている		
12月							
1月							
2月							
3月		◇導入事業の実績報告 高知市有機農業基本ビジョンの策定					

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
06-1 鏡川源流域での有機・無農薬等ECCO農業と葉草の里づくり「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECCO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECCO農業のブランド化を図る。	◆有機市民農園の開設 「消費者意識の醸成によるECCO農産物の消費拡大」 ・市民農園の開設	市民が有機農業を体験できる機会の創出のため、有機市民農園を開設 ・高知県地域づくり支援事業採択(県補助金1,750千円) ・有機市民農園開設事業(4,382千円) ・有機市民農園管理委託(602千円) ・現況確認(3回/週)	高知市有機市民農園(長浜宇賀)の開設により、消費者(利用者)が有機農業に親しむ機会を得た(進捗率100%) ・全体面積=約4,000㎡ ・区画面積=50㎡×50区画 ・利用者数=市民約47名+横浜新町小学校540名	・消費者(利用者)と農業者(管理する高知県有機農業研究会)が農園を通じて交流を深めている	有機JAS農業者数(累計)5事業者

地域	高知市	項目	06鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と薬草の里づくり(2/4)				実行支援チーム長	
事業概要	「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。			事業主体	高知市 団体 など		所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所
主な内容	▲流通・販路の整備と新たな仕組みづくり 「流通・販路の整備(安定的に消費者にECO農産物を届けるための既存販路支援と新たな流通モデルの確立)」テーマ目標:①既存販売拠点(はりまや市場、オーガニックマーケット等)の入込客数の1割増加 ②新たな流通モデルの確立(1モデル)		地域AP 掲載ページ	14、15	指標	有機JAS認定事業者数 (累計) (H19 2事業者)	目標値 (H23)	5事業者
氏名 (連絡先)	青木 敏純						(861-0711)	

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月	△既存流通・販路(はりまや市場、オーガニックマーケット等)の運営支援(通年) △補助事業(地方の元気再生、ふるさと雇用)の導入に向けた調整・申請 △流通支援に関する予算計上(6月補正)	△移転に向けた協議	▲既存流通・販路(はりまや市場、オーガニックマーケット等)の運営支援(4~6月) ▲補助事業の導入に向けた調整(「地方の元気再生」、「ふるさと雇用」) ・チーム会 ▲既存流通・販路(はりまや市場、オーガニックマーケット等)の運営支援 ▲有機農産物の流通支援に関する予算計上(6月補正)、補助事業ヒアリング(県地域づくり支援事業)。「地方の元気再生」確定、「ふるさと雇用」保留 ▲オーガニックマーケット組合設立	△オーガニックマーケットの意思決定機能が明確になった			
6月	△補助事業の予算確定		▲既存流通・販路(はりまや市場、オーガニックマーケット等)の運営支援 ▲オーガニックマーケットの移転に向けて関係者で協議 ▲補助事業導入に向けた調整(「ふるさと雇用」保留中)	△補助事業の採択が未確定			
7月	△補助事業による商品開発・販路開拓		▲国の地方の元気再生事業「畑から食卓までプロジェクト(量販店内での有機農産物企画販売と販促グッズの作成)」に着手 ▲オーガニックマーケット出店者組合移転協議、移転先視察(21.8.22)と臨時総会(21.8.29)	▲「畑から食卓までプロジェクト」が国の地方の元気再生事業として正式にエントリー、事業着手に至った ▲オーガニックマーケットの移転先は、市が後援となって協議を進め、組合も積極的に移転先を検討している(8月の移転先視察と臨時総会で目処が立つ予定)			
8月		△補助事業の予算確定	▲「有機農業者育成事業」「有機農産物流通促進事業」(ふるさと雇用)の県ヒアリング対応	△「ふるさと雇用」を計画していた「有機農業者育成事業」と「有機農産物流通促進事業」は、県に採択されず、「22年度への継続審議」となり、今年度の事業実施がなくなった。			
9月	△オーガニックマーケット移転先決定		▲高知市地域有機農業推進協議会を設立し、国の有機農業総合対策事業(生産~消費対策までのモデルタウン事業)に応募した。	▲高知県有機農業研究会が主体となった民間主体の有機農業母体として高知市地域有機農業推進協議会を設立できた。	有機農業推進協議会による推進体制		

月	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5 W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		△既存流通・販路(はりまや市場、オーガニックマーケット等)の運営支援(通年) 補助事業導入による商品開発・販路開拓	<p>▲オーガニックマーケット移転先の確定</p> <p>▲国の地方の元気再生事業「畑から食卓までプロジェクト(量販店内での有機農産物等の企画販売と販売グッズの作成)」の実施店舗調査</p> <p>▲オーガニックマーケット移転に向けた移行作業</p> <p>▲国の地方の元気再生事業「畑から食卓までプロジェクト(量販店内での有機農産物等の企画販売と販売グッズの作成)」の実施店舗決定</p> <p>▲「有機農産物等流通促進事業」(ふるさと雇用)のH22予算計上作業</p> <p>▲オーガニックマーケット移転に向けた移行作業</p> <p>▲量販店企画販売に向けた販促グッズ製作</p>	<p>▲オーガニックマーケット出店者組合が、高知県立池公園(高知市池)に、22年1月に移転することとなった</p> <p>▲量販店での企画販売の実施店を調査し、事業効果の高い店舗をリストアップした</p> <p>▲オーガニックマーケット出店者組合の移転先への移行作業が順調に進んでいる</p> <p>▲事業効果の高い量販店(中心市街地にオープンした店舗)に決定し、店舗との打ち合わせや現地確認など、本格的な準備に入った</p> <p>▲高知市の22年度当初予算計上を目指して作業中</p> <p>▲オーガニックマーケット出店者組合により、決定した移転先への移行作業が順調に進んでいる</p> <p>▲販促グッズを製作し、企画販売の実施準備が整った</p>	<p>△「有機農産物等流通促進事業」(ふるさと雇用)に関する県とのヒアリング</p>		
11月							
12月							
1月		△オーガニックマーケット移転					
2月							
3月	△導入事業の実績報告 高知市有機農業基本ビジョンの策定						

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
06-2 鏡川源流域での有機・無農薬等Eco農業と薬草の里づくり「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等Eco農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、Eco農業のブランド化を図る。	流通・販路の整備と新たな仕組みづくり「流通・販路の整備(安定的に消費者にEco農産物を届けるための既存販路支援と新たな流通モデルの確立)」	<p>①既存販売拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーガニックマーケットの継続運営支援(現地調査5回、会議後援2回) <p>②新たな流通モデルの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物流通促進事業の予算事業化作業 ・地方の元気再生事業に採択(事業費262万円)有機農産物の企画販売店舗の決定(リストアップ作業、現地調査10回、企業打ち合わせ2回) 	<p>①既存販売拠点の整備(進捗率80%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーガニックマーケットの移転先確定 <p>②新たな流通モデルの構築(30%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有機農産物流通促進事業の予算作業中 ・企画販売予定 	<p>①既存販売拠点の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オーガニックマーケットの継続開催のメドがつき、有機農産物の販売拠点の一つとなることが期待される。 <p>高知市地域有機農業推進協議会の設立</p>	有機JAS農業者数(累計)=5事業者

地域	高知市	項目	06鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と薬草の里づくり(3, 4/4)			実行支援チーム長				
事業概要	「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。				事業主体	高知市 団体 など				
主な内容	●鏡川源流域での有機の里づくり テーマ目標: ECO栽培農家数11戸→60戸		■薬用植物栽培の導入		地域AP 掲載ページ	14, 15	指標	有機JAS認定事業者数 (累計) (H19 2事業者)	目標値 (H23)	5事業者
所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所									
氏名 (連絡先)	青木 敏純 (861-0711)									

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	○鏡村直販組合研修会		●鏡村直販組合青果部会研修会 ・チーム会	○有機農業について意識啓発できた □ホソバオケラは、収益性・種苗確保等、未確定部分が多いため普及所からミシマサイコの導入を提案	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	
5月							
6月		○中山間チーム会(有機の里づくり) ○高知市有機農業推進ビジョンの検討 □薬草導入啓発(農業協力委員会)		●中山間連絡会 ■農業協力委員会	□ホソバオケラにこだわらない取り組みがスタート ○薬草導入、有機農業の推進方法を検討し、関係者で課題と目標を共有できた。薬草を集落営農の有望品目として農業協力委員会で提案する。		
7月	□薬草産地視察	□農家の主体性を引き出す	■鏡地区の農業協力委員を中心に、ミシマサイコの産地(越知町、大豊町)を視察し、導入可否を検討した。 ●土づくりの重要性を確認し、堆肥センターの機能強化を検討	□薬草の導入は、産地調査を通じて労力面、収益面、作業性など複数の角度から集落単位での導入可能性を議論できた。	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等		
8月	○中山間チーム会(有機の里づくり)		●有機JAS認証の取得(公社)生産者グループ体制(モコモコグループ)の拡充と栽培履歴記帳の推進	○夢産地とさやま開発公社が有機JAS認証を取得したことで、生協を中心に有機農産物を全面にだした販売促進が可能となった。			
9月	□薬草導入決定		●鏡村直販組合が、出荷品への生産履歴表示や有機農業について事前研修会を開催した後、十和おかみさん市、環境保全型畑作振興センターを視察。	○消費者に安全・安心な農産物を提供するため、環境に配慮した栽培への意欲が高まった。			既存堆肥施設の調査 堆肥原料となる未利用資源の調査 ○市場販売ルートの確保 (県内外販売およびネット販売の強化)

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)		
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
10月	○中山間チーム会 (有機の里づくり)	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
11月								<input type="checkbox"/> 薬草導入への支援 <input type="checkbox"/> 鏡村直販組合にHP開設 <input type="checkbox"/> 栽培指針などの検討・栽培履歴記帳の推進
12月								<input type="checkbox"/> 中山間チーム会 (有機の里づくり) <input type="checkbox"/> 栽培履歴様式の検討 (役員会) <input type="checkbox"/> 栽培履歴様式の検討 <input type="checkbox"/> ホソバオケラ栽培に関する協議 (普及、役場、公社、牧野等) <input type="checkbox"/> ミシマサイコ栽培に関する検討会
1月	○中山間チーム会 (有機の里づくり)	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
2月								<input type="checkbox"/> 鏡村直販組合総会で履歴様式を決定
3月								<input type="checkbox"/> 堆肥センター修繕計画の検討 <input type="checkbox"/> 鏡村直販組合総会で履歴様式を決定 高知市有機農業基本ビジョンの策定 <input type="checkbox"/> 薬草の試作開始

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
06-3 鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と薬草の里づくり 「平成の名水百選」に選定された「鏡川」源流域を中心に、有機・無農薬等ECO農業に関する市民の意識の醸成や産地の形成、流通・販売の確立に向けた取組を進め、ECO農業のブランド化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ●鏡川源流域での有機の里づくり 鏡村直販組合での生産履歴記帳の啓発 ■薬用植物栽培の導入 栽培者の掘り起こし、啓発 	鏡村直販組合研修(総会、研修会、視察)のべ4回 検討会、ほ場調査のべ4回	研修会への参加者125人 ほ場調査への参加者55人 ホソバオケラの試験栽培を検討中。7a	鏡村直販組合で、栽培履歴の記帳を推進する方針が明らかになった。	有機JAS認定事業者数(累計) (5事業者)

地域	高知市	項目	07「田舎レストラン」による地産地消の推進			実行支援チーム長	
事業概要	安全・安心な地域農産物を利用した料理を提供する「田舎レストラン」を開設し、地産地消を推進する。			事業主体	JA高知春野		
主な内容	◆「田舎レストラン」の開設 (場所: JA高知春野 敷地内)	地域AP 掲載ページ	14、15	指標	目標値 (H23)		
所属	中央西農業振興センター 高知農業改良普及所						
氏名 (連絡先)	青木 敏純 (861-0711)						

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	<ul style="list-style-type: none"> 旬の素材を使ったメニュー作成 関係機関による打合せ チーム会の開催(全体構想協議) 地産地消と伝統料理の立食パーティー 	<ul style="list-style-type: none"> 春野の食材活用 関係機関の現状認識の共有 JA、婦人部の役割とタイムスケジュールの共有 	<ul style="list-style-type: none"> 旬の素材を使ったメニュー6品作成・試食 チーム会の開催 担当者、役員でJA内部協議4/30 女性部総会4/30 事業目的の説明、地産地消と伝統料理の立食パーティー 	<ul style="list-style-type: none"> 役員出席のもと、事業の取組みについて意識統一を図る 女性部長が説明し、女性部が田舎レストランに取り組むことを決定 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 旬の素材を使ったメニュー作成 チーム会 経営収支、運営母体の検討 アンケート調査 	<ul style="list-style-type: none"> 婦人部役員会での合意形成 従業員数、客席数の積算根拠 	<ul style="list-style-type: none"> 旬の素材を使ったメニュー5品作成・試食 チーム会(JA、市、普及)5/7 経営収支、運営方法の検討 JA担当者内部協議(経営収支)5/20 アンケート調査5/25~30 Aコープ来店者及び組合員414件 	<ul style="list-style-type: none"> 課題・タイムスケジュールを確認できた アンケート調査を行う事で決定。 レストランに対する期待大90%以上が利用希望 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> 経営収支の検討 レストラン、加工場の利用計画、規模決定根拠の検討 直販部との協議(惣菜の出荷) チーム会 全体構想の策定 女性部レストラン実行委員会(運営母体の検討) コンサル導入の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 無理のない利用計画、経営収支 コンサルとの仲介 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査のまとめ 経営収支の作成 直販部役員会へ事業概要の説明6/4 総菜出荷の了承を得た 女性部レストラン実行委員報告6/9 女性部レストラン実行委員会へ説明 運営目的、方法、経営収支 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果に基づく経営収支を作成できた 惣菜出品者へ説明会を開催して意見を聞く、技術研修会の開催が必要。 女性部役員収支確認済、次回の実行委員会で最終確認 6月22日、運営目的、方法、経営収支を説明 			
7月	<ul style="list-style-type: none"> 全体構想の市への提出(高知市開発審査会) 旬の食材を使ったメニュー作成 JA理事会での事業検討 		<ul style="list-style-type: none"> 地域食材供給施設(道の駅十和)の視察 	<ul style="list-style-type: none"> レストラン経営への助言をいただくとともに、経営に対する姿勢を問われた。 			
8月	<ul style="list-style-type: none"> 高知市開発審査会 旬の食材を使ったメニュー作成 チーム会 開発審査会後の方針確認 	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール、役割などの共有 	<ul style="list-style-type: none"> 高知県産業振興アドバイザー制度を活用し、(株)四万十ドラマの畦地社長の講演会を実施。 高知市都市開発審査への承認申請(事業計画の提出)、許可 実行委員会(3回、経営収支の見直し、計画の見直しなど) 	<ul style="list-style-type: none"> 審査会に向けて事業計画の作成など、実行委員会と関係機関が連携して取り組めた。 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> 旬の食材を使ったメニュー作成 チーム会 全体構想・概算事業費の確定 22年事業実施に向けたJA理事会承認 希望事業の確定 	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果の算定 	<ul style="list-style-type: none"> JA経済委員会で現計画内容での承認を保留(継続検討を要する課題扱い) 実行委員会3回 女性部の総意を求める説明会を開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 経営規模や運営方法等に支障がないよう協議・検討を重ね、意欲ある人を核とした運営組織を結成するなど、女性部主体のレストラン構想の策定・実行を支援する。 女性部会で検討の結果、女性部によるレストラン経営の実施を否決。 			

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要な応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	◇高知市への予算要望 ◇チーム会 産業振興推進総合補助金の活用協議			●JA役員と女性部役員との協議	○「春の里」での加工品販売、総菜と弁当の出品を検討中。		
11月							
12月	◇高知市の予算計上						
1月							
2月							
3月	◇2-2年度予算の議決(高知市、県)						

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>	アウトプット(結果) <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	アウトカム(成果) <アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと>	目標(H23)
07「田舎レストラン」による地産地消の推進 安全・安心な地域農産物を利用した料理を提供する「田舎レストラン」を開設し、地産地消を推進する。	◆「田舎レストラン」の開設 ・都市計画法の建築許可 ・建築基準法の確認済証 ・提供メニューの開発 ・レストランのニーズ調査 ・経営収支の検討	・都市計画法第42条第1項の規定による建築等の許可申請、建築確認申請 ・チーム会、アンケート調査、規模・経営収支の検討等 ・メニューの検討(のべ5回) ・来店者、組合員へのアンケート調査 414人	・高知市都市開発審査会承認 ・地域食材を使ったメニュー開発(30品) ・レストラン利用希望(90%)	「春の里」への総菜、弁当の出品を検討し始めた。出品を通じて、組合員や消費者の評価を得ながら、将来のレストラン整備を模索することとなった。	

地域	高知市	項目	8 稲ホークロップサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活					実行支援チーム長			
事業概要	稲WCS（稲発酵粗飼料）の生産・供給により、酪農家の粗飼料自給率の向上を図るとともに、稲WCSを給餌した牛乳として付加価値を高めることで、酪農家の経営安定を図る。			事業主体	高知市酪農業協同組合			所属	中央家畜保健衛生所		
主な内容	酪農飼料の自給率の向上及び牛乳の高付加価値化		地域AP掲載ページ	60~61	指標	飼料稲の栽培面積	目標値(H23)	30ha	氏名(連絡先)	吉田史孝	088-(852-7730)

月	内容 記載方法等	計画 (P)		実行 (D)	評価 (C)	改善 (A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する ・一期作実証 40a移植(4品種×10a) ・稲生産者 事業展開と採算性の検討 ・酪農家 事業展開と採算性の検討	記載時期：年度当初 記載内容：実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期：四半期毎 記載内容：実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期：四半期毎 記載内容：5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期：四半期毎 記載内容：実施後の分析、検証結果を基に必要なに応じて変更した実施計画	記載時期：変更計画の策定後 記載内容：変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月	・稲生産者と酪農家の生産会議 事業計画協議 供給利用契約 ・水田生産調整、飼料生産関連補助事業の弾力的な運用を国へ要望 特に地域の特徴となる二期作権利田や再生稲への運用	・価格差が10倍の米と飼料補助事業なしでは耕畜連携の飼料生産・利用は不可能	・一期作実証 4月15日 ・稲生産者検討会 4月27日 ・酪農家検討会 4月16日 ・耕畜会議 5月13日 取引価格で折り合えず、協議は継続	・農林水産省への直接交渉を検討			
6月	・強い農業づくり交付金(専用コンバイン、ラップマシン)の交付決定 ・産業振興推進総合補助金(上乘せ)交付申請審査会 ・二期作、再生稲栽培計画		・耕畜会議 6月9日 耕種の経費試算を説明。畜産作付け拡大の要望 ・耕畜会議 6月19日 畜産の経費試算を説明。耕種の提案をほぼ受け入れるが、組合と相談のうえ返事。 ・耕畜会議 6月30日 ・今年度計画 二期作5ha、再生稲 ・耕種会議(栽培計画、組合、普及所)				
7月	・専用コンバイン・ラップマシンの導入 入札、売買契約、納品 ・一期作実証ほ(10a×4) 収穫、WCS調製、配送 再生稲の栽培(施肥、水管理)	・7月中～下旬の収穫には、機械が間に合わない。 四国クボタ収穫デモ(依頼済)	・産業振興推進総合補助金(上乘せ)審査会 7月21日 ・一期作実証ほ(10a×6) 収穫、WCS調製、配送 7月 ・二期作(南国そだち後) 8月3日 移植、栽培管理 5ha ・再生稲(コシヒカリの後) 8月上旬 栽培管理 17ha ※以上報道各社取材、報道 ・機械の入札、売買契約 8月27日	・産業振興推進総合補助金採択通知(→畜産振興課) 8月10日 ・総合補助金採択通知後、機械導入日程が厳しかったが、9月23日の収穫日には間に合う。	・産業振興推進総合補助金(上乘せ)事業採択申請審査会 ・一期作実証ほ(10a×6) 収穫、WCS調製、配送 再生稲の栽培(施肥、水管理)		
8月	・二期作 移植、栽培管理 ・再生稲(コシヒカリの後) 栽培管理				・専用コンバイン・ラップマシンの導入 入札、売買契約、納品(9月中旬までに納品) ・二期作 移植、栽培管理 ・再生稲(コシヒカリの後) 栽培管理		
9月	・再生稲収穫、WCS調製、配送		・耕畜連携会議 9月23日 ・機械納品 9月23日 ・再生稲収穫 15ha 9月23日～10月				

10月	・再生稲収穫、WCS調製、配送			・収穫は再生稲15ha、5haと当初の計画を達成。	
11月	・二期作稲収穫、WCS調製、配送 ・二期作稲収穫、WCS調製、配送 ・21年度稲WCS生産の実績とりまとめ		・二期作稲収穫 5ha 10月20日～11月1日		
12月	・耕畜連携会議（稲生産者、酪農家） 21年度実績 22年度計画	・初年度は再生稲が主。 収量の増大と安定のため、一期作・二期作へのシフトが必要。	・21年度稲WCS生産の実績とりまとめ ・耕畜連携会議（稲生産者、酪農家） 12月中旬予定 21年度実績 22年度計画	・耕畜連携会議にて、23年度目標30ha達成に向けて来年度の生産計画を協議。（予定）	
1月					
2月	・コントラクター（受託組織）化への検討 (株)鳥取東部コントラクター組合視察	・東部コントラクター組合では100haの飼料稲生産を受託			
3月	・22年度一期作 準備 播種等				

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット（投入） 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット（結果） 〈インプット（投入）により、具体的に現れた形〉	アウトカム（成果） 〈アウトプット（結果）等を通じて生じる〉	目標（H23）
8 稲ホールクローブサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活 ●稲WCS（稲発酵粗飼料）の生産・供給により、酪農家の粗飼料自給率の向上を図るとともに、稲WCSを給餌した牛乳として付加価値を高めることで、酪農家の経営安定を図る。	●耕種農家（稲生産者）と畜産農家（酪農家）の連携 両者共収益がでるシステム ●高価な専用機械の導入	●耕畜連携会議 昨年来より稲生産者（耕）での検討会、酪農家（畜）の検討会及び耕畜両者の検討会を重ねる。 ●総合補助金（国補への上乗せ）の事業採択	●耕畜連携 6月30日の耕畜連携会議で、両者の合意が成立。 21年度20ha、23年度目標30haに向けて7年間の契約を結ぶ。 ●専用機械を導入 9月23日納品。すぐに再生稲の収穫に取りかかる。	●耕畜連携 水田利活用自給力向上事業で稲WCSに8万円/10a、今年助成の2倍超の水準に。 この事業も基に来年以降、作付け計画に弾みが予想。 ●21年度実績 再生稲 15ha 二期作稲 5ha	●平成23年目標 飼料稲の栽培面積 30ha

地域	高知市	項目	9 乳製品の開発による新しい酪農経営モデルの創出					実行支援チーム長	
事業概要	地場産品を活用した安心・安全な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。				事業主体	高知市酪農農業協同組合			
主な内容	◆地場産品による生乳加工品の製造・販売 ◆観光地及び教育の場としての牧場の活用		地域AP 掲載ページ	62~63	指標	菓子類の販売額	目標値 (H23)	500万円	所属 中央家畜保健衛生所 氏名(連絡先) 吉田 吏孝 (088-852-7730)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
	内容 記載 方法等	実施計画 実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
5月	・菓子づくり勉強会発足 メンバー選定 何をつくるか(消費者ニーズの把握) 製造機械の選定 どのように売っていくか(集客) 採算性の検討		5月27日 第1回菓子づくり勉強会開催 ・メンバー 高知市酪農協岡崎牧場主 実行支援チーム員			
6月	・マーケティングアドバイザーの選定、交渉		・マーケット、経営分析のアドバイザー ・年に6回(奇数月)に開催 ・21年度は、事業導入への学習期間 6月17日 実行支援チーム会 ・牧場主から事業実施を年内にしたい。 →早期導入をめざす。経営分析・マーケットのアドバイスは必要。まず、マーケットアドバイザーを大原氏で進める。 ・高知市の緊急雇用対策適用を検討。			
7月	・第2回菓子づくり勉強会 マーケティング SWIH協議	・マーケティング専門家のアドバイス 手法			・産業振興アドバイザー制度申請 7月23日 アドバイザー 大原一郎 第1回 8月5日 第2回 8月27日 第3回 9月10日 第4回 9月29日 第5回 10月20日	
8月			・第1回アドバイザー、牧場チーム会 8月5日 ・第2回アドバイザー、牧場チーム会 8月18日	・アドバイザー制度申請を確実に 行い、今年度の事業化へと進めたい。		
9月	・第3回菓子作り勉強会 マーケティング結果の分析 販売品目、量、値段	・マーケティング専門家のアドバイス 分析	・酪農教育ファーム学校説明会 8月 ・第3回アドバイザー、牧場チーム会 9月7日(香川県視察含む)			

10月	第4回菓子作り勉強会 採算性の検討	経営分析専門家のアドバイス	第4回アドバイザー、牧場チーム会 10月2日		産業振興アドバイザー制度変更申請 10月21日 アドバイザー 大原一郎 第6回 11月17日 第7回 12月14日 第8回 1月18日 第9回 2月15日 第10回 3月15日
11月			第5回アドバイザー、牧場チーム会 10月19日		
12月			【酪農教育ファーム受入 7校、375名】 【酪農教育ファーム受入 6校、414名】 第6回アドバイザー、牧場チーム会 11月17日 総合補助金審査会 11月20日 総合補助金申請 (高知市酪農農協→高知市→県)		
1月	第5回菓子作り勉強会 採算性の検討	経営分析専門家のアドバイス			菓子製造機器類の入札、契約 店舗改装 菓子製造機器類据付 菓子づくり研修・実習 「卵菓子工房 卵屋」
2月					菓子づくり研修・実習 「岡崎牧場」 商品試作 牧場ファンクラブ組織化
3月					岡崎牧場ソフトクリーム&菓子店 開店
	第6回菓子作り勉強会 導入機種の見直し、選定	工技センターの助言			

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット (投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット (結果) 〈インプット (投入) により、具体的に現れた形〉	アウトカム (成果) 〈アウトプット (結果) 等を通じて生じる〉	目標 (H23)
9 乳製品の開発による新しい酪農経営モデルの創出 ●地場産品を活用した安心・安全な生乳加工品を消費者に提供するとともに、観光地や教育の場として牧場を活用するなど、新しい酪農経営のモデル牧場を創出する。	●菓子製造・販売の経営戦略 ・製品開発 ・販売促進 ・牧場の触れあい機能及び地域との連携 ●経営費の削減	●産業振興アドバイザー制度の活用 アドバイザー・牧場チーム会を6回開催。 ●総合補助金の事業採択 (申請)	●アドバイザー・チーム会 ・大原一郎フードプロデューサーを招聘 経営及びマーケティング分析を基に菓子製造・販売を企画。 ●総合補助金交付申請	●アドバイザー・チーム会 ・商品試作及び製造・販売研修 ・3月下旬の開店に向けての商品等準備 ●総合補助金の交付決定を基に、機器類を導入する。	●菓子類の販売額500万円 (補助金圧縮損益分岐売上 777万円/年)

地域	高知市地域	項目	10 民有林における間伐の推進 2-1				
事業概要	建設業者等の異業種と連携した「森の工場」によって間伐を推進し、放置林の解消につなげる。		事業主体	各森林組合、林業事業者等、異業種(建設業等)			
主な内容	コラボレーション型「森の工場」の推進	地域AP掲載ページ	62~63	指標	間伐実施面積(H19 285ha)	目標値(H23)	1,970ha(H19~23計)

実行支援チーム長	
所属	中央東林事務所(振興課)
氏名(連絡先)	チーフ(間伐担当) 友草 年広 (0887-53-0656)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画		記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月							
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村・森林組合への説明会(林業事務所主催) ・森の工場要望調査 ・関係団体への説明・PR ・市町村等に対する連携依頼 ・国有林における搬出計画の動向確認 ・森の工場目標設定(100ha) ・間伐チーム会開催(第1回) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業予定地の山林の所有者、所有界の確認。 ・間伐に関心の低い山林所有者への取り組み。 ・木材価格変動に伴う事業意欲の低迷。 ・材価暴落に伴う製材業者等における取扱い量の変動。 ・提携企業の選定 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村・森林組合(チーム構成員)への概要説明会開催(林業事務所主催)(5/19) ・新分野進出支援説明会の開催(5/27) ・森の工場要望調査完了(土佐山に1工場設置計画中)200ha 	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗の遅れの要因 ・森の工場を行うにあたり支援策(公共、非公共含む)の情報の周知徹底の遅れ(国の要綱、要領の策定の遅れ等)があり今後は、的確な補助事業の使い分け等指導が必要。 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体への説明・PR ・実施事業者の掘り起こし(関係団体総会、個別説明) ・新たな森の工場づくり ・森の工場計画目標に対する計画材積及び進捗確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の工場計画と市町村が樹立している各種計画等との連絡調整。 ・旧計画から新計画への移行。 ・未整備森林への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の工場計画(第一回)打合せ:林業事務所主催(6/1) ・間伐チーム会第1回の開催(林業事務所主催)(6/10) ・新たな森の工場づくり(土佐山に1工事設定計画進行中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・森の工場拡大に向けては木材価格の低迷が続いており拡大に踏み出すには考慮する要因が多い。 ・土地所有者の確定困難:不在地主の増加。 ・所有界確定に時間を要する。 			
7月			<ul style="list-style-type: none"> ・新たな森の工場(土佐山)に向けての地元関係者(高知市森林組合及び高知市役所)と設置予定地の調査及び今後の振興計画について協議を行う。 ・森の工場計画(第二回)打合せ:林業事務所主催(7/21) 	<ul style="list-style-type: none"> ・所有界や既設路網設置状況等の確認に時間を要している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体への説明・PR ・国有林における搬出計画の動向確認 ・実施事業者の掘り起こし(関係団体総会、個別説明) 		
8月			<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備加速化説明会の開催(8/5)事務所主催 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援策の確定によっては森の工場の事業計画の見直しが必要。 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・森の工場づくり課題抽出とその対応策 ・平成22年度予算に向けた支援策の検討 ・森の工場計画目標に対する計画材積及び進捗確認 ・実施事業者からの情報収集と林業事務所との情報共有 ・事業者への個別ヒアリング(実施事業者の掘り起こし、進捗状況の把握) ・間伐チーム会の開催(第2回) 		<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度に向けた支援策については、事業計画地のしほり込み等検討中。 ・工場計画については、現在対象地の洗い出しを行っている途中。 ・間伐チーム会の開催については、新規工場の計画区域の調査中のため3-4半期に計画変更を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画地の林分現況や路網の状況及土地所有者の確定に時間を要しており、各作業量の計画の積み上げまでには至っていない。 			

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月				第2回間伐チーム会開催。			
11月		・新たな森の工場づくり及び旧計画から新計画への移行サポート					
12月		・事業者への個別ヒアリング (実施事業者の掘り起こし、進捗状況の把握) ・認定目標に対する計画材積及び進捗確認		・1工場について、新たに団地を設置し847haの拡大進行中。 ・間伐目標材積については、搬出間伐が4半期の後期に集中するため4-4半期に取りまとめる。	・森の工場の累積面積は、2団地で区域面積1,100haに拡大進行中。		
1月						・事業者への個別ヒアリング (実施事業者の掘り起こし、進捗状況の把握)	
2月		・新たな森の工場づくり及び旧計画から新計画への移行サポート					
3月		・H22実施計画案の作成 ・支援策のPR ・市町村に対する連携依頼 ・国有林に対する協力依頼					

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
10-1 民有林における間伐の推進 ◆建設業者等の異業種と連携した「森の工場」によって間伐を推進し、放置林の解消につなげる。	◆コラボレーション型「森の工場」の推進	◆森の工場設定等のため説明会を7回及び現地調査を1回行った。 ◆森林整備、作業道開設計画等の個別指導を行う。	◆森の工場の1団地新設(847ha)。	◆H21当初253ha→年度末1,100ha。	◆間伐の実施面積1,970ha

地域	高知市地域	項目	10 民有林における間伐の推進 2-2		事業主体	高知市 など	
事業概要	個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進により、放置林の解消につなげる。				事業主体	高知市 など	
主な内容	個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進	地域AP掲載ページ	62~63	指標		目標値(H23)	

実行支援チーム長	
所属	中央東林業事務所
氏名(連絡先)	佐藤 知幸 (0887-53-0656)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月							
6月							
7月	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会委員の選任 検討委員会設置・第1回 モデル事業の仕組み検討 モデル事業対象林の情報収集 モデル事業協賛企業の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会の検討項目の整理 事業実施体制の検討(森林所有者、協賛企業、森林組合、ボランティア、市の役割分担と実施体制の検討) 					
8月	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業の仕組み検討 モデル事業対象林の情報収集 モデル事業協賛企業の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回検討委員会の協議事項のまとめと次回検討委員会の準備 	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業の仕組み検討 モデル事業対象林の情報収集 モデル事業協賛企業の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、第1回検討会の開催(10月予定)に向けて、委員の選任、事業の全体像等を調整中 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会・第2回 モデル事業の仕組み検討 モデル事業対象林の情報収集 モデル事業協賛企業の情報収集 森林づくりモニタリング調査委託 	<ul style="list-style-type: none"> 第2回検討委員会の協議事項のまとめと次回検討委員会の準備 モニタリング調査委託内容の検討と委託業者選定 					

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	・検討委員会・第3回 ・モデル事業実施のための関係者協議・調整	・第3回検討委員会の協議事項のまとめと次回検討委員会の準備 ・各関係者への事業内容の説明と同意	・第1回検討委員会の開催(10/28)	・高知市民有林版協働の森検討委員会の設置 ・スケールメリットと継続性を兼ね備えた事業地の確保 ・「森の工場」内に事業地を確保 ・高知市内の製造業者の参加 ・年度内の協定締結に向けた取組	・第1回検討委員会の開催		
11月	・検討委員会・第4回 ・モデル事業実施のための関係者協議・調整	・第4回検討委員会の協議事項のまとめと次回検討委員会の準備					
12月	・検討委員会・第5回 ・モデル事業着手	・第5回検討委員会の協議事項のまとめと次回検討委員会の準備					
1月	・検討委員会・第6回	・第6回検討委員会の協議事項のまとめと次回検討委員会の準備			第2回検討委員会の開催 協議事項 ・協定候補地の選定 ・協定参加企業の募集		
2月	・検討委員会・第7回 ・モデル事業完了	・第7回検討委員会の協議事項のまとめと次回検討委員会の準備					
3月	・検討委員会・第8回 ・森林づくりモニタリング調査委託完了	・第8回検討委員会の協議事項のまとめ					

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
10-2 民有林における間伐の推進 ◆個人所有林を対象にした「協働の森事業」の推進により、放置林の解消につなげる。	◆民有林版協働の森のシステム確立 ◆協定参加民有林の募集 ◆協定参加企業の募集	◆高知市民有林版協働の森検討委員会の設置 ◆検討委員会委員の選任 ◆第一回検討委員会の開催	◆県版協働の森との調整 ◆J-VER制度の導入の検討		間伐の実施面積 1.970ha (◆民有林版協働の森の設置)

地域	高知市地域	項目	11 県産材の地域における需要拡大			実行支援チーム長			
事業概要	県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材、木製品の地産地消を推進する。				事業主体	高知市、県(中央東林業事務所)など			
主な内容	地域内での需要拡大に向けた取組	地域AP掲載ページ	62~63	指標	木製型枠の使用率98% 工事用資材の木製品使用(看板、バリケード)は81%	目標値(H23)	それぞれの使用率100%	氏名(連絡先)	佐藤 知幸 (0887-53-0656)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIthの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
4月				・木材販売促進会議(4/28)		/	/
5月	・県産材利用の呼びかけ ・H20公共事業・公共施設への県産材利用状況やH21以降の利用計画の把握(県発注、市事業) ・県産材利用推進方針の見直しに基づく意思統一	・民間需要の掘り起こし		・市町村・森林組合等への概要説明会を開催し、県産材利用の呼びかけを行った。(5/12) ・H20公共事業・公共施設への県産材利用状況やH21以降の利用計画の把握のための調査を行った(県発注、市事業)。			
6月	・第1回高知市流域県産材利用推進チーム会議の開催	・県産材利用推進方針の確認 高知市流域の意思統一		・第1回高知市流域県産材利用推進チーム会議を開催した。(6/10) ・丸太組工の標準仕様提示(6/24) ・県産材利用推進方針の確認 ・高知市流域の意思統一 ・需要拡大に向けたイベントを検討(住宅団地の一画を木造住宅フェアとして貸し切るなど) ・新規計画の早期把握 ・民間需要の掘り起こし ・長期にわたる木材価格の低迷 ・治山ダムにおけるサバイバルウッド使用の検討 ・作業路の設計に丸太組工を必ず使用するための検討			
7月	・高知市における公共施設等への県産材の優先利用の働きかけ(活用可能補助事業の紹介、事例紹介等)			・サバイバルウッドの適用通知(7/27) ・高知市における公共施設等への県産材の優先利用の働きかけ(活用可能補助事業の紹介、事例紹介等)			
8月				・積算基準等説明会における木材利用の呼びかけ(8/5) ・高知県木づかい促進事業費補助金を活用した学校設備等の木製品化(ファミリーマート、若草幼稚園、清和幼稚園、ひなぎく保育園、やまもも学園、養泉寺保育園、初月学園、和光会)			
9月	(平成22年度予算に向けた支援策の検討) ○予算検討事項 ・補助事業のあり方検討			(平成22年度予算に向けた支援策の検討) ○予算検討事項 ・補助事業のあり方検討			

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWTHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	・第2回高知市流域県産材利用推進チーム会議の開催			・第2回高知市流域県産材利用推進チーム会議の開催 (10/28)	・公共事業における木材使用量の確認 ・木製型枠の使用率100%を目標 ・工事業資材の木製品使用(看板、バリケード)は100%を目標 協議事項 ・高知市地域の意思統一 ・新規計画の早期把握 ・民間需要の掘り起こし ・高知市里山の家構想		
11月	・公共工事への木材利用の拡大に向け新工法等の勉強会に参加	・関係機関との調整		・高知県木づかい促進事業の追加募集及び平成22年度要望調査			
12月							
1月							
2月	・県産材を利用した公共施設のPR ・公共施設等の県産材利用の取組状況の総括 ・第3回高知市流域県産材利用推進チーム会議(平成22年度に向けた関係者協議)の開催	・課題整理と次年度へ向けての取組の確認					
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
11 県産材の地域における需要拡大 ◆県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材、木製品の地産地消を推進する。	◆県産材利用推進方針に沿った各部署の取組 ◆県産材利用推進方針に沿った各市の取組 ◆県産材利用の民間への波及	◆木材使用を推進するための新工法の普及 ◆既存事業における木材使用可能箇所の追加 ◆公共工事における木材使用量の拡大	◆サバイバルウッド工法の採用 ◆作業道における丸太組工法の量的拡大 ◆公共工事における木材利用の確認	◆公共工事における木材利用の普及の拡大 ◆民間需要開拓のための「高知市里山の家構想」の検討	(◆木製型枠の使用率100%) (◆工事業資材の木製品使用(看板、バリケード)は100%)

地域	高知市地域	項目	12 木質バイオマスの活用に向けての取組						実行支援チーム長		
事業概要	木質バイオマスの需要先の発掘や推進体制の整備等により林地残材などの未利用資源の有効活用につなげる。				事業主体	高知市、県(中央東林業事務所)				所属	中央東林業事務所
主な内容	需要拡大と安定供給のための仕組みづくり			地域AP掲載ページ	62~63	指標	10月末現在見出せていない	目標値(H23)	10月末現在見出せていない	氏名(連絡先)	高橋 尚也 (0887-53-0656)

月	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
4月								
5月								
6月	<p>①第1回木質バイオマス活用チーム会議の開催(協議項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原目標に関する共通認識の確認 支援チーム会議の本年度目標設定と役割分担 ①取り組みの方向性確認 <ul style="list-style-type: none"> バイオマスの素材を何にするか。木・竹? 地域完結型(川上~川下一体型)、川上・川中・川下の一部型?どのパーツに注力するか。 ②目標の確認: 具体的なプレーヤーの発掘 取り組みに資する事業紹介、県下の動き コスト差を埋める支援の仕組み(J-VERほか) 	<p>エネルギー利用の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 原油価格が落ち着きを取り戻した中で、具体的なプレーヤーが発掘できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援チームの目標: プレーヤーを見いだすこと。 取り組むバイオマス素材(input): 木・竹 output: ペレット等エネルギー利用が現実的 支援可能な事業紹介: 21補正加速化基金事業 注力のポイント <ul style="list-style-type: none"> 川上(バイオマス収集)・川中(エネルギー転換等) 川下(エネルギー利用等)1パッケージで取り組むことは困難。当面は川下の発掘を先行 至 ◇公共施設での需要者発掘 <ul style="list-style-type: none"> ◇JAさんの協力で利用可能な農家等を発掘 ◇機器開発を含めた実証試験が出来ないか。 ◇清掃工場などで水分調整剤(助燃剤)として利用できないか 	<ul style="list-style-type: none"> ペレット等のエネルギー利用を考えた場合、重油と逆ざやにならない県・市の財政出動を伴う仕掛け(ランニング支援)や、配送体制の整備、性能保証できる燃焼機器の充実など、取り巻く社会システムの整備が必須となり、容易ではない状況。 				
7月			<ul style="list-style-type: none"> ●6/18相愛本社訪問 <ul style="list-style-type: none"> 早急な実用機導入は困難にて、未対応の全木ペレットでの実証試験が出来ないか提案→了承 ●7/3JA春野訪問、実証試験圃場の紹介依頼 <ul style="list-style-type: none"> 木質の場合、燃料供給不安、配送体制、機器の安定稼働など仕組みが整っていない部分が多い。 比較してヒートポンプ(電力)は供給不安が無く、場合により圃場冷却の可能な+αの魅力があり一歩リードの感がある。 ●7/6JA高知訪問、実証試験圃場の紹介依頼 ●7/18加速化事業へ全木実証試験(森技)提案 ●春野地区で水産業用のペレットボイラ2基導入の要望 ●7/30加速化事業ヒア ●加速化事業での実証試験及び水産業用ボイラ導入採択は不透明(8月末に決定?) 	<ul style="list-style-type: none"> ●需要開拓の第1ターゲットを農家利用に絞って行動したが、 ①JA春野で言われたとおり木質はベースが出来ておらず、普及するには課題も多い。 <ul style="list-style-type: none"> → JA春野管内で実証試験は困難、また要望もない。 ②JA高知は協力者を捜してくれることになるも <ul style="list-style-type: none"> → その後返答がない。 ●高知市流域は特に県・市の公共施設が集中するため、こうした公共施設のボイラ更新時期を調査し必要の開拓を進めることも必要。 				
8月								
9月	<p>①第2回木質バイオマス活用チーム会議の開催</p> <p>②森の工場や自伐林家におけるC材生産量の把握</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●9月初旬: 加速化事業で要望の「全木実証事業」は不採択の方向へ。→実用機の要望が多数ある ↓ JA高知市に依頼していた「圃場借り上げ」の件は断ることに。(JA高知: 予算が上手く取れなくても希望農家がなかったかもしれない) ●水分調整剤としての利用可能性 <ul style="list-style-type: none"> 高知市環境政策課: 焼却処分場では、水分調整剤等は用いていない。 					

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月			●10/17:加速化・グリーンニューディール執行保留解除の通知 → 満額回答 ●10/28:第2回木質バイオマス活用チーム会 県下の状況:加速化・グリーンニューディール解禁で農業用ボイラ他102基が採択の方向へ(H21~23)ただし、高知市ブロックは養蠶事業者1基以外には実用機導入要望がない。また実証事業も不採択にてプラン進展の糸口がない。 ↓ ・高知農改より、JA高知の圃場や育苗C、土佐山地区で導入できないか再要請してみる ・高知市森組へバイオマス用に林地残材を搬出出来ないかオファーがあり、具体化するか検討する	●11月中には方向性が見える			
11月							
12月	①第3回木質バイオマス活用チーム会議の開催 ②木質バイオマス需給量調査 ③森の工場や自伐林家におけるC材生産量の把握						
1月							
2月	①第4回木質バイオマス活用チーム会議の開催 ・翌年度に向けての対応 ・取組方針の取りまとめ ②木質バイオマス需給量調査 ③森の工場や自伐林家におけるC材生産量の把握						
3月	(目指す姿) ・木質バイオマス利用量が増大する						

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
12. 木質バイオマスの活用に向けての取組 木質バイオマスの需要先の発掘や推進体制の整備等により、林地残材などの未利用資源の有効活用につなげる。	◆個別具体的な需用者の発掘 ・農業分野での具体的な需用者開発	◆需用者開発(ペレットボイラ設置)に向けて ・「実証試験」の提案 農業用(小規模)ボイラでは全てのペレット種別に対応した機器がないためペレット種別毎の特性(機器との相性)を調査+利用状況(重油ボイラに引けを取らない)を農家にPRして需用者開発を推進 加速化事業(林野庁)活用 ボイラ等整備 加速化事業&グリーンニューディール事業活用	◆実証事業(進捗率 0%) ・早急な実用機導入は困難でも、将来につながるモデルとして運用が出来る実証試験を森技Cと共同提案(加速化事業)したが、実用機導入要望多数にて不採択 ◆ペレットボイラ等整備(進捗率 10%) ・加速化事業・グリーンニューディール事業にて実用機導入要望調査実施 県下100基超(農業用)の要望があったが、高知市Bでは無し 別途、養蠶事業者から1基の要望あり (ペレット利用量=200t/年)	◆本年度目標(具体的なプレーヤーを見いだす) 農業をターゲットに需用者開発を行ったが、成果を見いだすに至っていない。 ↓ ・高知農改から再度JA高知市・土佐山地区農家に要請する ・高知市森組の林地残材バイオ利用を検討 (結果は11月中に判明) 成果がなければ、具体のプレーヤーを見出せるまでプラン凍結も検討	

地域	高知市地域		項目	13 竹バイオマスの有効活用(竹資源を活用した高知市バイオマスタウン構想の推進)			実行支援チーム長		
事業概要	高知市の取り組む「竹資源の有効利用を基本としたバイオマスタウン」は、荒廃竹林の適正管理・新規地域産業の育成・雇用の創出・二酸化炭素の削減等、多様な効果を同時に多重的に発揮させ地域活性化にも資するものである。また、本プロジェクトは竹林荒廃問題を抱えている地方自治体の課題解決方法の先駆者としての役割を果たすものでもある。			事業主体	高知市			所属	中央東林業事務所
主な内容	1本の竹から「付加価値の高い機能性素材」を総合的に生み出していくマテリアル部門と竹ベレットを生産するエネルギー部門の2部門を構成する「竹資源有効活用を目指したバイオマスタウン」を事業化。また将来的には竹に関する技術や情報、企業が集積する竹クラスターの創出を目指す。			地域AP掲載ページ	64~65	指標	目標値(H23)	氏名(連絡先)	佐藤 知幸 (0887-53-0656)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
記載方法等		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	竹資源を活用した高知市バイオマスタウン構想の推進 * メンバーの選定 * バイオマスタウン構想の検討	* 取り組みの実現が可能となるメンバーの選定 * 積極的な意見の引き出し					
5月	* 各メンバーの役割・協力体制の確立 * バイオマスタウン推進会議の開催 * 工場建設予定地の決定	* 取り組みを円滑に推進するための各メンバーの役割の明確化 * 目的遂行のための情報の共有化・課題の抽出・課題克服策の検討					
6月	* 詳細事業計画の完成 * 事業規模の決定 * 高知市議会承認 * 資金調達	* 積極的な意見の引き出し * 計画推進のための課題及び目標の共有化	* 高知市バイオマスタウン構想(案)を高知市議会で承認	* 計画推進のための課題及び目標の共有化			
7月	* 既契約済み竹林調査 * 竹林必要面積の見込み	* 原料となる竹材の伐採・調達可能量の調査	* バイオマスタウン構想の申請(7/10) * 高知市と県との今後の方針確認(7/27) * バイオマスタウン構想が承認される(7/31)	* 進出予定事業者の今後の動向により、事業規模、進出場所などが違うため、引き続き、県と市の取組確認を行う必要が有る。			
8月	* 竹材の収集運搬体制の確立 * 竹林整備計画地の調査 * マテリアルバランス決定 * バイオマスタウン構想の申請	* 原料となる竹材の伐採・収集・調達体制の検討及び調査 * 高知大学・後藤教授と連携し、効率的かつ効果的な伐採・収集システムの確立 * 事業採算性の高いマテリアルバランスの決定					
9月	* 補正予算申請 * 生産設備プラントの決定	* 生産効率・生産能力・品質・耐久性・コスト等を検討し、生産設備プラントの決定 * 事業対効果の検討	* 高知市バイオマスタウンプロジェクト委員会の設置(9/2)(関連各課係長級8名で設置、委員長は春野地域振興課課長補佐)				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月						<ul style="list-style-type: none"> * 企業の事業計画の提示 * 竹材の収集運搬体制の検討 * 竹林整備計画地の調査 * マテリアルバランス決定 	<ul style="list-style-type: none"> * 原料となる竹材の伐採・収集・調達体制の検討及び調査 * 高知大学・後藤教授と連携し、効率的かつ効果的な伐採・収集システムの確立 * 事業採算性の高いマテリアルバランスの決定
11月	<ul style="list-style-type: none"> * 工場建設用地の取得 * 竹ペレット燃焼試験 	<ul style="list-style-type: none"> * 費用対効果の検討、事業効率性の検討を行なった上で、工場建設用地の取得 * 竹ペレットの品質評価及び事業採算性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> * 竹資源活用事業計画書の提出 	<ul style="list-style-type: none"> * 工場建設予定地の絞り込み 	<ul style="list-style-type: none"> * 補正予算申請 * 生産設備プラントの決定 	<ul style="list-style-type: none"> * 生産効率・生産能力・品質・耐久性・コスト等を検討し、生産設備プラントの決定 * 事業対効果の検討 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> * 補正予算交付決定 						
1月	<ul style="list-style-type: none"> * 竹ペレット生産プラント決定 * 造成計画・土地利用計画 	<ul style="list-style-type: none"> * 生産効率・生産能力・品質・耐久性・コスト等を検討し、竹ペレット生産プラントの決定 * 効率的で効果的な土地利用計画の策定 				<ul style="list-style-type: none"> * 事業計画の審査 * 当初予算作成 	
2月	<ul style="list-style-type: none"> * 工場建築設計 * 生産ラインレイアウト決定 	<ul style="list-style-type: none"> * 効率的で効果的な工場建築設計及び生産ラインレイアウトの検討・決定 					
3月	<ul style="list-style-type: none"> * 実践メニュー実施に伴う最終調整及び最終確認 	<ul style="list-style-type: none"> * 来年度計画の円滑な実施に向けた計画のブラッシュアップと計画実施体制の構築 					

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
13 竹バイオマスの有効活用 ◆高知市の取り組み「竹資源の有効利用を基本としたバイオマスタウン」は、荒廃竹林の適正管理・新規地域産業の育成・雇用の創出・二酸化炭素の削減等、多様な効果を同時に多重的に発揮させ地域活性化にも資するものである。また、本プロジェクトは竹林荒廃問題を抱えている地方自治体の課題解決方法の先駆者としての役割を果たすものでもある。	<ul style="list-style-type: none"> ◆荒廃竹林の解消 ◆竹バイオマスプラントの規模 ◆竹バイオマスプラント建設予定地の選定 ◆竹材搬出方法 	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知市バイオマスタウン構想策定 ◆竹バイオマスプラント建設予定地の選定 ◆高知市バイオマスタウンプロジェクト委員会の設置 			<ul style="list-style-type: none"> (◆荒廃竹林の解消) (◆竹バイオマスプラントの建設)

地域	高知市	項目	14.森と海をつなぐ取替型木柵魚礁の設置			実行支援チーム長			
事業概要	間伐材利用の取替型木柵魚礁の設置を拡大することにより、漁業所得の向上を図るとともに、海洋環境と深く結びついている森林の保全に対しても貢献を目指す。				事業主体	高知地区漁業改良協議会			
主な内容	◆間伐材を利用した木柵魚礁の設置による漁獲増加		地域AP掲載ページ	64~65	指標	目標値(H23)			
所属	漁業振興課				氏名(連絡先)	飯田 新		(088-821-4613)	

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
	内容	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	<ul style="list-style-type: none"> 木の魚礁に関する情報収集 これまでの木柵魚礁調査結果(改良普及協:釣獲試験、高知市:水中テレビ調査)の再確認 取り替え式木柵魚礁の引き揚げ時の状況(状態)の評価 → 本体及び木柵部の耐用年数 	<ul style="list-style-type: none"> 木柵魚礁整備の実施には、費用対効果の立証が必要 → 効果の立証に足るデータが必要 	<ul style="list-style-type: none"> 水産庁の間伐利用マニュアル等入手 これまでの調査結果確認(H14,16,19の水中カメラ、潜水調査) 4月23日:調査船による調査(魚礁の位置、配置、状態について水産試験場と打ち合わせ) 4月27日:H16、17設置の木柵魚礁を引き上げ、状態を確認(木材を取り付け再投入) 	<ul style="list-style-type: none"> H19の潜水調査ではイサキ、カンパチ等の有用魚種も確認され、増殖効果はあると考えられた。 他の調査スケジュールを勘案しながらできるだけ早い時期に実施することを申し合わせた 木材は殆ど滅失。鉄枠も予想以上に腐食が激しかった。 	/	
5月	<ul style="list-style-type: none"> チーム会における協議 <ul style="list-style-type: none"> 進め方、効果調査の手法、役割分担等 作業日誌の作成 関係漁協、高知地区漁業改良協議会への作業日誌記載の提案、依頼 水産試験場調査船による調査(木柵魚礁と周辺魚礁の位置、配置等) → 5~8月の間に実施 	<ul style="list-style-type: none"> 費用対効果の立証に繋がる調査手法の選択 魚礁整備には効果把握は不可欠であることの意識付け 水産試験場調査は「沈設型魚礁現況調査」(漁業振興課予算)の全体計画の一部として実施 	<ul style="list-style-type: none"> チーム会における協議(5月8日) 木柵魚礁の整備実施には費用対効果の立証が不可欠であることの共通認識 効果把握の手法について決定 <ul style="list-style-type: none"> 当初:補助事業による釣獲試験により把握 協議後:漁業者による作業日誌の記載で把握 作業日誌の様式を作成 	/		
6月	<ul style="list-style-type: none"> チーム会における協議 関係漁協等への作業日誌記載の提案、依頼 水産試験場調査船による調査結果の漁業者への情報提供(随時) 		<ul style="list-style-type: none"> 作業日誌様式検討、作成 作業日誌記載依頼文作成 	/		
7月	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者による作業日誌の記載 		<ul style="list-style-type: none"> 高知県漁協 浦戸支所及びびみませ支所へ作業日誌の記載を依頼(7月16日) 水産試験場調査船による高知市沖魚礁群(木柵魚礁を含む)の調査実施(7月23日~24日) 	/		
8月	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者による作業日誌の記載 		<ul style="list-style-type: none"> 漁業者による作業日誌の記載 水産庁の「木材利用を促進する増殖技術開発事業(仮称)※」(以下「水産庁事業」という)へ高知市として実施を要望 <ul style="list-style-type: none"> ※水産庁としてH22概算要求中。内容は木材利用魚礁の効果等実証(事業主体:市町村等からなる地域協議会)及び木材利用魚礁の開発普及(事業主体:民間団体)。交付率は10/10を想定。 調査船データの解析・整理(水試) 	/		
9月	<ul style="list-style-type: none"> 漁業者による作業日誌の記載 作業日誌とりまとめ(効果の試算) チーム会における協議 <ul style="list-style-type: none"> 作業日誌の回収状況等を踏まえた今後の対応の検討 		<ul style="list-style-type: none"> 漁業者による作業日誌の記載 作業日誌回収、取りまとめ 水産庁事業の制度内容等に関する情報収集 調査船データの解析・整理(水試) 	<ul style="list-style-type: none"> 調査船データの解析・整理作業は測定ノイズが多いことや、魚礁が密集し照合作業が複雑なため難航 8月、9月は人工魚礁での作業が少なかったこともあり報告は極めて低調 水産庁事業については概算要求に盛り込まれているが、実施の有無等は不透明(水産庁担当者) 水試データの解析・整理作業は測定ノイズが多いことなどから難航 	/	

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月		・漁業者による操業日誌の記帳		・操業日誌記帳の励行を再度依頼(浦戸支所、みませ支所) ・漁業者による操業日誌の記帳 ・水産庁事業に関する情報収集	・水産庁事業は概算要求額圧縮の後も落とされていないが、予算化の可否や、事業内容(交付率10割等)は先行き不透明な状況(10月22日:水産庁担当者)	・漁業者による操業日誌の記帳	
11月		・漁業者による操業日誌の記帳		・調査船データの解析・整理作業(水試) ・漁業者による操業日誌の記帳 ・水産庁事業に関する情報収集	・10、11月も操業日誌の提出は低調 ・水産庁事業について財務省との協議等が全く行われていない状況(例年なら事業概要が公表できる時期だが、政権交代に伴う作業で著しい遅れ)(11月12日:水産庁担当者)	・漁業者による操業日誌の記帳	
12月		・漁業者による操業日誌の記帳		・チーム会における協議検討(11月17日) ・操業日誌の回収状況等を踏まえた今後の対応 ・水産庁事業の状況を踏まえた今後の対応 ・調査船データの解析・整理作業(水試) ・操業日誌記帳を再度依頼 ・漁業者による操業日誌の記帳 (・調査船の調査結果(正確な位置や配置)の漁業者への提供)	・操業日誌記帳の必要性等について、漁協、漁業者に再度説明し、その後の報告の状況等により、今後の方針を再検討することになった。 ・国事業については今後も情報収集に努める。	・漁業者による操業日誌の記帳 ・水産庁事業の制度内容確定を踏まえた具体的実施内容の検討(チーム会)	
1月		・漁業者による操業日誌の記帳				・漁業者による操業日誌の記帳	
2月		・漁業者による操業日誌の記帳 ・操業日誌とりまとめ作業(効果の判定)				・漁業者による操業日誌の記帳 ・操業日誌取りまとめ作業(効果の推定)	
3月		・漁業者による操業日誌の記帳(今後も継続) ・操業日誌とりまとめ作業(効果の判定) ・チーム会における協議 ・効果を踏まえた今後の対応の検討				・漁業者による操業日誌の記帳(今後も継続:水産庁事業による効果調査とリンク) ・操業日誌取りまとめ作業(効果の推定) ・チーム会における協議 ・水産庁事業の具体的実施内容(操業日誌の活用方法含む)の詰め。	

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
14. 森と海をつなぐ代替型木柵魚礁の設置 間伐材利用の代替型木柵魚礁の設置を拡大することにより、漁業所得の向上を図るとともに、海洋環境と深く結びついている森林の保全に対しても貢献を目指す。	・魚礁整備に対する漁業者の意識 ・来年度、国庫補助事業に実施の有無が不透明	・操業日誌記帳(漁獲効果の把握による費用対効果の検証)に係る漁協への働きかけ ・水産試験場調査船による高知市沖魚礁群(木柵魚礁含む)の現況調査(正確な位置、配置)の実施 ・水産庁事業に係る情報収集	・操業日誌記帳の依頼を通じた漁業者の意識の把握 ・現況調査結果の漁業者への提供(今後予定)		

地域	高知市	項目	15 高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進				実行支援チーム長				
事業概要	高知県漁協の直販所「海の漁心市」において、販売促進活動を展開し、地域産物の売り上げを伸ばす。					事業主体	高知県漁協			所属	中央漁業指導所
主な内容	直販事業に関する取組強化	地域AP掲載ページ	64-65	指標	直販所販売額	目標値(H23)	1.5億円		氏名(連絡先)	村上 幸二(088-856-1164)	

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
	内容	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月	直販所販売拡大検討会の組織化	①直販所PR、販売促進グッズ作成 ②販売に関する人材育成、ノウハウの確立 ③地域イベント協同の魚食普及 以上は戦略に基づく「高知県1漁協流通販売強化事業」成果の効果的活用。 ④地域産物の加工品の製造、販売の検討はアクションプランNo.16の「底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大」成果の効果的活用。 ・合併もない高知県漁協における直販所販売体制の効率化の確立と販売手法改善の強化。	24日、実行支援チーム会議 現状、課題の整理から、今後の取組方向を確認	この間の会議において、このアクションプランが直販所整備における国事業計画の目標と重なり、両者の持つ課題、問題点も同じであることが判明した。 これらの課題・問題は県漁協全体あるいは根本的な問題であることから、これらの問題解決に向けた県漁協への指導・支援は今年度水産振興部に新設された合併・流通支援課の行う総合的な指導支援で一元的に行われるべきことである。 ただし、このアクションプランの目的及び国事業計画目標の達成については、直販所販売拡大だけでなく、御置瀬の活性化を目指した御置瀬商品供給力の拡大強化の整備が必要条件であることが判明した。 この御置瀬活性化に向けた商品供給力については、他のアクションプラン「底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大」で具体的に進んできている。このことから当アクションプランで取り組むべきことを、県一漁協流通販売強化事業の成果も含めて直販所自体の販売拡大手法の研究・提案等を行うこととした。 ただし、これらの提案は水産振興部合併流通支援課の総合的な支援指導に反映されたいうえで行われることが絶対条件であり、設立されて間もない県漁協が混乱しないように十二分に配慮することが必要である。	/	/
5月			12日、実行支援チーム会議 販売拡大戦略会議の組織化: 人選等 12日、県漁協業務部長と人選等協議			
6月			29日、実行支援チーム会議 販売拡大戦略会議メンバーの浜側メンバーの選定協議 4日、産地側メンバーとして浦戸支所職員の承諾確認 11日、第1回 販売拡大戦略会議 (漁協直販所担当者、前支所担当者、実行支援チーム)			
7月	直販所販売拡大検討会の開催	この間の販売観察や実績からの改善策の検討及び今後の実施	4日、御置瀬支所担当者に当支所水産物の直販所販売拡大について意見聴取	現在、漁協の現状は求心力を高め、組織の充実、機能強化を図りながら、県一漁協流通販売強化事業の早期成果を上げていくことが第一であり、このテーマはその一部に位置づけられる。 第1回の販売拡大戦略会議で、直販所担当職員はこの会議への不参加を表明した。このことも前述のことと大きく関係していると考えられる。 実行支援チームは実施主体の意欲的な取り組みがなければ、支援の手段を失うため、今後の展開方向に苦慮している。 以上のことから、今期においては現状分析や関係者の意向確認等を進めていく。	【7月】 ・直販所販売拡大検討会の中止と ・直販所状況・意識等聞き取り調査計画策定	
8月					【8月】 ・直販所状況・意識等聞き取り調査	
9月	直販所販売拡大検討会の開催	改善策の評価と改善及び今後の展開			【9月】 ・直販所販売拡大検討会の中止と ・直販所状況・意識等聞き取り調査	

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月							
11月	・直販所販売拡大検討会の開催		改善策の評価と改善及び今後の展開	6日 実行支援チーム会の開催。 14日 横浜店開設1周年記念販売	高知県漁協の直販所が今後販路を拡大していくためには、「県漁協組織の機能強化」と「産地対策」が必要である。当地域での「産地対策」については現在他の地域アクションプラン【16底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大】で取り組んでいるが、「県漁協の組織機能強化」については第2四半期に記述のとおり、県漁協の流通販売強化事業で統括的に取り組まれており、部分的な直販所だけの取組が不可能なため、実行支援チームとしての支援は困難である。 一方、成長戦略では県一漁協流通販売強化事業において量販店と県漁協とが直接取引を行い、物流体制や集出荷体制の整備、人材育成、ノウハウの蓄積など組織の機能強化に取り組んでいる。 以上のことから「産地対策」については、地域アクションプラン【16底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大】に移行し、「県漁協の組織機能強化」については上位事業とも言える県一漁協流通販売促進事業と目的が重複するため、成長戦略での取組成果を期待することとする。	・直販所販売拡大検討会の中止	高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進 → 削除 (産地対策 → 【16底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大】へ) (県漁協の組織・流通事業の機能強化 → 成長戦略へ)
12月							
1月	・直販所販売拡大検討会の開催		改善策の評価と改善及び今後の展開			・直販所販売拡大検討会の中止	
2月							
3月	・直販所販売拡大検討会の開催		改善策の評価と改善及び今後の展開			・直販所販売拡大検討会の中止	

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
15 高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進 高知県漁協の直販所「海の漁心市」において販売活動を展開し、地域産物の売り上げを伸ばす。	1. 直販所PR、販売促進グッズの作成 2. 販売に関する人材育成、ノウハウの確立 3. 地域イベント協同の魚食普及以上、戦略に基づく「高知県1漁協流通販売強化事業」成果の効果的活用。 4. 地域産物の加工品の製造・販売の検討はアクションプランNo.15の「底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大」成果の効果的活用	◆実行支援チーム会議(4回) ◆販売拡大戦略会議(1回) ◆地域内主産地水揚げ支所での聞き取り調査(1回)	◇ 県漁協流通販売強化策全体の一部としての位置づけが明確化 ◇ 地域内産地は直販所へ供給できる加工品等の生産体制強化が明確化		高知県漁協の直販所「海の漁心市」での販売額(H20開設) 1.5億円

地域	高知市	項目	16 底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大			実行支援チーム長		
事業概要	高知市御豊瀬地区の底曳網による主要漁獲物である沖ウルメ、メヒカリの消費拡大に向けた取り組みを進め、漁家経営の安定化を図る。				事業主体	御豊瀬地区を想定(調整中)		
主な内容	沖ウルメ・メヒカリの消費拡大に向けた取り組み	地域AP掲載ページ	64-65	指標	目標値(H23)	()		

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)				
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題			
4月	<p>水産庁事業「活力ある漁村づくりモデル育成事業」への応募申請</p> <p>地域活性化協議会「たるばあやっ御豊瀬ん会」と実行組織となる漁村女性起業化グループ「ねえやん御豊瀬」の組織体制の確立と取組実施条件の整備</p> <p>地区の美化活動などグループ主体性の育成</p>	<p>事業計画の実現に向けた体制整備と諸条件の整備</p> <p>活動の意義付けと展望の獲得による実施関係者の意欲向上</p>	<p>4日、漁村女性起業化グループ 第1回「ねえやん御豊瀬」会議</p> <p>7日、御豊瀬地区美化活動(ねえやん御豊瀬)</p> <p>8日、「活力ある漁村づくりモデル育成事業」応募</p> <p>22日、実行支援チーム会</p> <p>28日、産業振興計画推進アドバイザー招聘に関する地域活性化協議会「たるばあやっ御豊瀬ん会」委員事務局協議</p>	<p>「ねえやん御豊瀬」の活動意欲が強く、特に5月初めにコアメンバーが確定した以後、加工研修や加工実習に熱心な取り組みを始めたほか、10月の交流促進イベントと合わせた加工品発表会に向けて、会場の確保や食育活動への参画など、地域活性化協議会「たるばあやっ御豊瀬ん会」の活動の原動力となっている。</p> <p>以上の活動展開の広範囲化と高速化は計画以上のレベルにあり、C評価のアクションプランではあるが、実質上はA評価なみの実績を上げてきている。</p>	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p>	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画</p>	<p>記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等</p>
5月	<p>「ねえやん御豊瀬」のコアメンバー確定による実行力の確保</p> <p>地区の美化活動の継続</p> <p>底曳網漁獲物加工研修と試作</p>	<p>活動に対する精神的な支援体制づくりとその継続</p> <p>加工技術習得向上に向けた支援体制づくりとその継続</p>	<p>2日、プラン推進アドバイザー東海大学関いずみ氏と(株)漁村計画所長富田宏氏来訪 関:女性起業化グループ組織化で大切なこと 富田:地域資源を生かした活性化活動の事例と考え方 【この結果、7名のねえやん御豊瀬コアメンバー確定】</p> <p>7日、「どくれもん」訪問、各種デザイン等依頼(グループ)</p> <p>12日、実行支援チーム会【支援作業工程の確認】</p> <p>20日、野村氏と加工技術研修の内容協議</p> <p>21日、土佐山小「食育」活動見学(グループ)</p> <p>23日、プラン推進アドバイザー野村氏による加工技術研修</p> <p>26日、高知地区漁業改良協議会で当プランの紹介・説明</p> <p>29日、実行支援チーム会 想定外の展開速度対応協議</p>	<p>今後の課題としては計画を確実に実行していくことと、間もなく発表される水産庁「活力ある漁村づくりモデル育成事業」の採択の有無により、活動の具体化レベルが決まってくることから、このレベルに合わせた適切な、適時の指導・助言・支援がますます重要となってきている。</p> <p>実行支援チームも各チーム員が共通の目的を明確に持ち、それぞれが自立して取り組んでいることから、極めて効果的な支援が行われている。</p>						
6月	<p>地区の美化活動の継続</p> <p>底曳網漁獲物加工実習と技術の向上</p>	<p>水産庁事業「活力ある漁村づくりモデル育成事業」の採択の有無</p>	<p>6日、ねえやん御豊瀬会議</p> <p>16日、たるばあやっ御豊瀬ん会開催(計画協議)</p> <p>16日、たるばあやっ御豊瀬ん会</p> <p>18日、「ねえやん御豊瀬」食育活動(御豊瀬小)</p> <p>24日、水産加工会社アユカワ:沖ウルメ加工協議</p> <p>27日、第2回加工技術研修会(ねえやん御豊瀬)</p> <p>29日、TV収録・水産庁事業「活力ある漁村づくり」内定</p> <p>※ねえやん御豊瀬の加工試作活動継続中</p>	<p>10月25日(日)のねえやん御豊瀬祭りにおけるねえやん御豊瀬の発表品にも一定目途ができています。ただ、一級品というこだわりが弊を狭くしているように思われる。</p> <p>水産庁の「活力ある漁村づくりモデル育成事業」の採択を受けて、申請計画の具体的な手順や体制作りが必要となっている。このため産業振興計画のアドバイザーとなっている富田氏にトータルコーディネーターの相談をしている。</p>						
7月	<p>「たるばあやっ御豊瀬ん会」による都市住民との交流を含めた地区美化イベントと惣菜加工試作品の評価会の開催</p> <p>地区の美化活動の継続</p> <p>底曳網漁獲物加工実習と技術の向上</p>		<p>3日、実行支援チーム会(支援スケジュール確認)</p> <p>3日、水産加工業者アユカワとの連携可能性協議</p> <p>5日、TV放映</p> <p>7日、たるばあやっ御豊瀬ん会(計画協議)</p> <p>9日、水産加工業者アユカワとの連携可能性協議</p> <p>16日、ねえやん御豊瀬会議</p> <p>24日、たるばあやっ御豊瀬ん会開催</p> <p>※ねえやん御豊瀬の加工試作活動継続中</p>	<p>前期末から、水産政策課からの紹介により水産加工会社との連携の可能性が生まれている。御豊瀬水揚げの4割は沖底であり、その中の沖ウルメは太平洋側水揚げの約3割を占めている。そしてアユカワはそのうちの4割を購入している。このアユカワが新しい沖ウルメの加工品を開発しようとしていることから、たるばあとの関係等を整理することにより、連携できる場所が生まれてくる可能性が高まりつつある。</p>						
8月	<p>座談会の開催</p> <p>地区の美化活動の継続</p> <p>底曳網漁獲物加工実習と技術の向上</p>		<p>7日、水産加工業者アユカワと沖底船主の沖ウルメ協議</p> <p>沖ウルメ(ニギス)の分布・生体・漁獲</p> <p>御豊瀬の沖ウルメ:太平洋側漁獲量の3割に匹敵</p> <p>沖ウルメの鮮度向上や利活用について</p> <p>10日、第2回産業振興計画アドバイザー派遣 うみ・ひと・くらしシンポの概要</p> <p>御豊瀬活性化事業について</p> <p>25日、たるばあやっ御豊瀬ん会</p> <p>28.29日 ねえやん御豊瀬研修 うみ・ひと・くらしシンポジウムin浜へ参加</p>	<p>これにはやはり、広範囲なコンセンサスづくりが必要であり、そのための手順や考え方を現在提起中である。ただし、急ぎすぎると後々問題を生じること十分に考えられることから、着実に進めていく必要がある。</p>						
9月	<p>たるばあやっ御豊瀬ん会とねえやん御豊瀬による市民市場開催(惣菜加工品の品評会含む)などイベント実施事業</p> <p>地区美化活動の継続</p> <p>底曳網漁獲物加工実習と技術の向上</p>	<p>活動の到達点と課題の整理、これによる今後の活動の方向性の見極め</p> <p>活動の質・量の拡大に向けた必要な整備事項の検討</p>	<p>14日、市長、知事への経過報告と試食会(ねえやん御豊瀬)</p> <p>15日、たるばあやっ御豊瀬ん会 ねえやん御豊瀬地区美化活動</p>	<p>すでに沖底漁獲物の高鮮度化のために、星市の開催が漁協支所で考えられている(これまでは翌日朝市)。</p>						

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 地区美化活動の継続と加工品販売仕組みづくり 開発した惣菜等の発表会を兼ねた都市住民との交流促進イベントの開催 先進地視察研修 		7日、たるばあやって御量瀬ん会 14日、たるばあやって御量瀬ん会 24日、イベント準備 25日、ねえやん御量瀬祭り&岡林信康コンサート				
11月	<ul style="list-style-type: none"> 地区ミニシンポジウムの開催 地区美化活動の継続と加工品販売仕組みづくり 新しい底曳網漁獲物加工実習と技術の向上 空き家情報の収集 		13日:水産加工業者との地域連携について、支所、高知市、実行支援チームメンバーで協議 20日: 同上				
12月	<ul style="list-style-type: none"> 地区ミニシンポジウムの開催 地区美化活動の継続と加工品販売仕組みづくり 新しい底曳網漁獲物加工実習と技術の向上 空き家の利活用方針検討 	<ul style="list-style-type: none"> 活動実績の確認と自信の獲得 今後の活動計画案 					
1月	<ul style="list-style-type: none"> 地区美化活動の継続と加工品販売仕組みづくり 新しい底曳網漁獲物加工実習と技術の向上 空き家の利活用方針検討 						
2月	<ul style="list-style-type: none"> 地区美化活動の継続と加工品販売仕組みづくり 新しい底曳網漁獲物加工実習と技術の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施体制や活動計画の再点検 					
3月	<ul style="list-style-type: none"> 地区美化活動の継続と加工品販売仕組みづくり 新しい底曳網漁獲物加工実習と技術の向上 次年度事業計画樹立 						

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
16 底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大 高知市御量瀬地区の底曳網による主要漁獲物である沖ウルメ、メヒカリの消費拡大に向けた取り組みを進め、漁家経営の安定化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域協議会とねえやん御量瀬の組織体制の確立 ◆ねえやん御量瀬加工技術向上 ◆空き家利活用に向けた情報収集 ◆加工品試販、マーケット調査 ◆都市対流促進方針検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◆たるばあやって御量瀬ん会(10回) ◆ねえやん御量瀬定例・臨時会(9回) ◆ねえやん御量瀬加工研修(4回)、自主研修(15回) ◆空き家調査(2回) 	6月18日:食育授業実施(御量瀬小学校) 地区美化活動(毎月1回) 10月25日:ねえやん御量瀬祭り&岡林信康コンサート(約800人) 販売商品(えび入りてんぶら、てんぶら揚げ、沖ウルメフライ、メヒカリ唐揚げ、すり身ぎょうざ) 12月7日:アドバイザーによる祭りアンケート結果分析、空き家実態調査		

地域	高知市	項目	17 冷凍ドロマの販路拡大			実行支援チーム長		
事業概要	冷凍ドロマの販路拡大を図り、生産量を増やすことによって、漁家所得の安定や向上につなげる。				事業主体	冷凍ドロマ普及協議会を中心に調整中		
主な内容	販路拡大に向けた仕組みづくり	地域AP掲載ページ	64-65	指標		目標値(H23)		
所属	中央漁業指導所							
氏名(連絡先)	村上 幸二(088-856-1164)							

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	・漁協理事会、冷凍ドロマ普及協議会での問題点の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・冷凍ドロマの生産拡大の制限要因の把握 ・制限要因打開策としての選択肢の提示と展望 ・時期的な冷凍ドロマ加工と他の加工等の組合せによる周年活動の可能性の追求 	22日、実行支援チーム会開催 【現状、課題、支援方向の確認】 29日、冷凍ドロマ洗浄作業確認調査 原魚が獲れず未確認	実行支援チームにおいてこのアクションプランを進めるための課題と方向性について整理した。 この方向性をもって、地元漁協理事会に定期的な検討の場の設定を要請し、7月から開催されることとなった。 課題としては様々なものがあるが、中でも重要な点は冷凍ドロマ制作の技術者の確保養成であり、そのための周年的な仕事づくりである。	/	/	
5月			12日、実行支援チーム会【具体支援の確認】 【漁協内での定期的協議の場づくりと検討の支援】 26日、漁協組合長に定期的検討会の開催要請 【6月4日の理事会に諮ることとする。】 29日、実行支援チーム会 【6月4日理事会対応について協議】	現段階においては、これらについて春野町地区の地域資源を掘り起こし、仕事づくりについて地元関係漁業者自らが主体的に継続的に検討していくことが当面の目標としている。			
6月			4日、春野町漁協理事会 【定期的に検討の場を設定する。】				
7月	・漁協理事会、冷凍ドロマ普及協議会での打開策の検討		22日、理事会において冷凍ドロマ協議 今後の検討・具体化の方向について 25日、冷凍ドロマ検討会 今後の検討方向・具体化(案出し)について 29日、冷凍ドロマ検討会 具体化(案出し)について	冷凍ドロマの検討において、具体策を検討する前に、冷凍ドロマ生産販売の拡大のためにどんな条件を満たす必要があるのかといったことを、集中的に検討した。 そのためのアイデア出しの検討会であるが、これほど集中的に開催されているのは、他地域の活動などに触発されて生まれてきている地元の意欲の表れでもある。 今期中に具体的に様々な実証検討に取り組んでいく実施主体を築くことになっている。	/	/	
8月	・同上	6日、冷凍ドロマ検討会 今後の検討における具体的項目について -検討・実行組織づくり等- 10日、第1回冷凍ドロマ検討作業グループ役員会 22年4月スタートを目標に行程表をつくる。 会の名称、出資金額等次回検討 26日、第2回冷凍ドロマ検討作業グループ役員会	今期の課題としては組織作りのほか、具体的な実証検討項目とそれを行っていくスケジュールづくりとなる。				
9月	・漁協理事会、冷凍ドロマ普及協議会での打開策の整理	2日、検討会議 25日、検討会議 実行組織として「春野冷凍ドロマ加工グループ」が組織された。					

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	・打開策の展開に向けた実行組織作りの検討			6日 「はるのさんさんくろしお市」へ出店する商品や役割分担を協議 18日 「はるのさんさんくろしお市」への出店 30日 「はるのさんさんくろしお市」反省会	「はるのさんさんくろしお市」へは、どろめ汁、沖うるめのすり身天ぷら、鮮魚、生どろめを出品し、約15万円の売り上げがあった。その後の反省会では価格設定や今後はもっと収益性の高い商品を取り扱うことなど前向きな意見がでた。 実行組織体制については名称も「春野冷凍加工グループ どろめっ娘」に決定し、運営についても出資で運営するなど体制は整いつつある。 本格的なスタートは来年度4月からとし、今年度はどろめの漁があり次第既存の「冷凍どろめ」以外の加工品の試作に取り組んでいく。		
11月	・同上			6日 実行支援チーム会の開催 19日、どろめっこ会議資料検討協議 春野冷凍ドロマ加工グループ、どろめっこの事業計画検討会議			
12月	・同上			6日、土佐漁村起業交流会参加(産業振興アドバイザー事業) 「どろめっこ」の事業計画検討会議		・加工品の試作	・どろめの漁獲量が少ないことも想定され加工品の試作ができない場合もある。また12月からはシラスウナギの漁に入るためどろめ漁が行われない場合もある。
1月	・実行組織による取組計画案検討						
2月	・同上						
3月	・取組計画の策定						

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
17 冷凍ドロマの販路拡大 ◆冷凍ドロマの販路拡大を図り、生産量を増やすことによって漁家所得の安定や向上につなげる。	◆実証実行組織の設立 ◆実証計画の策定 ◆陸上技術者(1名)の雇用対策 ◆冷凍ドロマ加工以外の業務 ◆採算制の実証 ◆実証を行うにあたっての必要最小限の機器類、設備類の整備計画	◆実行支援チーム会議(4回) ◆実証実行組織設立検討会支援(理事会等含めて、計10回) ◆実証実行組織「春野冷凍ドロマ加工グループどろめっこ」活動支援会議 5回 活動支援 1回	7月22日、漁協内検討組織の設立決定(理事会) 9月25日、実証実行組織「春野冷凍ドロマ加工グループ、どろめっこ」設立 10月18日 第1回実証活動 春野さんさん黒潮市への出店	10月18日、春野さんさん黒潮市に出店 当日売上 約15万円 後日販売売上 約16万円 計 約32万円 販売商品:ドロマ汁、沖ウルメすり身てんぷら、沖ウルメすり身、沖ウルメ干物、朝どれ魚 11月 春野さんさん黒潮市活動実績の分析・検討 12月6日 土佐漁村起業交流会への参加(試食品の提供)	

地域	高知市	項目	18 こうち販路拡大チャレンジ事業の充実			
事業概要	地域産品の県外への販路拡大に向けた取組を進め、外貨を獲得することにより、産業の活性化につなげる。 (現在高知市が実施している「高知市販路拡大チャレンジ事業(旧こうち販路拡大チャレンジ事業)」について、充実を図る)				事業主体	高知市
主な内容	◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」の実施 ◆見本市での「こうちブース」の設置 ◆コーディネーターの招聘	地域AP掲載ページ	66~67	指標	目標値(H23)	

実行支援チーム長	
所属	工業振興課
氏名(連絡先)	山崎 義道 (9720)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題		
4月	◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)申請受付(上半期)	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等		
5月	◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)見本市・広告への助成(上半期)			◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)見本市・広告への助成(上半期)に向けての審査	◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)見本市・広告への助成(上半期)を実施済。	実施済であり、計画どおり。			
6月		◆「見本市」高知市(産業政策課)と高知県(地産地消・外商課)との連携(役割分担の確認) →コーディネータ招聘、セミナー開催等		◆「(中旬)「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)見本市・広告への助成(上半期)対象企業等への通知		◆「(下旬)審査等に日数を要し、6月下旬にすれ込む予定。			
7月	◆「見本市」(県)スーパーマーケットトレードショー出展事業者説明会 ◆「見本市」(県)スーパーマーケットトレードショー出展事業者募集	出展事業者決定手法の確定(審査委員の選定)	◆「見本市」(県)スーパーマーケットトレードショー出展募集条件、審査事項等関係機関との協議	◆「見本市」(県)セミナー実施内容の確定及びセミナー講師確保	◆「見本市」(県)スーパーマーケットトレードショー出展募集(公募)	スーパーマーケットトレードショーの出展条件等関係機関と協議の必要がある。 出展にあたるアドバイザーの確保等、今後も担当者同士の議論を深めていく予定。	スーパーマーケットトレードショーの出展条件等関係機関と協議の必要がある。 出展にあたるアドバイザーの確保等、今後も担当者同士の議論を深めていく予定。	【首都圏見本市開催事業】 ◆県(地産地消・外商課) ◆高知市(産業政策課) →各種事業(コーディネーター招聘・セミナー開催等)について、両方で連携・調整を必要あり。 地域力連携拠点事業(21年度四国経済産業局からの委託事業)において毎月支援機関が会議をしているが、その中で情報共有を図る予定。	
8月	◆「見本市」(県・市)スーパーマーケットトレードショー参加事業者の決定 ◆「見本市」(県)スーパーマーケットトレードショー出展者事前セミナー(商品販売力) ◆「見本市」(市)セミナー開催(デザイン・パッケージ) ◆「見本市」(県)スーパーマーケットトレードショー会場運営委託事業者募集	スーパーマーケットトレードショー会場運営委託事業者募集要項、審査要領等作成	◆「見本市」(県)セミナー実施に向けた講師確保	◆「見本市」(県)スーパーマーケットトレードショー出展募集(公募)	スーパーマーケットトレードショーの出展条件等関係機関と協議の必要がある。 出展にあたるアドバイザーの確保等、今後も担当者同士の議論を深めていく予定。	スーパーマーケットトレードショーの出展条件等関係機関と協議の必要がある。 出展にあたるアドバイザーの確保等、今後も担当者同士の議論を深めていく予定。	※支援機関(県内4拠点) ・高知県産業振興センター(連携拠点事業事務局) ・高知県中小企業団体連合会 ・高知県商工会連合会 ・高知商工会議所 ※高知県(工業振興課・経営支援課)はオブザーバー参加 →7月開催の第3回会議より、地産地消・外商課と高知市産業政策課がオブザーバー参加する予定) ・関係機関と協議(合同開催)を行ううえで、募集が8月となった。		
9月	◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)申請受付(下半期) ◆「見本市」(市)コーディネーター派遣ブラッシュアップ等 ◆「見本市」(市)セミナー開催 ◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)見本市・広告への助成(下半期)			◆「見本市」(県・市)スーパーマーケットトレードショー出展事業者選定審査委員会の開催(出展者の決定及び出展商品のリストアップ) ◆「こうち販路拡大チャレンジ事業」(市)見本市・広告への助成(下半期)					

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHWの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
10月	◆[見本市](市)中小機構、STEPアドバイザー派遣ブラッシュアップ等 ◆[見本市](市)セミナー開催 ◆[見本市](県)スーパーマーケットトレードショー会場運営委託業者決定		◆セミナーの実施	◆計画どおりセミナーの実施ができた。	◆[見本市](県・市)スーパーマーケットトレードショー出展者事前セミナー		
11月	◆[見本市](市)セミナー開催		◆セミナーの実施 ◆[見本市](県)スーパーマーケットトレードショー会場運営委託業者募集	◆計画どおりセミナーの実施ができた。	◆[見本市](県・市)スーパーマーケットトレードショー出展者事前セミナー ◆[見本市](県)スーパーマーケットトレードショー会場運営委託業者募集		
12月			◆セミナーの実施 ◆[見本市](県)スーパーマーケットトレードショー会場運営委託業者決定	◆計画どおりセミナーの実施ができた。 ◆計画どおり実施ができた。	◆[見本市](県・市)スーパーマーケットトレードショー出展者事前セミナー ◆[見本市](県)スーパーマーケットトレードショー会場運営委託業者決定		
1月	◆[見本市](県)スーパーマーケットトレードショー出展者事前セミナー(商談会事前演習)						
2月	◆[見本市](県・市)スーパーマーケットトレードショーに出展	高知市(産業政策課)と高知県(地産地消・外商課)との連携(役割分担の確認)					
3月	◆[こうち販路拡大チャレンジ事業](市)見本市・広告への助成制度見直し	高知市(産業政策課)と高知県(地産地消・外商課)との連携(役割分担の確認)					

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
18 こうち販路拡大チャレンジ事業の充実 ○事業概要 地域産品の県外への販路拡大に向けた取組を進め、外貨を獲得することにより、産業の活性化につなげる。 (現在高知市が実施している「高知市販路拡大チャレンジ事業(旧こうち販路拡大チャレンジ事業)」について、充実を図る)	○同種の事業に取り組む県と市の連携強化 県・市とも、スーパーマーケットトレードショーへの出展を予定しており、より効果的な企業支援につながるよう、県と市が連携を強化する必要がある。	○見本市への県・市ブースの設置(予定・1回) ○スーパーマーケットトレードショー(東京都) ○見本市出展企業を対象にしたセミナーの開催(2回) ○こうち販路拡大チャレンジ事業助成金の交付(半期ごとに2回)	○見本市への参加企業数 ・高知県ブース:10企業 ・高知市ブース:3企業 ○セミナーへの参加者数 ・第1回:44名 ・第2回:32名 ○こうち販路拡大チャレンジ事業補助金の交付企業数(交付金額) ・上半期:5企業(総額843千円) ・下半期:7企業(総額1,000千円)※予定	○見本市参加企業の商談中(及び商談成立)件数 (未実施:H22.2月予定) ※目指す成約(商談成立)件数:1社あたり1件以上	(・商談会や見本市への参加を促すことによる高知市モノづくり企業の認知度向上・売上の増)

地域	高知市	項目	19 土佐のものづくり企業による地産外商の推進				実行支援チーム長		
事業概要	機械・金属を中心とした「ものづくり企業」の受注拡大や販路拡大に向けた取組により、地場産業の活性化を図り、雇用機会の増大を目指す。				事業主体	高知県 高知市雇用創出促進協議会		所属	工業振興課
主な内容	◆ものづくり企業の受注拡大や販路拡大に向けた支援		地域AP 掲載ページ	66~67	指標		目標値 (H23)	氏名(連絡先)	山崎 義道 (9720)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	(市) 地域内対象企業の把握 (市) 県外企業の把握	・事業全体に関する県、産業振興センターとの調整、連携 ・香南市、南国市との調整、連携 ・関係企業等の意見聴取(工業会含む)	・随時連絡会議を開催し、連携を強めた。 ・適宜情報交換を行い、情報共有による連携を強化 ・各受注企業の意見聴取を進めるとともに、工業会事務局や役員等を通じて意見聴取	・高知市、産振センターを中心に連携しながら事業を推進中(各関係者を含む)			
5月	(市) 商談会等への参加希望企業の把握(企業ニーズの把握) (県) 受注拡大検討委員会の開催	・参加希望企業のリストアップのため、きめ細かくニーズを把握する必要がある。 ・高知市が主催する実務者会議との調整が必要 → 高知県と高知市が連携して取り組む仕組みづくりが必要	・市内150社の事業所を企業訪問し、意見聴取 ・県と関係市等との調整に時間を要し、受注拡大検討委員会は延期 ※高知市実務者会議は開催済(5社、第2回は6/24予定)	・各企業の意見を取りまとめ、実務者会議で確認してもらいながら進めている。			
6月	(市) 関係企業等による実務者会議の開催 (県・市) 受注企業名簿の発注	・商談会や受注企業名簿の仕様を決めるために関係先の意見を聞く必要がある。 → 県が主催する受注拡大検討委員会との調整が必要 ・名簿の仕様の統一(同一仕様で発注予定) → バインダー形式で1つの冊子にする予定	・広島地域発注企業39社を抽出(交渉開始) ・市内発注企業111社を抽出(参加呼び掛け開始)	・発注企業の特定は、6月末を目途に特定予定 ・市内受注企業の参加予定は、6月17日現在17社(今後若干増える見込み) <全体としては、順調に推移していると思われる>	(市) 第2回高知市実務者会議の開催	・県(受注拡大検討委員会)との連携をどうするか	
7月	(県) 受注拡大検討委員会の開催 (県・市) 受注企業名簿の作成		(県・市) 受注企業名簿様式の刷り合わせ (市) 尾道市で第1回企業交流会開催(7/29) 県内企業 27社 32人(高知・南国・香南) 県外企業 11社 15人 (県) 第1回受注拡大検討委員会開催(7/30) ※各種商談会・見本市等の日程決定等	・高知県・高知市・香南市の三者で様式を統一する(具体的には、先行している香南市の様式に合わせる) ・県内企業に比べ、県外企業が若干少なかった。 ・今後の受注拡大に向けた個々の企業へのフォローが必要。	(県) 第1回受注拡大検討委員会の開催 (県) ポータルサイト構築等委託の公募(プロポーザル) → 受注企業名簿の作成委託を含む (市) 第1回企業交流会の開催(7/29・広島) (県) 受注企業名簿作成委託先の選定及び契約	※ポータルサイトの委託事業の中に、受注企業名簿の作成が含まれている。 → 県と市の同種の名簿作成について、仕様を刷り合わせる必要がある。 ・詳細は6/24の第2回高知市実務者会議で決定予定 ・各種商談会で使用するため、完成を急ぐ必要がある。	
8月	(市) 第1回商談会の開催(広島地域) (市) 次年度見本市参加準備	・高知市主催(香南市が参加予定)	(市) 受注企業名簿作成に向け、対象企業のデータ収集 ・企業データは高知市が直営です。 ・写真撮影・デザイン・印刷については業者に委託	・香南市の様式に合わせる			
9月	(県・市) 受注企業名簿の完成	・早期に発注し、早期に納品できるよう努める → 商談会等に使用するため	(県) 第2回受注拡大検討委員会の開催(見本市運営委託事業のプロボ審査会を兼ねて) (市) 受注企業名簿の完成(9月末目標)	・10月商談会(徳島)参加企業での利活用	(市) 高知市参加者との意見交換会開催(9/4) → 第1回の反省点、改善点の抽出による運営見直し → 今後の受注拡大のあり方等についての意見交換	・今後の運営方法等については、受注拡大に向けた企業の対応方針等を確認しながら決定する必要がある。	

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	(市)第2回商談会の開催(徳島) (県)受注拡大検討委員会の開催	産業振興センター(3県合同)との共同開催 →高知市とセンターとの役割分担をどうするか	第2回商談会開催(徳島) →県外発注企業32社参加 →県内企業31社参加(うち高知市15社) →3県で約120社が参加 →高知市受注企業名簿を配布 (県)関西機械要素技術展に出展(10/7~9)	発注企業と積極的に商談するも、成立は少ない ・今後のフォローが必要 ・3企業・2企業グループが出展、関西方面の販路の拡大につなげる。			
11月	(県)メッセナゴヤへの出展		(県)メッセナゴヤ2009に出展(11/11~14) (県)第3回受注拡大検討委員会の開催(製造業ポータルサイト構築事業のプロボ審査会を兼ねて) (市)第3回商談会準備 →兵庫地区を視野に発注企業の開拓	・7企業が出展、いままですつながりが薄いとされていた中京圏における新たな販路開拓の足がかりとなる。	(市)第3回商談会の開催	候補地や運営方法等については、企業の意見や他の事業との関連等も勘案して決定。	
12月	(市)第3回商談会の開催	候補地:岡山・兵庫 →開催地の決定と関係機関との調整が必要	三井造船マシナリーサービス網を対象にした商談会を開催すべく準備中(12/16,神戸)	第2回商談会にも参加していた企業であり、県内企業の希望も多い企業である。			
1月	(県)受注拡大検討委員会の開催						
2月	(県・市)第4回商談会の開催(2/3,大阪) (県)見本市出展(2/3~5,横浜)	高知県・高知市の共同開催 →役割分担をどうするか					
3月	(市)第5回商談会の開催	候補地:未定 →開催地の決定と関係機関との調整が必要			(市)第5回商談会について中止を検討	関連事業等の年間回数が多くなりすぎたため、参加企業の負担が大きくなりすぎたため。	

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
19 土佐のものづくり企業による地産外商の推進 ○事業概要 機械・金属を中心とした「ものづくり企業」の受注拡大や販路拡大に向けた取組により、地場産業の活性化を図り、雇用機会の増大を目指す。 ・商談会の開催 ・県外見本市への出展 ・受注企業名簿の作成 ・HPによる受注企業紹介	○行政機関・支援機関が一体となった企業支援体制の確立 商談会の開催や見本市への出展がより効果的な企業支援となるよう、各機関との連携・調整が必要である。 (商談会) ・県内受注企業に合った発注企業の開拓(見本市) ・販路開拓効果の高い見本市の選定 ・受注企業名簿の活用	○県外での商談会の開催(2回) ・企業交流会(尾道市) ・四国三県合同商談会(徳島市) ○見本市への高知県ブースの設置(2回) ・関西機械要素技術展(大阪市) ・メッセナゴヤ2009(名古屋市)	○商談会への参加企業数 ・参加発注企業:延べ43社 ・参加県内企業:延べ58社 ○見本市への参加企業数 ・関西機械要素技術展:3社・2企業団体 ・メッセナゴヤ2009:7社	○商談会参加企業の商談中(及び商談成立)件数 62件 ○見本市出展企業の商談中(及び商談成立)件数 ・関西機械要素技術展:10件 ・メッセナゴヤ2009:6件+α(確認中)	(高知県企業の認知度向上) (商談会での競争力強化(技術力、提案力等))

地域	高知市	項目	20 工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化			
事業概要	販路の拡大や経費節減、人材育成に関するセミナーや研修など、企業等の課題に対応する情報の一元的な提供により、競争力の強化につなげる。			事業主体	高知県	
主な内容	◆企業等が求める産業政策に関する情報の一元的な提供	地域AP 掲載ページ	66~67	指標	目標値 (H23)	

実行支援チーム長	
所属	工業振興課
氏名(連絡先)	山崎 義道 (9720)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHWの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月						/	/
5月	(県・市)ポータルサイトでの情報更新について関係機関と協議 (受注拡大検討委員会の活用を検討)	・セミナーの開催情報の一元化を図る →ポータルサイト上で関係機関が更新できるような仕様を検討する	・統一した仕様で、県ポータルサイトへのアップを図ることとする。	・ポータルサイトの仕様を決めるための受注拡大検討委員会について、委員選定に日数を要し、委員会を開催できていない。			
6月	(県)ポータルサイト構築等委託のプロポーザル公募 (県)ポータルサイト委託先決定・委託契約	・サイトにおける情報提供等について、受注拡大検討委員会や関係機関(高知市・南国市・香南市・産振センター)との調整が必要	・産振センター、県との調整実施 ↓	・発注用の仕様(案)について精査中。第1回受注拡大検討委員会を経て、ポータルサイトのプロポーザル公募を行う。			
7月	(県)ポータルサイト構築等事業開始		・第1回受注拡大検討委員会の開催 →ポータルサイト発注仕様決定		・第1回受注拡大検討委員会の開催 →ポータルサイト発注仕様決定 ・ポータルサイト構築等委託の公募(プロポーザル)	・委員選定(特に工業会)にお日数がかかる可能性がある。 ・一元化を図る各種情報について、どこまで入れ込むことができるか	
8月	(県・市)一元化情報についての項目の検討	・情報の一元化が必要と思われる項目について、関係機関で協議する (項目の例示) ◎セミナーの開催情報 ◎各種見本市への補助 ◎商談会の開催情報 ◎各種補助金の情報 →協議する場をどのように設定するか? →受注拡大検討委員会の活用を検討	・情報の一元化を要する項目の精査(県・市) ・ポータルサイト構築等委託の公募(プロポーザル)	・セミナー・見本市・商談会の開催情報を、行政機関・支援機関を問わず決定順にポータルサイトに投稿していく形式としたい。 →第2回受注拡大検討委員会にて委員の意見を聞く	※8月以降については、現時点で変更なし →一元化情報の内容の検討について、受注拡大検討委員会の中でやっていくのかどうかについて検討する		
9月	(県・市)一元化情報についての項目の決定	・決定した項目について、企業等に情報提供する方法の検討 →ポータルサイトの仕様の変更が必要になるのか? →ポータルサイト構築等委託事業において、増額変更で対応できるか?	・第2回受注拡大検討委員会の開催				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	(県)ポータルサイト試験運用開始		各種企業や行政機関から、ポータルサイトへ情報が集まる仕組みづくりの検討				
11月				・第3回受注拡大検討委員会の開催 →ポータルサイト委託先の決定(審査会の開催) ・ポータルサイト構築等委託業務の契約締結	・高知市チーム員も審査会に同席する。 ・最終仕様決定の協議の場に、チーム員も同席し意見反映を行う。		
12月							
1月	(県)ポータルサイト構築等事業終了 →ポータルサイト本格運用開始			・ポータルサイト仮運用開始	・最終仕様のチェック及び必要あれば修正作業		
2月							
3月				・ポータルサイト構築等事業終了 →ポータルサイト本格運用開始			

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
20 工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化 ○事業概要 販路の拡大や経費節減、人材育成に関するセミナーや研修など、企業等の課題に対応する情報の一元的な提供により、競争力の強化につなげる。	○県の製造業ポータルサイトの発注の遅れ 情報システム開発にかかる事前協議の遅れ等、内部手続きに時間を要し、ポータルサイトそのものの発注が遅れ、オープン予定が22年1月末→22年3月末にずれ込む見込みとなった。 ○関係支援機関との情報共有 一元化した情報を提供するツールとしてポータルサイトを活用するが、情報を一元化するための仕組みづくりをどうするか。 (各支援機関同士の連携及び情報提供のあ	○高知県製造業ポータルサイトの構築(委託事業) 22年3月末の正式オープンを目指し、構築作業中。 (サイトの構築・会員企業の募集・受注企業名簿の作成等)	○ポータルサイトにおける仕様の確定 以下の仕様を確定し、製造業ポータルサイトに、当初搭載する予定になかった「一元化した情報の提供」という機能を担保した。 「行政・支援機関及び掲載企業からのお知らせ機能」 ・行政や支援機関及び会員など特定のものだけが、ポータルサイトを閲覧した人に情報提供可能な機能を提案してください(閲覧の制限はなし)。	○一元化された情報の提供(ポータルサイトにて) ・各支援機関が主催する経営等に関するセミナー情報 ・販路拡大に向けた商談会・見本市等への出展情報 ・行政機関等が策定する産業振興支援策 ・その他	(◆高知県製造業ポータルサイトにて、企業に有益な情報が支援機関より遅滞なく提供される。)

地域	高知市地域	項目	21 消費者の目から見たエコ商品の育成とブランド化				実行支援チーム長	
事業概要	環境に配慮した商品市場において、消費者のニーズに対応するため、市場調査やモニター調査の実施などを通じて、消費者の購買意欲を高めるエコ商品作りを促進する。			事業主体	高知エコデザイン協議会 MP委員会		所属	新産業推進課
主な内容	エコ商品の育成とブランド化		地域AP掲載ページ	66~67	指標	「エコロンマーク」(エコブランドマーク)貼付商品(H20 2企業2製品)	目標値(H23)	10企業10製品
氏名(連絡先)	松村 晃充		(088-823-9750)					

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施) ※新たな企業・製品の採択は、随時検討委員会で決定 ※エコロンマーク貼付企業のPRにつながる展示発表会・見本市等は、関連するイベントの開催にあわせて実施。(年間2~3回程度予定) あわせてメディアへのPR等も行う。	・新規企業・製品の発掘、支援方法の検討 発掘:新規企業・製品の情報収集 ・効果的なPRが行える関連イベントの選択 ・メディアへの効果的な情報提供	○5月15日 エコデザイン協議会幹事会への参加 協議会各委員会の20年度活動報告及び ○6月8日 エコデザイン協議会幹事会・総会への参加 協議会各委員会の20年度活動報告及び	・実施主体であるエコデザイン協議会MP委員会の今年度の活動の活発化が課題	/		
6月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)						
7月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)		○7月23日 エコデザイン協議会幹事会への参加 ・各委員会の活動報告 ・今後の協議会のあり方についての協議				
8月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)		○8月18日 エコデザイン協議会幹事会への参加 ・各委員会の活動報告 ・今後の協議会のあり方についての協議	・実施主体であるエコデザイン協議会MP委員会の推進体制の構築が進まず、委員会活動が滞っている状況。			
9月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)						

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)			○10月13日エコデザイン協議会幹事会への参加 ・各委員会の活動報告 ・今後の協議会のあり方についての協議			
11月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施) ○採択企業への国・県・産業振興センターなどの支援事業の紹介 ・事業申請に向けたフォローアップ(計画策定支援など)	・採択企業の意向(事業計画)に適した事業の選択・紹介 ・採択企業の事業申請への計画づくりのサポート 採択企業の計画づくりに適した専門家の投入による	○11月10日 エコデザイン協議会幹事会への参加 ・各委員会の活動報告 ・今後の協議会のあり方についての協議	・実施主体であるエコデザイン協議会MP委員会の推進体制の構築が進まず、委員会活動が滞っている状況。 ⇒ 11月の幹事会で、会長から、MP委員会の推進体制の構築は進んでいないが、今後幹事会で会員企業にプレゼンしてもらい支援を検討する方向で考えたい旨の提案あり。(実施の方向) → 環境研究会への誘導			
12月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)			○12月11日 エコデザイン協議会幹事会への参加 ・各委員会の活動報告 ・今後の協議会のあり方についての協議			
1月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施) ○こうち産業振興基金(経営革新事業、企業団体チャレンジ事業など) ・公募(1月~2月) ・審査会(3月) ※助成金交付決定は						
2月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)						
3月	・検討委員会の開催 (企業・製品の発掘、育成、採択企業の認定、支援の実施)						

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
21 消費者の目から見たエコ商品の育成とブランド化 ◆環境に配慮した商品市場において、消費者のニーズに対応するため、市場調査やモニター調査の実施などを通じて、消費者の購買意欲を高めるエコ商品作りを促進する。	◆事業実施主体である高知エコデザイン協議会におけるエコ商品の発掘、認定、支援のサイクルが活発に行われること。	◆エコデザイン協議会幹事会に参加し、実施主体であるマーケティングプロシエト(MP)委員会の体制構築についての要請、協議を行った。 ・幹事会参加 7回	◆MP委員会の体制構築は出来ていないが、幹事会での会員企業のプレゼンテーションを通じてPR等の支援、その中から成長分野育成支援研究会(環境等)への誘導といった新たな取り組みの方向が出てきた。		「エコロンマーク」(エコブランドマーク)貼付商品:10企業10製品

地域	高知市	項目	22 「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想 3-1			
事業概要	県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産業の連携によって、「地産地消」、「地産外商」、「1.5次産業」、「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国こうち」の実現を目指す。			事業主体	高知市 関係団体など	
主な内容	◆こうちの食材のデータベース化 ◆空き店舗を活用した中心商店街での新商品のPR(1.5次産業)		地域AP 掲載ページ	68~69	指標	目標値 (H23)

実行支援チーム長	
所属	高知県産業振興推進部地域づくり支援課
氏名(連絡先)	柏木 理男 (088-823-9334)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
5月	・施工意思決定 ・関係機関調整	・関係機関調整 ・具体的事業の確定	・関係機関との調整 ・委託候補先となりうる事業者、団体等との協議、事業重複調査 ・事業内容の調整	・事業内容のほぼ全てにおいて、「26番 中心商店街でのアンテナショップの開設」と実施予定事業の重複が判明。 ・事業内容の調整を引き続き実施し、事業としての実現性(受託団体の有無、事業効果等)を検証していく。 ・6月中の事業内容の確定を目指す			
6月	・契約等審議会	・取組可能なメンバーの選定					
7月	・公示 ・説明会 ・参加資格審査						
8月	・審査委員会審査 ・プレゼン ・候補者選定				・県事業や他団体との重複及び高知市規模での事業性の検討の結果、県事業への統合を検討		
9月	・候補者との協議 ・契約等審議会 ・契約						

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	データベースの企画、立案 店舗準備(パンフ作成、空き店舗調査) 出店調査(市内、周辺町村)	関係機関調整		県事業等との重複及び高知市規模での事業性を検討し、類似事業への統合を検討			
11月							
12月				◆こちの食材のデータベース化 県事業(ふるさと雇用再生webサイト活用ビジネスモデル構築事業)と統合していく ◆空き店舗を活用した中心商店街での新商品のPR(1.5次産業) 「26 中心商店街でのアンテナショップの開設」と統合していく			
1月							
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
22 「食料王国こち」を目指した食料タワー構想 3-1 県内の多種多様な食料の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産地の連携によって、「地産地消」、「地産外販」、「1.5次産業」、「新市場開拓」を推進することにより、「食料王国こち」の実現を目指す。	関係機関との事業調整 ・具体的事業の確定 ・取り組み可能なメンバーの選定	◆こちの食材のデータベース化 関係機関と調整及び意見交換を行った。また、県がふるさと雇用で行っている類似事業の内容を確認し、県事業との重複及び高知市規模での事業性を検討。 ◆空き店舗を活用した中心商店街での新商品のPR(1.5次産業) 【AP 26 中心商店街でのアンテナショップの開設】の事業内容を確認し、重複を検討。	◆こちの食材のデータベース化 高知市内のみの食料データは各ホテルで収集しており、事業としての進展は難しく、また市内の食料データだけでは、材料が少ないため、活用できるデータベース構築は望めない。よって、県事業(ふるさと雇用再生webサイト活用ビジネスモデル構築事業)と統合していく。 ◆空き店舗を活用した中心商店街での新商品のPR(1.5次産業) 【26 中心商店街でのアンテナショップの開設】の事業内容を検討した結果、統合していく。		

地域	高知市	項目	22 「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想 3-2		
事業概要	県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産業の連携によって、「地産地消」、「地産外商」、「1.5次産業」、「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国こうち」の実現を目指す。		事業主体	高知市 関係団体など	
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆消費者に信頼されるための食品表示 ◆食材を活用したホテル・飲食店の紹介によるPR(地産地消) ◆ポータルセールスによる海外への売込み(地産外商) ◆食品加工設備の整備に対する支援(1.5次産業) 	地域AP 掲載ページ	68~69	指標	目標値 (H23)

実行支援チーム長	
所属	高知県産業振興推進部地域づくり支援課
氏名(連絡先)	柏木 理男 088-(823-9334)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果		
5月	◆[ポータルセールス]実施の検討・可否の決定		◆[ポータルセールス]関係機関の実施事業の調査	◆[ポータルセールス]調整中	◆[ポータルセールス]他機関との調整、実施の検討・可否の決定が、若干遅れているが、順次検討・調整に努める。		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ◆[ホテル等のPR]食材の情報収集 ◆[食品表示]セミナーなどの計画検討 ◆[加工設備支援]有機JAS認定につながる制度の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ◆[ホテル等のPR]ご自慢の食材の調査、食材のデータベース化の計画状況の確認 ◆[食品表示]食品表示に関する法律、制度の調査、セミナーの需要調査 ◆[加工設備支援]食品製造業者のJAS認定に対するニーズ調査、国の支援制度や農水関連部局の制度調査、1.5次産業の推進にあたり必要とされる支援の調査 	<ul style="list-style-type: none"> ◆[ホテル等のPR]調整中 ◆[食品表示]県と調整中、制度の調査中 ◆[加工設備支援]他機関の制度について調査中 				
7月	◆[加工設備支援]制度の可否検討		◆[加工設備支援]各種調査のとりまとめ、報告				
8月				<ul style="list-style-type: none"> ◆[食品表示]県と調整済。県がセミナーを10~12月に実施予定。今後は、効果的な見せ方・表示の仕方(デザイン)を検討。 ◆[ポータルセールス]県が事業を実施しており、市としては取上げる予定。 ◆[加工設備支援]食料品製造業の企業ニーズを収集するため、企業訪問を実施中。 			
9月	◆[食品表示]セミナーなどの具体計画検討		◆[食品表示]効果的なセミナー検討、次年度の予算措置、関係機関の動向調査	◆[加工設備支援]の調査			

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		◆[加工設備支援]制度の可否の決定 ◆[ホテル等のPR]食材のPR方法についての検討	◆[加工設備支援]次年度以降の予算措置 ◆[ホテル等のPR]「こうちの食材のデータベース化」の動向確認、同様のPR方法をみながら可否の決定	◆[加工設備支援]次年度以降の支援策検討調査 ◆[ホテル等のPR]県と協議していく ◆[ポートセールス]県の実施する事業に統合する	◆[加工設備支援]継続して調査していく		
11月				◆[食品表示]セミナーの実施	計画とおり実施できた。	◆[食品表示]県主催でセミナーの実施	
12月							
1月							
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
22 「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想 3-2 県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産業の連携によって、「地産地消」、「地産外消」、「1.5次産業」、「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国こうち」の実現を目指す。	①消費者に信頼されるための食品表示 ②食材を活用したホテル・飲食店の紹介によるPR(地産地消) ③ポートセールスによる海外への売込み(地産外消) ④食品加工設備の整備に対する支援(1.5次産業)	①食品表示のセミナーの実施 ②県がふるさと雇用で行っている類似事業の内容を確認し、県事業との重複及び高知市規模での事業性を検討。 ③県の事業と統合を検討する。 ④基礎調査の実施	①セミナーに、32人参加し、実施できた。 ②県の事業と統合するよう協議を継続中。 ③県の事業と統合する。 ④調査継続中。		

地域	高知市	項目	22 「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想 3-3		
事業概要	県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産業の連携によって、「地産地消」、「地産外商」、「1.5次産業」、「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国こうち」の実現を目指す。			事業主体	高知商工会議所
主な内容	◆新市場の開拓	地域AP掲載ページ	68~69	指標	目標値 (H23)

実行支援チーム長	
所属	高知県産業振興推進部地域づくり支援課
氏名(連絡先)	柏木 理男 (088-823-9334)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月					/		
5月	・事業内容の確認		・事業内容の確認を実施	・詳細について、再度事業内容の確認が必要。今後の事業の情報収集の中で実施に努める。			
6月	・事業の情報収集	◆他機関の事業重複調査、確認 ◆企業ニーズの把握					
7月			・事業の進捗状況を確認				
8月				・事業の実現性について今後の情報収集の中で確認に努める。			
9月	◆事業の可否の決定						

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	◆具体事業計画検討		◆次年度の予算措置、関係機関の助成制度調査	◆具体事業計画検討			
11月							
12月							
1月							
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
22「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想 3-3 県内の多種多様な食材の産地や収穫時期、供給量、効能、生産者に関する情報をデータベース化し、各産業の連携によって、「地産地消」、「地産外商」、「1.5次産業」、「新市場開拓」を推進することにより、「食材王国こうち」の実現を目指す。	◆新市場の開拓	商工会議所と来年度の事業について協議。	12月中に会議所としての実施事業の決定をする。(予定)		

地域	高知市	項目	23 環境に優しい低炭素なまちづくりを目指した「環境維新」				実行支援チーム長				
事業概要	エコ商品を取り扱っている企業等の製品、技術、活動などの紹介や、食材の廃棄物の商品化に向けた取組を通じて、環境に関する産業の振興につなげるとともに、環境に優しい低炭素なまちづくりに資する。					事業主体	高知市				
主な内容	◆エコ商品などのPRによる企業等への支援 ◆食材の廃棄物の商品化に向けた新市場の開拓			地域AP掲載ページ	68~69	指標	目標値(H23)				
所属	新産業推進課					氏名(連絡先)	松村 晃充		(088-823-9750)		

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
4月	<ul style="list-style-type: none"> リサイクル事業者及び製造業者の情報収集 各種エコ関係団体への参加 食品リサイクル法、廃棄物処理法等法律・各種制度 調査 廃棄食材の有無について、食料品製造業、生産者などの聞き取り調査 	<ul style="list-style-type: none"> 食品リサイクル法及び廃棄物処理法への対応 HP設置のための技術的な調査 廃棄食材の再利用について、他県での取り組みなどの調査。可能性の検討 	<ul style="list-style-type: none"> 食品リサイクル法、廃棄物処理法等法律・各種制度 調査中 廃棄食材の有無について、食料品製造業社に聞き取り調査中 食料品製造業社への廃棄食材の実態調査準備中 	<ul style="list-style-type: none"> エコ関係団体が休止状態のため、その他の関係団体からの情報収集に努める必要あり。 各種調査中であり、引き続き情報収集に努める。 	(Diagonal line indicating no change plan or issues)	(Diagonal line indicating no change plan or issues)	
5月							
6月							
7月	<ul style="list-style-type: none"> 環境啓発事業(エコ商品紹介、余っている食材の紹介)の概要作成 情報提供方法の調査 	<ul style="list-style-type: none"> エコ商品(の機能)として紹介する基準づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 食料品製造業者への企業訪問時に廃棄食材について聞き取り調査中 エコ商品(の機能)の情報提供方法について検討中 	<ul style="list-style-type: none"> 食料品製造業者への訪問聞き取り調査は継続して実施している。 エコ関係団体が休止状態のため、活動が再開された場合は情報収集に努める必要がある商品 エコ関係団体の認定商品等の情報を集める必要がある あわせてPR方法の検討が必要 	(Diagonal line indicating no change plan or issues)	(Diagonal line indicating no change plan or issues)	
8月							
9月							
			<ul style="list-style-type: none"> 食料品製造業者への廃棄食材の実態調査(アンケート調査)開始【9月末~2月末】 				

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)						
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題					
10月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SW1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更された実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	<ul style="list-style-type: none"> 各企業、団体へ情報提供による啓発事業の説明と協力依頼 環境啓発事業(エコ商品紹介)の説明と協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 企業からの情報収集整理、効果的な紹介の検討。 エコ商品として紹介する商品の決定 わかりやすい表現となるよう意見交換し、すり合わせていく 廃棄食材再利用については、随時、実施の有無を検討。ニーズがなければ、取り下げもあり。 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄食材についての情報収集・提供 アンケート調査の実施 企業訪問等による情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄食材についての情報収集 ⇒主だった企業は訪問し情報収集済み。今後はアンケート調査と企業訪問の継続 	<ul style="list-style-type: none"> エコ商品の紹介 高知市HP(既存)での紹介 各種会合や企業訪問時等 	<ul style="list-style-type: none"> エコ商品の情報収集及びPR方法の検討
11月							<ul style="list-style-type: none"> HP(エコ商品のPR)の立ち上げ、広報啓発活動開始(随時修正) 廃棄食材の情報提供(HPには載せない)(随時修正) 				<ul style="list-style-type: none"> 廃棄食材についての情報収集・提供 アンケート調査の実施 企業訪問等による情報収集 情報提供(HPには掲載しない) 	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄食材についての情報収集(一次産業含む)及び情報提供方法の検討
12月												
1月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SW1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更された実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するにあたり、想定される課題等						
2月												
3月												

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
23 環境に優しい低炭素なまちづくりを目指した「環境後継」エコ商品を取り扱っている企業等の製品、技術、活動などの紹介や、食材の廃棄物の商品化に向けた取組を通じて、環境に関する産業の振興につなげるとともに、環境に優しい低炭素なまちづくりに資する。	情報収集の方法とPR、情報提供の方法 エコ団体のこの取組に関連する活動が休止中 食料品製造業では適当な廃棄用食材が見当たらない	<ul style="list-style-type: none"> 食料品製造業者への企業訪問、アンケート調査の実施 関係法令(食品リサイクル法、廃棄物対策法等)の調査 	<ul style="list-style-type: none"> 食料品製造業者におけるリユース、リサイクル可能な廃棄用食材の実態把握 ⇒現時点ではリユース、リサイクル可能な廃棄用食材は見つかっていない。 (2月末のアンケート調査及び企業訪問による情報収集は継続) 廃棄物の活用にとりまう法規制等の課題の把握 		<ul style="list-style-type: none"> (市内業者が取り扱うエコ商品の情報を提供することにより、市民が身近に環境を感じ、率先して環境負荷の商品や製品を使用し、環境保全や温暖化対策に寄与する素地を形成すること。 廃棄食材を可能な限りリユース、リサイクルすることにより環境負荷の低減を図る。

地域	高知市<高知市>	項目	24. コンテンツビジネスの創出(1/2)			
事業概要	漫画をはじめとする本県の特徴ある地域コンテンツをビジネスにつなげる取組を進めることにより、外貨の獲得や新たな雇用の創出を目指す。				事業主体	高知市、高知県、関係団体
主な内容	コンテンツビジネスの事業化	地域AP 掲載ページ	70	指標	目標値 (H23)	

実行支援チーム長	
所属	商工労働部新産業推進課
氏名(連絡先)	栗山 (2544)

月	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	○コンテンツビジネス推進組織体制検討		取組の実現が可能となるメンバーの選定 推進イメージの検討	○四経局コンテンツ産業支援室と協議(4/23) ・21年度コンテンツビジネス関連事業の進め方について協議 ○「高知まんが・コンテンツビジネス塾」(以下「まんが塾」)メンバーとの意見交換会(4/25) ・今後の推進イメージ及び推進委員メンバー候補の検討 ○高知市と協議(4/30) ・地域APの進め方に関する協議				
5月	○コンテンツビジネス推進組織の発足 ○コンテンツビジネス研究会の開催 (クリエイター実態調査の内容検討)	○国事業への申請 (産業振興センター)	組織への参加要請 実質的な議論につながる会議の運営方法 国事業への企画提案書の作成 実態調査の分野、内容、方法の検討	○四経局及び「まんが塾」メンバーとの意見交換会(5/16) ・四経局事業への企画提案の内容検討 ○藤井氏と協議(5/21) ・四経局事業コーディネータ及び、「高知県コンテンツ産業推進会議」(以下「推進会議」)会長の就任依頼 ○推進会議委員候補の選定、依頼	・四経局事業内容の調整等に時間を要し、スケジュールに1か月程度の遅れを生じた。 ・新ビジネス創出のための検討に国の事業を活用する方針が固まった。			
6月	○クリエイター実態調査発注 ○研究会開催 (先進地視察の内容、試験的見本市の検討) ○先進地調査			○推進会議委員への正式就任依頼 ○推進会議設置要綱策定 ○第1回推進会議開催(6/20) ・クリエイター実態調査、運営方法検討 ○国事業入札説明会(6/18)	・実態調査を早期に委託し、調査の結果が次年度に繋げる必要がある。			
7月	○研究会開催 (試験的見本市の開催詳細)	○国事業の受託契約締結 (産業振興センター)		四経局「高知まんが・ビジネス創出支援事業」受託契約締結(7/17)	クリエイター実態調査委託業務プロポーザル公募開始(7/23)	経産省事業「COOL JAPAN」申請検討会(7/10,7/29)	・クリエイター実態調査について、推進会議の意見を踏まえ、一般入札からプロポーザルでの公募に変更した。	
8月	○クリエイター実態調査結果報告 ○研究会開催 (実態調査に基づき、クリエイターデータベース作成・見本市の開催の検討)	○国事業の開催(5回)		藤井塾長と事業の進め方を協議(8/20)	クリエイター実態調査委託業務プロポーザル審査会(8/17)	・経産省事業「COOL JAPAN」申請検討会(8/14) ・民間事業者のコンソーシアムで「COOL JAPAN」申請予定(8月末)	・クリエイター実態調査委託事業者を決定し、調査内容等の詳細について協議を行い、調査を開始する。	
9月	○クリエイター実態調査取りまとめ ○研究会開催 (次年度計画案の作成) ○コンテンツビジネス推進組織会議開催 (次年度計画案の報告、決定)		・クリエイター実態調査の結果に基づき、データベース構築及び見本市の開催の検討 ・意見交換等による事業推進に有効な計画案の作成	「第1回高知まんが・ビジネス創出塾」開催(9/17)	クリエイター実態調査委託契約締結、調査開始(9月上旬)	COOL JAPAN採択結果公表(9月下旬)	・「COOL JAPAN」で採択されれば、活用に向けた総合プロデューサーの役割を担う地域宣伝会議に参画し、支援する。	

月	計画(P)		実行(D)		評価(C)		改善(A)	
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
10月	○研究会開催 (次年度予算の見積もり、役割分担)		国事業におけるビジネスモデルの検討	・先進地(東京コンテンツマーケット)視察(10/14,15) ・第2回高知まんが・ビジネス創出塾」開催(10/27) ・第2回高知県コンテンツ産業推進会議開催(10/27)	・クリエイター実態調査アンケート配布、回収、ヒアリング調査実施 ・推進会議にて中間報告	・推進会議、創出塾においての行政の取り組みと民間が行うビジネスの整理など、今後の会議、塾の進め方の整理が必要。 ・来年度事業について討論し、事業(案)がまとまった。		
11月	○研究会開催		東京コンテンツマーケットの視察	「第3回高知まんが・ビジネス創出塾」開催(11/21)	・クリエイター実態調査結果報告	・今後の会議、塾の進め方の整理がまとまった。 ・ビジネスモデルプランの検討が進みつつある。		
12月	○研究会開催			・第3回高知県コンテンツ産業推進会議開催(12/19) ・人材育成研究会、ビジネス推進研究会開催(12月下旬)	「第4回高知まんが・ビジネス創出塾」開催(12/19) ・クリエイター実態調査結果の詳細分析	・クリエイター実態調査結果を分析し、来年度事業に反映する。 ・ビジネスモデルプラン取りまとめに向けた議論。		
1月	○研究会開催							
2月	○研究会開催							
3月	○研究会開催(今年度事業のまとめ) ○コンテンツビジネス推進組織会議開催(今年度事業の総括)	○国事業実績報告	・次年度事業への引き継ぎ方					

産業成長戦略の取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
24 コンテンツビジネスの創出に向けた取り組みの推進 ・漫画をはじめとする本県の特徴ある地域コンテンツをビジネスにつなげる取組を進めることにより、外貨の獲得や新たな雇用の創出を目指す。	○推進する方向性、組織が確立されていない。 ○県内クリエイターの実態(ジャンル別の人数、活動頻度等)をはじめとして、コンテンツ産業に関する情報の不足	○高知県コンテンツ産業推進会議の設置 ・県内のコンテンツ産業関係者・クリエイター・行政関係者の19名で構成 ・2回開催(県の来年度事業の検討、人材育成研究会及びビジネス推進研究会の設置) ○高知まんが・コンテンツビジネス創出塾(国費事業) ・3回開催(全5回) 本県のコンテンツ産業振興のためのビジネスモデルプランを検討 ○クリエイター実態調査の実施 ・9月～11月 約650通配布し、290通回答(回答率45%) ヒアリング調査12名	○行政の取り組みと民間が行うビジネスの整理、支援する対象分野の絞り込み、コーディネーター・プロデューサー不在などの課題抽出 ○3つのビジネスモデルプランを検討 ○クリエイターの実態の把握 ・困っていること(依頼が少ないこと、活動資金が不足していること、活動の場が少ないこと) ・希望する行政のサポート(広報・宣伝などの情報発信、受発注者のマッチング、展示会等の施設利用の減額) ・高知県クリエイターデータベース構築時の登録希望者(回答者の70%<個人73%、団体65%)	○コンテンツ産業振興に向けた取組への参加者の拡大、意識の共有化、方向性の確認が進む。 ○来年度事業実施に向けた協力態勢が構築される。 ○ビジネスモデルプランがまとまる。	○複数の中核的な企業とそれを支えるグループ企業群の形成 ○コンテンツビジネスの起業化件数:1件)

地域	高知市<高知市>		項目	25. おかみさん市の拡充		実行支援チーム長		
事業概要	中心商店街において、県内各地域の産品を紹介・販売する場として「おかみさん市」の拡充を図り、地域産品の県中心部での認知度の向上やブラッシュアップに向けた取組を進め、地域の生産者の収入の確保につなげるとともに、商店街の売上げの増加に資する。			事業主体	・香番街商店街振興組合 ・京町・新京橋商店街振興組合 ・大橋通り商店街振興組合		所属	商工労働部経営支援課
主な内容	◆県内各地域の産品を紹介・販売する場(街路市)の拡充		地域AP掲載ページ	70~71	指標	中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 商店街等の通行量(夏期・休日) (H20 5.6万人/日)	目標値(H23)	空き店舗の 解消 減少傾向に 歯止め
氏名(連絡先)	堀内		(9679)					

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
4月							
5月	・おかみさん市の世話役らとの出店ルールの検討	・商店街の事業者との調整 ・現在の出店者との調整					
6月	・地域資源活用共有会議との連携 ・出店希望者の募集・PR	・出店希望者の掘り起こし	・商店街関係者と出店ルールについて協議	・商店街関係者と現状の問題点の整理と出店ルールについて協議し、6月中を目途にルール(案)づくりを行う。 ・ルールが決まったら、出店希望者を募集していく。			
7月	・出店者の選定 ・出店		・出店ルールの決定(香番街、京町・新京橋) ・おかみさん市実行委員会より、現在の出店者に対し新しいルールを説明 ・新規出店希望者の募集を開始 ・地域支援企画員を通じた新たな出店希望者の掘り起こしの開始		・出店ルールの決定 ・出店希望者の募集・PR	・出店希望者の掘り起こし	
8月	・地域資源活用共有会議との連携(随時) ・出店希望者の募集(随時) ・出店者の選定(随時) ・出店(随時)				・出店者の選定 ・出店		
9月	出店者の募集・決定				出店者の募集・決定		

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	出店者の募集・決定			・ふるさとまつりでの産業振興計画のゾーンで、取り組みを紹介し、募集要綱を配布			
11月							
12月					・新たな出店申込がない		
1月							
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
25. おかみさん市の拡充 ◆中心商店街において、県内各地域の産品を紹介・販売する場として「おかみさん市」の拡充を図り、地域産品の県中心部での認知度の向上やブラッシュアップに向けた取組を進め、地域の生産者の収入の確保につなげるとともに、商店街の売上げの増加に資する。	◆現在の出店者との調整 ◆出店希望者の掘り起こし	◆出店ルールの策定 ◆現在の出店者に新ルールを説明(おかみさん市実行委員会) ◆出店希望者の掘り起こし ・地域支援企画員を通じた市町村等への呼び掛け ・ふるさとまつりでの紹介、呼びかけ			◆中心商店街の空き店舗の解消 ◆商店街等の通行量の減少傾向に歯止め

地域	高知市<高知市>	項目	26. 中心商店街でのアンテナショップの開設				実行支援チーム長			
事業概要	中心商店街において、常設のアンテナショップを開設し、地域産品の販売促進や都市部の住民を対象にしたマーケットリサーチにより、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加に資する。			事業主体	未定			所属	商工労働部経営支援課	
主な内容	◆常設のアンテナショップの開設		地域AP掲載ページ	70~71	指標	中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 商店街等の通行量(夏期・休日) (H20 5.6万人/日)	目標値 (H23)	空き店舗の解消 減少傾向に 歯止め	氏名(連絡先)	堀内 (9679)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月							
5月	<ul style="list-style-type: none"> 国の補助制度の活用など、高知市内でのアンテナショップの設置を支援する仕組みの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域商店街活性化法」(未成立)に係る補助内容の詳細が決まっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域商店街活性化法」に関する情報の収集(四国経済産業局) 「地域商店街活性化法」に係る補助制度を活用した県の支援策の検討 高知市担当課との情報交換及び支援策の協議 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域商店街活性化法」は国会審議中のため、補助制度に係る詳細は分からないが、これまで示されていることを元に、高知市と情報交換しながら、支援策の協議・検討を行った。 			
6月	<ul style="list-style-type: none"> 高知市内でのアンテナショップの設置可能場所や実施主体の検討 仕入先の検討 集荷場所の検討 配送ルートの検討 	<ul style="list-style-type: none"> 開設に適切な場所や実施主体の検討 県内市町村の新商品、特産品などをいかに多くあつめるか 各市町村からの品物をどのように集配するか 	<ul style="list-style-type: none"> 支援チームを中心に、引き続き情報交換と支援策を検討 アンテナショップの実施主体、仕入先、配送ルートについても検討 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域商店街活性化法」に係る補助制度の詳細が分からないため、細かなところまでは協議できない。 			
7月	<ul style="list-style-type: none"> 受入場所・バックヤードの検討 配送コスト・日時・場所の検討 POSシステムの検討 		<ul style="list-style-type: none"> 四国経済産業局との情報交換 				
8月	<ul style="list-style-type: none"> 顧客管理データベースの検討 販売分析手法の検討 	<ul style="list-style-type: none"> POSと連動するパッケージソフトが見つかるかどうか 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域商店街活性化法」施行 高知市担当課との情報交換及び支援策の協議 				
9月	<ul style="list-style-type: none"> 「地域商店街活性化法」の施行(予定) 店舗レイアウトの検討 		<ul style="list-style-type: none"> 中心街事業協同組合が、アンテナショップを含む商店街活性化事業計画を国に申請 同計画に位置付けられたアンテナショップを設置する民間会社より、国へ補助(中小商業活力向上事業)要望書を提出 	<ul style="list-style-type: none"> 事業内容、手段の詳細についてつめていく必要がある。 			

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	<ul style="list-style-type: none"> 「地域商店街活性化法」に係る補助制度との調整 高知市内でのアンテナショップの設置を支援する仕組みの確立 設置場所、実施団体の決定 店舗レイアウトの検討 設備機器の検討 		<ul style="list-style-type: none"> 中心街事業協同組合が、アンテナショップを含む商店街活性化事業計画について、国から認定を受ける 同計画に位置付けられたアンテナショップを設置する民間会社が、国から補助要望の採択を受ける 9月議会において、県の支援(中心商店街活性化モデル事業)に係る補正予算の承認を受ける 実施主体である民間会社が、国へ補助(中小商業活力向上事業)申請 				
11月	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の検討 HPの検討 イベント等の検討 		<ul style="list-style-type: none"> 各市町村、商工会議所、商工会に商品情報の提供を依頼 各市町村を訪問して商品の掘り起こし 高知市担当課と引き続き情報交換及び事業の支援策について協議 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者が国と申請内容の詳細を協議。 			
12月	<ul style="list-style-type: none"> 補助金交付決定 店舗改装 従業員の採用・研修 		<ul style="list-style-type: none"> 高知市が支援策を検討(12月議会で提案予定) 国、県、高知市の補助金交付決定又は事業認定(見込み) 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、事業の詳細を決定し、具体化していく必要がある。(店舗改装、従業員の採用・研修、POSシステム開発、HP作成等) 引き続き県内各地の商品情報を集め、商品を集める必要がある。 			
1月	<ul style="list-style-type: none"> 広告宣伝 HP作成 						
2月	<ul style="list-style-type: none"> 高知市内のアンテナショップ開設 						
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
26. 中心商店街でのアンテナショップの開設 ◆中心商店街において、常設のアンテナショップを開設し、地域産品の販売促進や都市部の住民を対象にしたマーケットリサーチにより、地域の生産者等の収入の確保につなげるとともに、各種の情報提供により、来街者の利便性の向上や商店街の売上げの増加に資する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆国、県、高知市、事業者の連携と行政の支援 ◆事業の詳細決定と具体化(店舗改装、従業員の採用・研修、POSシステム開発、HP作成等) ◆県内各地域からの商品集め 	<ul style="list-style-type: none"> ◆国、県、市、事業者の協議 ◆地域商店街活性化法に基づく計画の申請 ◆国の補助金の要望書提出 ◆国の補助金の交付申請 ◆県の支援策の決定(9月議会: 中心商店街活性化モデル事業費補助金) ◆高知市の支援策の検討(12月議会で提案予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域商店街活性化法に基づく計画に係る国の認定 ◆国の補助金の要望採択 		<ul style="list-style-type: none"> ◆中心商店街の空き店舗の解消 ◆商店街等の通行量の減少傾向に歯止め

地域	高知市		項目	27 安心・安全・快適な商店街づくり			実行支援チーム長	
事業概要	商店街の設備やサービスの充実により、来街者の増加や滞在時間の延長を促し、商店街の活性化につなげる				事業主体	高知市 関係団体など		
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆アーケードの整備 ◆商店街統一エコバッグの導入 ◆ワゴンセール取組み 		地域AP 掲載ページ	70~71	指標	中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 商店街等の通行量(夏期・休日) (H20 5.6万人/日)	目標値 (H23)	空き店舗の解消 減少傾向に歯止め
所属	商工労働部経営支援課							
氏名(連絡先)	友草正広 (823-9698)							

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等			
5月		<p>【エコバッグ事業について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」の採択待ち ・商店街でのエコバッグ普及のため、協力店舗の拡大と特典の発案が必要 <p>【ワゴンセール事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントと商売が一体となった取り組みの検討 ・国の補助事業の活用検討 ・アンテナショップとの連携 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 				
6月			<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 		
7月			<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	
8月	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	
9月	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	<p>【エコバッグ事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地方の元気再生事業」5月中旬事業不採択 ・事業規模を縮小し、商品化への検証事業から、商品開発を目的とする収益事業へと変更 ・事業費: 400千円(次世代委員会) ・制作費: 1,200~1,300円/個 ・売 値: 2,000円/個(踊り子: 1,500円/個)予定 ・事業は9月末で一旦終了し、収益等をみて今後の展開を検討 	

地域	高知市	項目	28 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上				実行支援チーム長	
事業概要	多様な主体の参画のもと、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取組を進める				事業主体	高知市 関係団体など		
主な内容	◆新たな「高知市中心市街地活性化基本計画」の策定による中心市街地の再生に向けた取組 ◆中心市街地における商業、観光等の基盤強化		地域AP 掲載ページ	70~71	指標	中心商店街の空き店舗率 (H20 15.3%) 商店街等の通行量(夏期・休日) (H20 5.6万人/日)	目標値 (H23)	空き店舗の解消 減少傾向に歯止 め
所属	商工労働部経営支援課							
氏名(連絡先)	友草正広 (823-9698)							

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWI1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
5月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 中心市街地活性化基本計画素案のブラッシュアップ </div>		・素案に基づく具体的施策の洗い出し ・県産業振興計画、高知市地域アクションプランなど、他の計画との整合性	【第5回高知市中心市街地活性化基本計画検討委員会(6月1日)】 ・平成20年度成果報告 ・アンケート結果報告(基本計画に搭載する事業提案) ・今後の取り組み 【第1回商店街次世代グループ勉強会(6月16日)】			
6月				【第2回商店街次世代グループ勉強会(7月23日)】 【第3回商店街次世代グループ勉強会(8月17日)】			
7月							
8月							
9月							

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWI1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; writing-mode: vertical-rl; transform: rotate(180deg);"> 中心市街地活性化基本計画素案のブラッシュアップ </div>		活性化事業の現況を把握するため、関係各課に進捗状況等について調査を依頼				
11月			<ul style="list-style-type: none"> 関係各課への事業ヒアリング はりまや橋～高知城エリア活性化に係る、県市合同検討会の立ち上げ(11月30日) 				
12月			<ul style="list-style-type: none"> 関係各課への事業ヒアリング 県市合同検討会の開催(活性化素案作成) 				
1月			<ul style="list-style-type: none"> 県市民間合同PT開催(予算見積→当初予算への反映) 				
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
【項目】 28 中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上 【概要】 多様な主体の参画のもとに、中核市として、にぎわいと活力ある中心市街地の再生を目指し、都市機能の増進と経済活力の向上を図る取り組みを進める	<ul style="list-style-type: none"> 素案に基づく具体的施策の洗い出し 県産業振興計画、高知市地域アクションプランなど、他の計画との整合性 	既存の活性化事業の現況把握と新規事業の洗い出し	基本計画掲載事業の検討	基本計画掲載事業の選定	

地域	高知市	項目	29 体験型観光推進のための組織づくり				実行支援チーム長		
事業概要	近隣地域との連携を強化して広域観光圏を形成し、「滞在型・体験型観光」を推進するため、広域観光周遊ルートづくりや問い合わせへの一元的対応などを行う地域コーディネート組織の確立を目指すとともに、広域観光の魅力づくりに向けた取組を進める。				事業主体	高知市・県(観光政策課)・事業実施主体(調整中)			
主な内容	◆広域的な「滞在型・体験型観光」を推進する仕組みづくり		地域AP掲載ページ	72~73	指標	観光客の入込み者数(H19 230万人)	目標値(H23)	300万人	所属 観光政策課 氏名(連絡先) 別府 誠 (823-9606)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(G)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p> <p>・現在高知市を含めた中央広域で観光を進めている高知中央広域市町村圏事務組合(高知市、南国市、香美市、香南市)の枠組みを基本に高知県中央部の広域の観光振興策の検討を行う。</p> <p>・第1回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(平成21年度広域活動事業について)</p>	<p>記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する</p> <p>・高知市は、春野町と合併したことにより、仁淀川流域にも位置することとなり、仁淀川流域市町村との連携も考えられる。</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)</p> <p>・第1回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(平成21年度広域活動事業について)(4/28)</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果</p>	<p>記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画</p>		
5月	<p>・第2回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(広域観光モニターツアー等について)</p>		<p>・第2回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(広域周遊観光事業(観光展)等について)(6/5)</p>				
6月			<p>・広域周遊観光促進事業観光展(6/26~27) 関西方面から圏域への観光客の誘致促進につなげることを目的に神戸市中央区三宮(さんちか夢広場)で圏域の観光PRとアンケート調査を実施した。</p>				
7月	<p>・第3回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)で県観光政策課も交えて、国の観光圏整備事業も視野に入れた広域での取組について検討</p> <p>・議論の内容によっては、隣接市町村の行政担当者や管内の観光関係者も随時巻き込んでいく。</p>	<p>・構成市町村に国の観光圏整備事業について腹に入れてもらう。</p>					
8月							
9月	<p>・第4回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(今後の観光圏整備事業を視野に入れた広域観光の進め方、事業内容や広域の枠組みについて協議) ※必要により近隣市町村の行政担当者や管内の観光協会等も協議に加わってもらう。</p>	<p>広域で観光を進めるにあたっての各市町村における役割分担の理解</p>					

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月				・勉強会を実施する前に、関係市町村と広域観光の推進についての意見交換から始めることとする。	・高知市が呼びかけて、高知中央広域市町村圏のエリアよりも広いエリアの市町村(仁淀川流域)を対象に、県観光政策課も交えて、国の観光圏整備事業の勉強会を開催		
11月	・第5回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(今後の観光圏整備事業を視野に入れた広域観光の進め方、事業内容や広域の枠組みについて一定の方向出し) ※内容により近隣市町村の行政担当者や管内の観光協会等についても理解を求め。	内容により、できる限り、各構成団体の次年度の予算要求に反映させる。	・高知市担当職員が、近隣市町村に訪問し、意見交換 (香美市、南国市 11/13) (香南市) (いの町)	・広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)とは、別に事業を進めることとする。 ・意見交換を行った感触として、近隣市町村が広域で観光を進めることについて、メリットを感じていない。	・第3回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(今後の観光圏整備事業を視野に入れた広域観光の進め方、事業内容や広域の枠組みについて一定の方向出し) ※内容により近隣市町村の行政担当者や管内の観光協会等についても理解を求め。	内容により、できる限り、各構成団体の次年度の予算要求に反映させる。	
12月	・第6回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(次年度の観光圏整備事業を視野に入れた広域観光の事業内容の詰めについて) ※内容により近隣市町村の行政担当者や管内の観光協会等についても理解を求め。				・第4回広域観光推進検討会(高知中央広域市町村圏事務組合主催)の開催(次年度の観光圏整備事業を視野に入れた広域観光の事業内容の詰めについて) ※内容により近隣市町村の行政担当者や管内の観光協会等についても理解を求め。		
1月	・次年度以降の観光圏整備事業を視野に入れた広域観光の展開に向けて準備作業				・次年度以降の観光圏整備事業を視野に入れた広域観光の展開に向けて準備作業		
2月					・高知市職員による先進地視察(にし阿波観光圏)の実施	・実際に効果が上がっている団体の動きを見て観光圏を実施することのメリットを中心的な役割を担う高知市職員が腹に入れる必要がある。	
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
29 体験型観光推進のための組織づくり ・近隣地域との連携を強化して広域観光圏を形成し、「滞在型・体験型観光」を推進するため、広域観光周遊ルートづくりや問い合わせへの一元的な対応などを行う地域コーディネート組織の確立を目指すとともに、広域観光の魅力づくりに向けた取組を進める。	・近隣市町村には多くの観光資源が存在するものの、一体となった広域連携が図れていない。	関係市町村観光所管課と広域観光について意見交換を行った。(香南市、南国市、香美市、いの町)		・関係市町村と広域観光を進めるための意識の醸成ができ始めた。	観光客の入込み数300万人(H19 230万人)

地域	高知市		項目	30 「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立 2-1				
事業概要	全国に誇れる「よさこい」を通じて、外国人も含めた観光客の誘致と、「鳴子」などの地域物産による「よさこい」ブランドの確立を目指す。			事業主体	高知市・県(地産地消・外商課)			
主な内容	◆「よさこい」の海外への情報発信		地域AP掲載ページ	72~73	指標	観光客の入込み者数(H19 230万人)	目標値(H23)	300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画		記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月							
5月							
6月							
7月	来年度の在日大使館の大使や参事官を招待するモニターツアーの実施に向けて、課題等について整理・検討する。	よさこい祭りの会場は、大変混み合っているため、ゲストの安全確保と祭りの円滑な運営が両立可能な関係機関と十分検討すること。	来年度の在日大使館の大使や参事官を招待するモニターツアーの実施に向けて、課題等について整理・検討を実施。				
8月							
9月							

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	↓	・来年度の在日大使館の大使や参事官を招待するモニターツアーの実施に向けて、よさこい祭り振興会等関係機関と課題解決に向けた協議を行い、来年度の実施に向けて方向性を決定し、必要により予算化の作業を行う。		・来年度の在日大使館の大使や参事官を招待するモニターツアーの実施に向けて、課題等について整理・検討を継続実施		・本事業については、事業の中止も視野に検討	・来年度の在日大使館の大使や参事官を招待するモニターツアーの実施に向けて、課題等について整理・検討を継続実施(予算時期までに結論出し)。	
11月				↓		・来年度の在日大使館の大使や参事官を招待するモニターツアーの実施に向けて、課題等について整理・検討を継続実施	・本事業については、事業の中止も視野に検討	・来年度の在日大使館の大使や参事官を招待するモニターツアーの実施に向けて、課題等について整理・検討を継続実施(予算時期までに結論出し)。
12月								
1月	↓							
2月								
3月								

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
30 「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立 2-1 全国に誇れる「よさこい」を通じて、外国人も含めた観光客の誘致と、「鳴子」などの地域物産による「よさこい」ブランドの確立を目指す。	・全国に広がり日本の祭りの一つとして成長する高知のよさこい祭りだが海外ではあまり認知がされていない				観光客の入込み数300万人(H19 230万人)

地域	高知市	項目	30 「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立 2-2				
事業概要	全国に誇れる「よさこい」を通じて、外国人も含めた観光客の誘致と、「鳴子」などの地域物産による「よさこい」ブランドの確立を目指す。			事業主体	高知市・県(地産地消・外商課)、高知県産「オリジナル鳴子」ブランド化検討協議会		
主な内容	◆「よさこい」ブランドの確立	地域AP掲載ページ	72~73	指標	観光客の入込み者数(H19 230万人)	目標値(H23)	300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画		
5月	①鳴子賞 名古屋「特別賞」用鳴子の製作 ②カラー・素材・デザインの発信 HPIにてUP(通年) ③「鳴子KODAKASA」のタグの取り付け タグの製作取り付け開始(通年)	②HPの更新にかかる費用調達。前回(5~6年前)みずほ銀行の助成金で導入。他の助成金を検討中。	①名古屋「特別賞」渡し(5月初旬) ②Deco鳴子実行委員会(高知女子大、高知大学よさこいチーム計10人)により、毎日HP更新中	②HP:毎日の更新により、新規及び円滑な情報発信の実施。			
6月	④鳴子のデザインコンテスト 募集		①岡山県(8月本番)への提案→見送り スーパーよさこいへの提案→採択 副賞:80cm特大鳴子 本祭への提案→今年度×、来年度検討 全国大会への提案→今年度×、来年度検討 ②Deco鳴子実行委員会(高知女子大、高知大学よさこいチーム計10人)により、毎日HP更新中 HPで情報発信するため、今年のチラシ作成はなし				
7月	④鳴子のデザインコンテスト 決定・製作		④募集は7月1日~9月15日に変更				
8月			③8月29~30日、スーパーよさこい(東京原宿)時に修理したよさこいにタグの取り付け →修理場確保できず未実施 ①スーパーよさこいでの鳴子賞の授与 ④スーパーよさこいでの鳴子組立とDeco鳴子製作支援	①県外への鳴子のPR ④県外への鳴子のPR			
9月	「鳴子」以外のよさこい関連物のブランド化への検討		④9月15日応募締め切り(応募総数149件、9月末各賞発表(一般の部(高知(自然)、和風)、ジュニアの部(小学校6年生まで)(自由テーマ)、審査員特別賞一各受賞者に、木の表彰状と45cmの鳴子を副賞で送付 ・賞の該当なし:高知(龍馬、食べ物)、顔	④Deco鳴子実行委員会が解散し、HPのケアが手薄となったことから、受賞作品をHPに掲載するのが遅れている。			

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		②カー・素材・デザインの発信 来年の企画 ④鳴子のデザインコンテスト 面白デザイン発表 商品化に向けた検討					
11月							
12月				④来年度の鳴子のデザインコンテスト事前協議(高知大生、高知女子大生) ②映画「君が踊る、夏」で製作した鳴子を使用したことから、鳴子に映画の名入りができないか映画会社と協議			
1月							
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
30 「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立 2-2 全国に誇れる「よさこい」を通じて、外国人も含めた観光客の誘致と、「鳴子」などの地域物産による「よさこい」ブランドの確立を目指す。	◆「よさこい」ブランドの確立	①スーパーよさこいでの「鳴子賞」の授与 ④スーパーよさこいでの鳴子組立実演とデコ鳴子製作の支援 ④鳴子のデザインコンテスト実施 応募総数149件	①県外への鳴子のPR ④県外への鳴子のPR ④県外への鳴子のPR(約90%が県外からの申し込み) ・一般の部(高知(自然)、和風)、ジュニアの部(小学校6年生まで)(自由テーマ)の各賞、審査員特別賞の授与 ・受賞作品HP掲載なし ・受賞作品の商品化なし	①よさこいの本場は、高知であることをPR ④鳴子に触れることによる高知のPR	観光客の入込み数 300万人

地域	高知市	項目	31 映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致				実行支援チーム長		
事業概要	「よさこい祭り」を題材にした映画の製作を支援し、「よさこい」発祥の地として全国にアピールするとともに、ロケ地を観光ルート化することにより、観光客の増加につなげる。				事業主体	高知市・高知市旅館ホテル協同組合			
主な内容	◆映画の製作への支援とロケ地の観光ルート化			地域AP掲載ページ	72~73	指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)	目標値 (H23)	300万人
所属	観光政策課			氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)				

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: 5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画		
5月	「よさこい」を題材にした映画の高知でのロケについての支援方法の検討。高知市は、9月議会でロケに対する補助金の補正予算を計上する予定。	高知県観光振興部においては、地元での盛り上がりのある映画について、補助金を交付したことはあるが、今回のケースについて対象とするのは困難な状況。 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金の活用を検討予定	「よさこい」を題材にした映画の高知でのロケについての支援方法の検討。高知市は、9月議会でロケに対する補助金の補正予算を計上する予定。	高知県産業振興推進総合支援事業費補助金は、単純なロケへの支援については適用困難。ロケ地を観光地化するための経費について、対象とする方向で、高知市とも協議中。			
6月							
7月							8月の審査会で審査を受けるためには、7月末までに計画書を提出する必要があるが、この時期までに、ロケ地やロケの具体的な内容がクリアになるかどうか不明。それがクリアにならないと、計画書を作成することは困難。その場合、審査会を1月遅らせることも検討しなければならない。
8月			高知市・高知県産業振興推進部、観光振興部協議のうえ、新たなフィルムコミッションのかたちとして、高知県観光産業振興事業費補助金で、高知でのロケについて支援することとする(8/14) 高知県観光産業振興事業計画書の提出(8/19)		高知県産業振興推進総合支援事業費補助金計画書を提出 高知県産業振興推進総合支援事業費補助金審査会で審査		
9月	高知市は、9月議会でロケに対する補助金の補正予算計上、議決		高知市9月議会でロケに対する補助金の補正予算計上、議決		高知市は、9月議会でロケに対する補助金の補正予算計上、議決		

月	内容 記載 方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
		記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		・高知市9月議会の補助金に係る補正予算議決後、補助金交付要綱の制定、通知、申請、交付決定 ・「よさこい」を題材にした映画の高知でのロケ実施		・高知県観光産業振興事業費補助金交付申請書の提出 ・高知県観光産業振興事業費補助金の交付決定 ・「よさこい」を題材にした映画の高知でのロケ実施			
11月		・「よさこい」を題材にした映画の撮影・編集		・「よさこい」を題材にした映画の撮影・編集			
12月							
1月							
2月		・ロケ地の観光ルート化に向けて、関係機関で協議(取組内容、観光ルートの選定等)					
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
31 映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致 ・「よさこい祭り」を題材にした映画の製作を支援し、「よさこい」発祥の地として全国にアピールするとともに、ロケ地を観光ルート化することにより、観光客の増加につなげる。	・高知がよさこい鳴子踊り発祥の地であることが、全国でまだまだ知られていない	・高知のよさこいをテーマにした映画の高知ロケの実施が決定したことから、県・市でロケに対して支援を行った	・よさこいをテーマとした映画の高知ロケの実施 ・映画を活用した誘客の取組を検討	・来年9月に予定される上映期間中や、上映以降においての映画を活用した高知県、高知市への観光PR等について、映画会社から協力を得られる予定。	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)

地域	高知市	項目	32 観光情報の集約と情報発信力の強化				実行支援チーム長		
事業概要	観光客の多様なニーズに対応するため、観光と物産に関する情報を集約するとともに、インターネットを積極的に活用して、多様で特色あるPRを推進する。				事業主体	高知市・高知市旅館ホテル協同組合			
主な内容	◆観光及び物産に関する情報の集約と多様で効果的な情報発信		地域AP掲載ページ	72~73	指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)	目標値 (H23)	300万人	所属 観光政策課 氏名(連絡先) 別府 誠 (823-9606)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題	
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 県補助金計画書提出、内示、交付申請書提出、交付決定 (webマガジン「旅色」高知版の作成事業) 		<ul style="list-style-type: none"> 県補助金計画書提出、内示、交付申請書提出、交付決定 (webマガジン「旅色」高知版の掲載事業) 					
6月								
7月	<ul style="list-style-type: none"> 【県主催】第1回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討 (県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など) 		<ul style="list-style-type: none"> 【県主催】第1回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討 (県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など) (7/30) 	<ul style="list-style-type: none"> 会議の目的、課題について認識の確認、各団体の広報の取組状況など協議 	<ul style="list-style-type: none"> 【県主催】第1回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討 (県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など) 			
8月						<ul style="list-style-type: none"> 【県主催】第2回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討 (県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など) (8/26) 	<ul style="list-style-type: none"> 「よさこいネット」・情報発信館の活用について検討・項目出し 	<ul style="list-style-type: none"> webマガジン「旅色」高知版の作成
9月			<ul style="list-style-type: none"> webマガジン「旅色」高知版の作成 				<ul style="list-style-type: none"> webマガジン「旅色」高知版の掲載開始 	

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月		・【県主催】第2回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討(県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など)		・【県主催】第3回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討(県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など)(10/15)		・【県主催】第3回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討(県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など) ・webマガジン「旅色」高知版のHP掲載	
11月	・webマガジン「旅色」高知版の作成		・次年度以降の展開について検討			・次年度以降の展開について検討	
12月			・【県主催】第4回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討(県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など)(12/1)				
1月	・webマガジン「旅色」高知版のHP掲載(土佐・龍馬であい博情報交流館での情報発信開始)					・土佐・龍馬であい博情報交流館での情報発信開始	
2月		・【県主催】第3回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討(県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など)				・【県主催】第4回情報共有会議で、県全体の枠組の中で効果的な情報発信のあり方について検討(県、県コンベンション協会、市町村、観光協会、観光施設、宿泊施設など)	
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
32 観光情報の集約と情報発信力の強化 ・観光客の多様なニーズに対応するため、観光と物産に関する情報を集約するとともに、インターネットを積極的に活用して、多様で特色あるPRを推進する。	・高知を訪れた観光客の方々からは、非常に高い評価をいただいているものの、高知の観光情報が届いておらず、情報発信が十分でない。	・webマガジン「旅色」高知版の作成・掲載 ・【県主催】情報共有会議の開催: 4回	・webマガジン「旅色」全体のページビュー: 140万ページビュー ・webマガジン「旅色」読者数: 86万人 ※上記の数値は、21年9月の一ヶ月間の集計数		観光客の入込み数300万人(H19 230万人)

地域	高知市	項目	33 「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大					
事業概要	「エンジン01オープンカレッジin高知」を観光振興の絶好の機会としてとらえ、「エンジン01」会員への高知の魅力のアピールを通じて、県外観光客の誘致につなげる。			事業主体	エンジン01文化戦略会議オープンカレッジin高知実行委員会			
主な内容	◆エンジン01会員への高知の魅力のアピールを通じた県外観光客の誘致		地域AP掲載ページ	72~73	指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)	目標値 (H23)	300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	<ul style="list-style-type: none"> かるぼーとに実行委員会事務局新設(高知市教委生涯学習課3名(うち1名臨時))(4/1) 実行委員会各部会ごとに連携しながら、「エンジン01事務局、各市町村と調整を図りながら、「オープンカレッジin高知」の実施に向けて準備作業 	<ul style="list-style-type: none"> 当初の予定より講師の数が増える(約100名→120名程度)予定であること、当初の予定になかった「土佐龍馬ミュージカル」を実施することが決定されたため、それに伴う新たな財源対策が必要となっている。 平成21年1月から開催される今年度の高知県の観光の目玉事業である土佐・龍馬であい博とどのような形で連携できるか要検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 事務局が全市町村の首長等を訪問するなどして、エンジン01のウェルカムパーティーへの協力や地元の観光資源(文化、食、物産等)の情報発信にエンジン01を活用してもらうよう協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村の首長の反応については、それぞれ温度差あり。 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 講師に高知をPRしてもらう仕組みの検討、準備、調整、実施。また随時、事務局が地域物産等と講師(著名人)とのつなぎを行う。 関係機関と実施に向けて協議(具体的な取組内容の知恵出し、実施体制、役割分担、実施スケジュールについて協議) 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関に高知の観光資源(文化、食、物産等)をPRするビッグチャンスであるという意識を強く認識してもらう必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> PR・地域連携部会で講師に高知をPRしてもらう仕組みについて検討(5/13) 				
6月	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関と高知をPRしてもらう仕組みについて検討(具体的な取組内容、実施体制、役割分担、実施スケジュールについて決定) 	<ul style="list-style-type: none"> この時期には、具体的な講師に高知をPRしてもらう仕組みについて、一定明確にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> PR・地域連携部会で講師に高知をPRしてもらう仕組みについて検討(6/10) 	<ul style="list-style-type: none"> 6/10の東京でのCM撮影に合わせ、陣中見舞いとして、協力を得られる市町村等から県内の選りすぐりの特産品を著名人に送付(6/12) 	<ul style="list-style-type: none"> 十分ではないが、事務局の呼び掛けに対して、協調した市町村の地域の選りすぐりの特産品を著名人に送付することができた。 		
7月			<ul style="list-style-type: none"> PR・地域連携部会で講師に高知をPRしてもらう仕組みについて検討(7/8) 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村担当者あてにウェルカムパーティー、講師控え室、謝礼箱、物産展においてPRしたい物産がないかアンケート調査を実施(7/22 ㊦8/3) 			
8月	<ul style="list-style-type: none"> ウェルカムパーティーなどにおける高知資源(文化、食、物産等)PRに向けた市町村との調整 「オープンカレッジin高知」実施プログラム決定 プレス発表 次年度のエンジン02の高知での開催について、関係機関で協議(知恵出し、意識合わせなど) 		<ul style="list-style-type: none"> 23市町村からPRしたい具体的な物産の希望があった。引き続き、地域支援企画員等を通じて市町村に物産のPRについて働きかけを実施 PR・地域連携部会で講師に高知をPRしてもらう仕組みについて検討(8/5) →エンジン01終了後、「土佐のおきやく」に引き継いで行くことを検討 ウェルカムパーティーについて関係者打ち合わせ(8/28) 	<ul style="list-style-type: none"> このアンケート調査の結果が出発点。これを足掛かりに本番までPRする地域の物産の内容、品数を充実させていく。 今後、エンジン01終了後のあり方について、「土佐のおきやく」を軸に今後検討を進めていくこととなった。 			
9月			<ul style="list-style-type: none"> PR・地域連携部会で講師に高知をPRしてもらう仕組みについて検討(9/2) 「オープンカレッジin高知」実施プログラム決定プレス発表(9/27) 				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(G)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月				・PR・地域連携部会で講師に高知をPRしてもらう仕組みの詰め(10/7)			
11月	・エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジin高知」の開催 ウェルカムパーティー、シンポジウム、約40～60コマの講座、約20コマの夜楽等(11/27～29) ・ウェルカムパーティー等での各講師(著名人)への高知の観光資源(文化、食、物産等)の売り込み、関係づくり	・開催期間中における高知の良さ、いいところの効果的な演出。 ・どれだけ各講師(著名人)に高知のファンになってもらえるか。(次年度以降につなげていくために) ・各市町村、地域物産等の担当者と各著名人間の交渉が円滑に進むための事務局のサポート		・PR・地域連携部会で講師に高知をPRしてもらう仕組みの最終打ち合わせ(11/4) ・エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジin高知」の開催 ウェルカムパーティー、シンポジウム、約50コマの講座、25コマの夜楽等(11/27～29) ・ウェルカムパーティー等での各講師(著名人)への高知の観光資源(文化、食、物産等)の売り込み、関係づくり	・大盛況のうちエンジン01高知大会終了。 ・ウェルカムパーティー等で市町村又は民間企業と全国の著名人がつながるきっかけを設定した。後は、市町村又は民間企業のやる気次第。		
12月	・各講師(著名人)のブログに高知の地域物産等についての書き込み ・地域物産等ごとに各講師(著名人)と連携し、全国へ情報発信 ・次年度のエンジン02の高知での開催について、関係機関で協議(関係機関での合意形成、財源対策に向けて作業開始) ・次年度のエンジン02開催に向けた準備作業	・必要により、地域物産等ごとに新たに地域アクションプランに盛り込んだり、支援チームを立ち上げる必要がある。 ・次年度のエンジン02の高知での開催に向けて関係者間で財源対策も含めて道筋をつけておく。規模的には、今年度と比べて大幅に縮小せざるを得ないか。継続していくことを第一に身の丈にあった規模、実施体制について要検討。		・各講師(著名人)のブログに高知の地域物産等についての書き込み ・地域物産等ごとに各講師(著名人)と連携し、全国へ情報発信 ・次年度のエンジン02の高知での開催について、関係機関で協議(関係機関での合意形成、財源対策に向けて作業開始) ・次年度のエンジン02開催に向けた準備作業			
1月							
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
33 「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大 ・「エンジン01オープンカレッジin高知」を観光振興の絶好の機会としてとらえ、「エンジン01」会員への高知の魅力のアピールを通じて、県外観光客の誘致につなげる。	著名人にどれだけ高知県の地場産品のファンになってもらい、PRに役買ってもらえるかは、各市町村のアプローチ、やる気次第。	・【高知県】開催事業費負担金 4,000千円 ・【高知市】開催事業費負担金 8,000千円 ・【(財)高知県市町村振興協会】助成金 5,000千円 ・【文化庁】助成金(ミュージカル) 19,000千円 ・エンジン01文化戦略会議「オープンカレッジin高知」の開催 ウェルカムパーティーの開催(「土佐の料理传承人」128団体協力) ふるさと市の開催(28小間) 夜楽の開催(25教室) 大小約50の講座の開催など ・陣中見舞いの送付	・プレオープニングシンポジウム(11/26):参加者450人 ・オープニングシンポジウム(11/27):参加者900人 ・ウェルカムパーティー(11/27):参加者300人 ・教室・ワークショップ40講座(11/28):参加者7,250人 ・特別教室3講座(11/28):参加者3,080人 ・夜楽25教室(11/28):参加者1,032人 ・クローキングシンポジウム(11/29)(PART1,2):参加者1,400人 ・ミュージカル(11/29):参加者1,052人 ・各界の著名人約120名出席 ・高知県観光大使23名就任 ・林真理子氏など著名人がブログ等でエンジン01及び高知県について情報発信	・高知商工会議所青年部や(社)高知青年会議所のスタッフは、今回の大会運営を通じて、今回高知を訪れた著名人と関係を築くことができた。 土佐のおきやくの食談に今回訪れた著名人に出席してもらおう交渉中。 ・ウェルカムパーティーには、市町村長も出席しており、出席した著名人に地元市町村をアピールする姿も見られた。	観光客の入込み数300万人(H19 230万人)

地域	高知市	項目	34 温泉開発による観光地としての魅力の向上			
事業概要	観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。			事業主体	高知市旅館ホテル協同組合	
主な内容	◆温泉の開発と活用		地域AP掲載ページ	74~75	指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)
					目標値 (H23)	300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月							
5月							
6月	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施主体である高知市旅館ホテル協同組合と高知市観光課等関係機関が実施に向けた協議(新たに泉源を掘削するのか、今ある泉源を活用する方法で可能なのか、費用負担の方法など) 			<ul style="list-style-type: none"> 第1回観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会開催(高知市旅館ホテル温泉協同組合主催)(6/18) →高知市中心部における「温泉観光地化」に向け、高知県中小企業団体中央会の補助事業を活用しての設備資金計画策定、源泉配送方法の確立・コスト試算等について検討 			
7月				<ul style="list-style-type: none"> 温泉設備導入についての調査研究、基本計画策定委託 第2回観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会開催(7/21) →源泉配湯方式に関するコスト試算、視察研修について検討 県外先進地視察(7/28~29) 			
8月				<ul style="list-style-type: none"> 第3回観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会開催(8/17) 			
9月				<ul style="list-style-type: none"> 第4回観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会開催(9/11) 			

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載方法等	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
10月	<p>・検討結果により、事業実施のためのスケジュール、費用負担計画を作成</p> <p>↓</p> <p>・事業実施に向けた作業</p>			<p>・第5回観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会開催(10/15)</p>		<p>↓</p> <p>・温泉設備導入についての調査研究、基本計画策定委託完了</p> <p>・調査報告書に基づき事業実施の可否について検討の詰め及び準備作業</p>	
11月				<p>・観光開発ビジョン策定プロジェクト報告会開催(11/6) →温泉水確保については既存施設利用、配湯手段はタンクローリー利用が最も経済的かつ合理的</p>			
12月				<p>・高知市へ「温泉を核とした共同事業開発に関する基本調査・計画報告書」の作成について報告(11/27)</p> <p>・事業実施に向けて、スケジュール策定、費用負担等について詰めの検討作業</p> <p>↓</p>			
1月							
2月							
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
34 温泉開発による観光地としての魅力の向上 ・観光目的として非常にニーズが高い、温泉を開発することにより、観光客の増加につなげる。	・観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会が策定した「温泉を核とした共同事業開発に関する基本調査・計画報告書」により、高知市中心部における温泉観光地化のための温泉水確保については、既存施設利用、配湯手段タンクローリー利用が最も経済的かつ合理的であるという結果が出された。については、この結果に基づき、実行に向けた検討を関係者が進める必要がある。	・高知県中小企業団体中央会の補助事業を活用して高知市中心部における温泉観光地化に向けた計画の策定を行った。 ・観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会の開催(5回)	・「温泉を核とした共同事業開発に関する基本調査・計画報告書」の策定	・「温泉を核とした共同事業開発に関する基本調査・計画報告書」ができたことにより、今後は具体的な事業計画策定段階に移行する。	観光客の入込み数300万人(H19 230万人)

地域	高知市	項目	35 「龍馬伝」を契機とした観光の振興			
事業概要	坂本龍馬の志や生き様に触れようと、全国から数多くの龍馬ファンや観光客が訪れる中で、2010年のNHKの大河ドラマ「龍馬伝」を契機として、さらなる観光振興につなげる。			事業主体	高知市、NPO	
主な内容	◆龍馬の新たな魅力づくりと観光客の受入体制の充実	地域AP掲載ページ	74~75	指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)	目標値 (H23) 300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する		記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
4月							
5月	・坂本龍馬ゆかりの史跡巡りを中心に新たなまち歩きコースを土佐観光ガイドボランティア協会を中心に設定予定			・坂本龍馬ゆかりの史跡巡りを中心に新たなまち歩きコースを土佐観光ガイドボランティア協会を中心に設定に着手			
6月	・高知市観光遊覧船の運営態勢の強化			・高知市観光遊覧船の運営態勢の強化 (団体客に対応するため3艘目の船の購入を検討)			
7月							
8月	・新たに設定したまち歩きコースを盛り込んだマップの作成			・新たに設定したまち歩きコースを盛り込んだマップの作成 ・高知県産業振興推進総合支援事業費補助金計画書(高知市観光遊覧船の態勢強化(3艘目の購入等))を提出(8/31) ・新たなまち歩きコースのマップ完成(8/31)			
9月				・高知県産業振興推進総合支援事業費補助金審査会で計画書について審査・事業採択(9/24)			

地域	高知市	項目	36 アユ群れる清流鏡川などの天然素材を活かした観光客の誘致			
事業概要	鏡川での天然アユ遡上100万尾の実現によるイメージアップを活かして、多様なニューツーリズムを展開する。			事業主体	高知市	
主な内容	◆鏡川や浦戸湾でのエコ体験と地場産品を楽しむエコツアーの実施	地域AP掲載ページ	74~75	指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)	目標値 (H23) 300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	内容 記載方法等	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
4月	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画		記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等
5月							
6月							
7月							
8月	「源流エコツアー」の実施 (8月~9月の間に1回実施予定)			「漁業体験エコツアーin浦戸湾」の実施(8/23) 対象:主に教員等の児童生徒の引率者など20名 (実績:21名)	高知市観光課及び高知市観光協会の職員も参加。漁業体験について観光資源としての可能性を探った。素材としては、申し分ない。		
9月	「漁業体験モニター事業」の実施 (9月~10月の間に1回実施予定)						

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中に計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月	鏡川河口域のアユ生態調査について委託契約 「親子エコツアー」の実施 (10月15日前後に1回実施予定)		鏡川河口域のアユ生態調査について委託契約(10/8) 鏡川河口域のアユの生態調査の実施 「まるごと体験！鏡川！(親子エコツアー)」の実施(10月18日) 対象:小学生とその保護者40名程度(実績:46名)	参加者の募集を開始してすぐ定員に達した。鏡川への市民の意識の高さについて手ごたえが感じられた。	鏡川河口域のアユ生態調査について委託契約 「親子エコツアー」の実施 (10月18日(日)に実施予定)		
11月	鏡川河口域のアユの生態調査の実施 次年度以降の展開に向けて検討		次年度以降の展開に向けて検討		鏡川河口域のアユの生態調査の実施 次年度以降の展開に向けて検討		
12月			「わくわく源流体験(源流エコツアー)」の実施(12/6) 対象:小学生23人		「源流エコツアー」の実施 (11月下旬～12月上旬の間に1回実施予定)		
1月							
2月							
3月	天然アユの成長の阻害要因を取り除くための方策について検討				天然アユの成長の阻害要因を取り除くための方策について検討		

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
36 アユ群れる清流鏡川などの天然素材を活かした観光客の誘致 鏡川での天然アユ遡上100万尾の実現によるイメージアップを活かして、多様なニューツーリズムを展開する。	・今年度は、高知市環境保全課が主導で事業を進めているが、浦戸湾での漁業体験、鏡川での環境学習を参加費をとって客の呼べる体験プログラムに磨き上げるためには、観光サイド又は一次産業部門のセクションが中心になって事業を進める必要がある。 ・環境部門のセクションが主体となって事業を続ける限り、次のステップに進むことは困難。	・国からの「地方の元気再生事業」の委託事業 ・鏡川河口域のアユの生態調査の実施 ・「漁業体験エコツアーin浦戸湾」の実施 ・「まるごと体験！鏡川！」の実施 ・「わくわく源流体験」の実施	・「漁業体験エコツアーin浦戸湾」の参加者21名 ・「まるごと体験！鏡川！」の参加者46名 ・「わくわく源流体験」の参加者32名	・浦戸湾、鏡川、菖蒲洞など高知市の自然を活かした体験プログラムの枠組みができた。	観光客の入込み数300万人(H19 230万人)

地域	高知市	項目	37 食による観光の推進と地域物産との連携 2-1	事業主体	高知市
事業概要	高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。併せて再生可能な間伐材を利用したお箸(仮称はりまや箸)を製作し、観光客にお土産として持ち帰っていただき、環境にやさしい高知をPRすることを検討する。			指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)
主な内容	◆地域物産の活用と名産品の育成	地域AP掲載ページ	74~75	目標値 (H23)	300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
	内容	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 年度当初 記載内容: 実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期: 四半期毎 記載内容: SWIHの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期: 四半期毎 記載内容: 実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期: 変更計画の策定後 記載内容: 変更計画を実行するにあたり、想定される課題等
4月						
5月	・「世界に通用する土佐の食文化と食ビジネスの創造」を理念とするNPO法人高知の食を考える会との協働により、高知の食材を使用した新しい名物料理の創出に取り組む。		・NPO法人高知の食を考える会に協働した事業の実施について依頼→承諾(5/12) ※国の地方の元気再生事業の活用			
6月	・検討会開催(今後の活動方針を協議)		・当事業と協働して事業を実施する県産品ブランド化プロジェクト委員会開催(NPO法人高知の食を考える会)(5/28)			
7月	・新名物料理アイデア募集		・新名物料理アイデア募集(7/25~9/30) 「高知日級グルメ雑新! テーマ: 高知の名物種、名物井」高知が誇る以下の食材を1種類以上使用した種類又は井を募集 (ニラ、ナス、しょうが、みょうが、ししとう、ゆず、シラス)			
8月	↓ ・募集〆切					
9月	・コンテスト実施		↓ ・募集〆切(9/30) 応募作品108点			

月	計画(P)		実行(D)	評価(O)	改善(A)		
	内容	実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するにあたり、想定される課題等	
10月	・優秀賞の選定、試作		・書類審査				
11月	↓ 新名物料理の周知 ・提供店舗マップ作成、のぼり旗作成、県内及び県外向けメディア展開、誘客促進のためのPR		↓ ・最終審査・グランプリの決定(11/21) グランプリ(井部門)「なるこ井」、めん部門「しらすラーメン」				
12月			↓ 新名物料理の周知 ・提供店舗マップ作成、のぼり旗作成、県内及び県外向けメディア展開、誘客促進のためのPR				
1月	・新名物料理お披露目イベント ・新名物料理販売開始						
2月	・観光びらきでコンテスト入賞作品の紹介、試食						
3月							

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
37 食による観光の推進と地域物産との連携 2-1 ・高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。	・今回グランプリで選んだ料理をどれだけ多くの協力店が販売し、関係機関がPRし、名物料理まで育てることができるか関係者の協力が不可欠。	・国からの「地方の元気再生事業」の委託事業 ・新名物料理アイデア募集(7/25~9/30) 「高知B級グルメ維新! テーマ:高知の名物麺、名物丼」高知が誇る以下の食材を1種類以上使用した麺類又は丼を募集(ニラ、ナス、しょうが、みょうが、ししとう、ゆず、シラス)	・応募作品108点 ・グランプリ2点(井部門)「なるこ井」、めん部門「しらすラーメン」	・高知県の食材を活かした一押しの日級グルメメニューを選ぶことができた。	観光客の入込み数300万人 (H19 230万人)

地域	高知市	項目	37 食による観光の推進と地域物産との連携 2-2					
事業概要	高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。併せて再生可能な間伐材を利用したお箸(仮称はりまや箸)を製作し、観光客にお土産として持ち帰っていただき、環境にやさしい高知をPRすることを検討する。			事業主体	はりまや橋商店街振興組合			
主な内容	◆地域物産の活用と名産品の育成		地域AP掲載ページ	74~75	指標	観光客の入込み者数 (H19 230万人)	目標値 (H23)	300万人

実行支援チーム長	
所属	観光政策課
氏名(連絡先)	別府 誠 (823-9606)

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:SWIHLの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
4月	・はりまやはし(県外産)発注 ・はりまやはし(県内産)試作品製作依頼	・県内産製作先が別の商品製作に忙殺され、製作に時間がかかる。	はりまやはし(県外産)発注 はりまやはし(県内産)試作品製作依頼				
5月							
6月	・はりまやはし(県外産)製作・商品化		・はりまやはし(県外産)製作・商品化				
7月	・はりまやはし(県外産)販売開始		・はりまやはし(県外産)販売開始				
8月	・はりまやはし(県内産)試作品完成						
9月	・はりまやはし(県内産)製作・商品化・販売		・はりまやはし(県内産)試作品完成(初旬) ①嶺北スギ産 ②土佐・ヒノキ産 ③箸袋 土佐つむぎ ④箸袋 不織布製				

月	内容	計画(P)		実行(D)	評価(C)	改善(A)	
		実施計画	実施上の課題等	実施計画に対する実績	実施後の分析、検証	変更計画	実施上の課題
	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:年度当初 記載内容:実施計画を実施するにあたり、想定される課題等 ※年度途中で計画を変更(修正)する場合は、変更計画欄に記載する	記載時期:四半期毎 記載内容:実施計画に対する実施状況(実績等)	記載時期:四半期毎 記載内容:5W1Hの視点で実施後の分析、検証結果	記載時期:四半期毎 記載内容:実施後の分析、検証結果を基に必要に応じて変更した実施計画	記載時期:変更計画の策定後 記載内容:変更計画を実行するに当たり、想定される課題等	
10月							
11月			・はりまやはし(県内産)セット完成(100) 箸:県内産スギ、箸袋:土佐つむぎ 併せて箸は県外産、箸袋は県内産のセットも売り出ししていく	・今後見込まれる大受注に対応できない。(県内産箸製造業者は、100膳製作するのに4週間かかる。)			
12月							
1月							
2月						県外業者の工場視察(県内産材を使用しての加工の可能性等)	
3月							

はりまやはし(県内産)商品の内容最終確認

地域アクションプランの取り組み状況と成果

項目名及び事業概要	主な課題	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉	アウトプット(結果) 〈インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと〉	アウトカム(成果) 〈アウトプット(結果)等を通じて生じるプラスの変化を示すこと〉	目標(H23)
37 食による観光の推進と地域物産との連携 2-2 高知の強みである「食」を活かした観光と地域物産との連携により、観光客の誘致や観光消費額の増加につなげる。併せて再生可能な間伐材を利用したお箸(仮称はりまや箸)を製作し、観光客にお土産として持ち帰っていただき、環境にやさしい高知をPRすることを検討する。	◆地域物産の活用と名産品の育成	・はりまやはし(県内産)セット検討	・はりまやはし(県内産)セット完成 すべて高知産であり、高知発の新しいお土産品として期待できる。		観光客の入込み数 300万人